

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	地域ぐるみで働き方を見直す体制の推進						施策番号			
							I-1-(1)-①			
<b>コスト</b>	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	1,980 千円	(備考)	担当局	子ども家庭局		
	7,667 千円	9,672 千円		課長	0 人		職員	0.1 人	担当課	男女共同参画推進課
				係長	0.1 人				課長名	坂井

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	誰もが多様な働き方や生き方が選択でき、活力ある豊かな社会を実現するため、企業・働く人・市民・行政で構成された「北九州市ワーク・ライフ・バランス推進協議会」を運営し、市民や企業等に対してワーク・ライフ・バランスの理解促進のための啓発事業等を行います。				<b>成果実績</b>	男女共同参画社会に関する調査(平成23年度)において、ワーク・ライフ・バランスという言葉の認知度が64%となりました。		
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】			
	子育て中の労働者で仕事と生活の両立が図られていると感じる人の割合	32.9 %	増加	30.3 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック			
	仕事と生活のバランスについて、「希望」と「現実」が一致している人が少なく、保護者が望むワーク・ライフ・バランスが実現していないことから成果指標として掲げました。最終目標は、「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 増加(26年度)			-					
	子育て中の労働者で週労働時間60時間以上の雇用者の割合	32.2 %	減少	29.0 %		順調			
子どもと向き合う時間をとれるようにするとともに、子どもの病気など生活上必要なときに対応できるようにするためには、長時間労働の解消が必要であることから成果指標として掲げました。最終目標は、「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 減少(26年度)	-								

<b>活動計画</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「北九州市ワーク・ライフ・バランス推進協議会」の開催(市が直接実施)</li> <li>・従業員向け広報啓発や、父子ふれあい体験の実施などによる個人(家庭)に対する働きかけ(一部委託)</li> <li>・ワーク・ライフ・バランス推進キャンペーンの実施などによる広報啓発事業(一部委託) など</li> </ul>						<b>活動実績</b>	活動の状況は、下記のとおりです。		
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】				
	「北九州市ワーク・ライフ・バランス推進協議会」の開催回数	3 回	3 回	3 回	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック				
	企業、働く人、市民、行政で構成された「北九州市ワーク・ライフ・バランス推進協議会」を運営し、本市におけるワーク・ライフ・バランスの推進施策について協議するとともに、啓発事業を実施します。			100.0 %						
	ワーク・ライフ・バランス推進キャンペーン協賛事業のうち学校開放週間参加者数	84,672 人	増加	91,067 人		順調				
11月の推進キャンペーン期間に協賛事業として実施される学校開放週間への参加を促進し、ワーク・ライフ・バランスの推進をPRします。	-									

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	「北九州市ワーク・ライフ・バランス推進協議会」を開催して、各構成機関で情報を共有しました。11月の推進キャンペーンでは、「ワーク・ライフ・バランス応援ソング」等を通じてPRを行うなど、活動状況は概ね予定どおり進みました。上記成果実績のとおり、ワーク・ライフ・バランスという「言葉」は市民に浸透してきましたが、その「内容」について知らない人の割合も62.3%となっており、さらに理解を進める必要があります。
	<b>「経済性」</b> <b>「効率性」</b> の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	行政が単独で実施するのではなく、「北九州市ワーク・ライフ・バランス推進協議会」を中心として、企業・働く人・市民・行政が連携・協働して取り組むことにより、効率的に、それぞれの立場から、地域や個人(家庭)、企業等に直接働きかけています。

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題 上記成果実績のとおり、ワーク・ライフ・バランスという「言葉」は市民に浸透してきましたが、その「内容」について知らない人の割合が62.3%となっており、成果指標の目標達成のため、市民等の理解をさらに進める必要があります。	その結果目指す成果(次年度の成果目標) 子育て中の労働者で仕事と生活の両立が図られていると感じる人の割合の増加等を目指し、ワーク・ライフ・バランスのさらなる浸透を図ります。
	次年度の活動計画(見直し内容) 「北九州市ワーク・ライフ・バランス推進協議会」を中心に、関係機関がさらに連携・協働して、推進キャンペーンやホームページでの広報啓発などに取り組み、地域や個人(家庭)、企業等に直接働きかけてPRしていきます。	

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	企業等におけるワーク・ライフ・バランス推進の支援						施策番号
							I-1-(1)-①
<b>コスト</b>	事業費	平成23年度執行額 7,218 千円	平成24年度当初予算額 8,072 千円	人件費 の目安	金額 2,095 千円 (備考)	担当局	子ども家庭局
					課長 0 人 職員 0.1 人	担当課	男女共同参画推進課
					係長 0.1 人	課長名	坂井

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	誰もが多様な働き方や生き方が選択でき、活力ある豊かな社会を実現するため、企業・働く人・市民・行政で構成された「北九州市ワーク・ライフ・バランス推進協議会」を中心に、ワーク・ライフ・バランスの推進に向けた企業等の取組支援や啓発事業等を行います。	<b>成果実績</b>	男女共同参画社会に関する調査(平成23年度)において、ワーク・ライフ・バランスという言葉の認知度が64%となりました。
-----------	---------------------	---	-------------	---

	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
<b>代表的な成果指標</b>	子育て中の労働者で仕事と生活の両立が図られていると感じる人の割合	32.9 %	増加	30.3 %		代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	仕事と生活のバランスについて、「希望」と「現実」が一致している人が少なく、保護者が望むワーク・ライフ・バランスが実現していないことから成果指標として掲げました。最終目標は、「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 増加(26年度)			-		
	子育て中の労働者で週労働時間60時間以上の雇用者の割合	32.2 %	減少	29.0 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調
	子どもと向き合う時間をとれるようにするとともに、子どもの病気など生活上必要などときに対応できるようにするためには、長時間労働の解消が必要であることから成果指標として掲げました。最終目標は、「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 減少(26年度)			-		

<b>活動計画</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業向け講演会の開催や、アドバイザー派遣などによる企業等に対する働きかけ(一部委託)</li> <li>・従業員向け広報啓発や、出前育児講座の実施などによる個人(家庭)に対する働きかけ(一部委託)</li> <li>・ワーク・ライフ・バランス推進キャンペーンの実施などによる広報啓発事業(一部委託) など</li> </ul>	<b>活動実績</b>	活動の状況は、下記のとおりです。
-------------	---	-------------	------------------

	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
<b>活動指標</b>	北九州市ワーク・ライフ・バランス表彰受賞者数	5 社 (人)	同程度	5 社 (人)		活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	ワーク・ライフ・バランスに積極的に取り組んでいる企業等を表彰し、事例集等で広く紹介することにより、企業等における取り組みを支援・促進します。			-		
	北九州市ワーク・ライフ・バランス推進アドバイザー派遣回数	15 回	同程度	11 回	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調
	新たにワーク・ライフ・バランスに取り組もうとする事業所等や、その充実を図ろうとする事業所等に対し、アドバイザー(社会保険労務士)を派遣して、その取り組みを支援・促進します。			-		

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析</p> <p>活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。</p>	<p>「北九州市ワーク・ライフ・バランス推進協議会」を中心として、11月の推進キャンペーンでは、企業向け講演会や「ワーク・ライフ・バランス応援ソング」等を通じてPRを行うなど、活動状況は概ね予定どおり進みました。上記成果実績のとおり、ワーク・ライフ・バランスという「言葉」は市民に浸透してきましたが、その「内容」について知らない人の割合も62.3%となっており、さらに理解を進める必要があります。</p>
	<p>「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。</p>	<p>行政が単独で実施するのではなく、「北九州市ワーク・ライフ・バランス推進協議会」を中心として、企業・働く人・市民・行政が連携・協働して取り組むことにより、効率的に、それぞれの立場から、地域や個人(家庭)、企業等に直接働きかけています。</p>

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	<p>課題</p> <p>上記成果実績のとおり、ワーク・ライフ・バランスという「言葉」は市民に浸透してきましたが、その「内容」について知らない人の割合が62.3%となっており、成果指標の目標達成のため、市民等の理解をさらに進める必要があります。</p>	<p>その結果目指す成果(次年度の成果目標)</p>
	<p>次年度の活動計画(見直し内容)</p> <p>「北九州市ワーク・ライフ・バランス推進協議会」を中心に、関係機関がさらに連携・協働して、講演会の開催やアドバイザーの派遣等を実施し、企業等に直接働きかけて取り組みを支援していきます。</p>	<p>子育て中の労働者で仕事と生活の両立が図られていると感じる人の割合の増加等を目指し、ワーク・ライフ・バランスのさらなる浸透を図ります。</p>

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	子育て等家庭生活や地域活動における男性の参加促進							施策番号			
								I-1-(1)-①			
<b>コスト</b>	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	640 千円	(備考)	担当局	子ども家庭局		
		3,439 千円	2,954 千円		課長	0 人		職員	0 人	担当課	男女共同参画推進課
					係長	0 人				課長名	坂井

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたのか	子育て等の家庭生活において男女共同参画をさらに推進するため、男女共同参画センター・ムーブ及び勤労婦人センター・レディスにおいて、男性向け家事・子育て関連講座等を開催し、男性の家事・子育てなどへの参画を進めます。	<b>成果実績</b>	男女共同参画社会に関する調査(平成23年度)において、ワーク・ライフ・バランスという言葉の認知度が64%となりました。
-----------	--------------------	---	-------------	---

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	子育て中の労働者で仕事と生活の両立が図られていると感じる人の割合	仕事と生活のバランスについて、「希望」と「現実」が一致している人が少なく、保護者が望むワーク・ライフ・バランスが実現していないことから成果指標として掲げました。最終目標は、「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 増加(26年度)	32.9 %	増加	30.3 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ
子育て中の労働者で週労働時間60時間以上の雇用者の割合 子どもと向き合う時間をとれるようにするとともに、子どもの病気など生活上必要なときに対応できるようにするためには、長時間労働の解消が必要であることから成果指標として掲げました。最終目標は、「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 減少(26年度)		32.2 %	減少	29.0 %		

<b>活動計画</b>	男女共同参画センター・ムーブ及び勤労婦人センター・レディスにおいて、男性向け家事・子育て関連講座を開催し、男性の家事・子育てへの参画を進めます。(指定管理委託)	<b>活動実績</b>	活動の状況は、下記のとおりです。
-------------	--	-------------	------------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	ムーブ及びレディスでの男性向け家事・子育て関連講座開催数	ムーブ及びレディスでの男性向け家事・子育て関連講座開催数	14 講座	増加	16 講座	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ
男性の家事・子育て活動への参画を進めるため、ムーブ及びレディスにおいて男性向け家事・子育て関連講座を開催します。		—				
ムーブ及びレディスでの男性向け家事・子育て関連講座参加者数	ムーブ及びレディスでの男性向け家事・子育て関連講座参加者数	407 人	同程度	623 人	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調
	男性の家事・子育てや地域活動への参画を進めるため、ムーブ及びレディスにおいて男性向け家事・子育て関連講座を開催します。			—		

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。  家庭生活への男性の参加促進のために、「介護入門講座」や「父と子の食育講座」などを実施し、知識と実技を習得してもらうことが出来ました。成果実績のとおり、ワーク・ライフ・バランスという言葉が浸透してきたなどの成果もあらわれています。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」 「同じコストでより高い成果を」 得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。  ムーブ及びレディスの運営については指定管理者制度を導入し、効率的な事業実施に努めています。

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題 社会経済の動向や市民のニーズを把握し、今伝えるべき内容を見極め、効果的な講座を企画・開催することが課題であると考えます。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	ムーブとレディスもじ、レディスやはたが一体となり、効率的かつ効果的に、魅力ある男性向け家事・子育て関連講座を開催します。	男性の家事・子育てなどへの参画を図るため、男性の興味・関心を引く創意工夫をした講座を実施し、家庭生活における男女共同参画を推進します。

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	保育カウンセラー事業						施策番号
							I-1-(1)-①
<b>コスト</b>	事業費	平成23年度執行額 1,426 千円	平成24年度当初予算額 1,584 千円	人件費の目安	金額 5,300 千円 (備考)	担当局	子ども家庭局
					課長 0.2 人 職員 0.4 人	担当課	保育課
					係長 0 人	課長名	重谷

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	虐待等が疑われる子どもや、その保護者に対応する保育所の保育指導や相談機能の強化、家庭保育力の向上を図るため、対象の保育所に訪問し、対象児の観察、保育所職員のカウンセリング等を行います。	<b>成果実績</b>	虐待の疑われる子どもやその保護者に対応する保育所を訪問し、前年度を上回る件数の事例について、保育所への助言、指導等を通し保育所の負担軽減を行いました。
-----------	---------------------	--	-------------	---

	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
<b>代表的な成果指標</b>	保育所に対する満足度(保育内容)	91.1 %	向上	81.0 %		代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	保育の質の向上、多様なニーズに対応した特別保育の充実などの取り組みによる成果を示す指標として掲げました。最終目標は、「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 向上(26年度)					
	(最終目標と目標年度)				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

<b>活動計画</b>	臨床心理士と保育課保育士が、虐待等が疑われる子どもや、その保護者に対応する保育所を訪問し、助言、指導等を実施します。	<b>活動実績</b>	活動結果は下記のとおりです。
-------------	--	-------------	----------------

	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
<b>活動指標</b>	臨床心理士と保育課保育士による保育所訪問等、保育所への対応の回数	93 回	100 回程度	99 回		活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	臨床心理士と保育課保育士が保育所を訪問し、虐待等の疑われる子どもの観察、指導・保育所職員のカウンセリング等を実施することが保育所の質の向上になるので指標として掲げました。			99.0 %		
					大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。  虐待の疑われる子どもやその保護者に対応する保育所(50か所)を訪問、99件の事例について保育所への助言、指導等を通し、虐待への意識の向上、保育所の負担軽減を行いました。また、訪問して一定期間後に電話連絡等のフォロー(47か所)を行い、継続した支援を行いました。
	<b>「経済性」</b> <b>「効率性」</b> の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。  保育カウンセラーの賃金は子ども総合センターの臨床心理士報酬費に基づき、金額を設定しています。カウンセリング等の専門的指導をする上で、これ以上のコスト削減は困難と考えます。

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題  臨床心理士と保育課保育士が保育所を訪問し、虐待等の疑われる子どもの観察、保育指導、助言、保育所職員のカウンセリング等を実施するなど支援を行っていますが、保育所訪問時、虐待についてだけでなく、発達障害等が疑われる「気になる子ども」についての相談も増加しています。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	引き続き、虐待等が疑われる子どもに対応する保育所を支援します。また、新たに、発達障害等が疑われる「気になる子ども」に対応する保育所へ保育観察、指導、助言等の支援も強化するため、予算を増額します。	保育所に対する満足度の向上を図ります。

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	研修内容の充実(保育所)						施策番号	
							I-1-(1)-①	
<b>コスト</b>	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	3,675 千円 (備考)	担当局	子ども家庭局
		4,511 千円	4,527 千円		課長	0.2 人 職員 0.1 人	担当課	保育課
					係長	0.1 人	課長名	河渕

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	施設長や保育士等の資質向上のため、北九州市社会福祉研修所の研修について、その効果を検証しながら内容等の検討を行い、一層の充実を図ります。具体的には相談技術、児童虐待問題、情報化や国際化等の研修を充実します。また、市内外で行われる専門研修に積極的に参加します。	<b>成果実績</b>	研修後の理解度アンケートでは、概ね8割の参加者が「理解できた」「概ね理解できた」としており、そのほとんどが研修内容を保育の現場で活かしたいとしています。
-----------	---------------------	---	-------------	--

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
		保育所に対する満足度(保育内容) 保育の質の向上、多様なニーズに対応した特別保育の充実などの取り組みによる成果を示す指標として掲げました。最終目標は、「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 向上(26年度)	91.1 %	向上	81.0 %	
	(最終目標と目標年度)					順調

<b>活動計画</b>	実施計画17項目(新任・中堅・主任級研修や課題別(言葉・表現・健康)研修、保育ゼミナール、乳児保育、統合保育、カウンセリング研修、心理学施設長研修等) 延べ日数108日、 参加人数2,300名実施	<b>活動実績</b>	活動結果は下記のとおりです。
-------------	--	-------------	----------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
		施設長や保育士等の研修の実施 計画した17項目の研修を年度内に履修します。	108 日	108 日	108 日 100.0 %	
						順調

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。  計画した17項目(延べ日数108日 参加人数2,300名)の研修を年度内に履修しました。
	<b>「経済性」</b> <b>「効率性」</b> の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。  北九州市福祉事業団に委託された社会福祉研修所は、長年の実績があり優れた研修のノウハウを持っています。同コストで今まで以上の研修を企画・実施することは困難と考えます。

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題  計画する17項目の研修ごとにニーズに対応した研修内容を見直す必要があると考えます。	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	次年度の活動計画(見直し内容)	保育の質の向上を図ります。
	事業費は現状を維持しながら、研修生のアンケートを基に、プログラムの改編、講師の変更を実施し、研修内容の充実を図ります。	

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	認可外保育施設研修代替職員費補助						施策番号
							I-1-(1)-①
<b>コスト</b>	事業費	平成23年度執行額 119 千円	平成24年度当初予算額 159 千円	人件費 の目安	金額 1,165 千円 (備考)	担当局	子ども家庭局
					課長 0 人 職員 0.1 人	担当課	保育課
					係長 0 人	課長名	武田

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたのか	北九州市内に所在する認可外保育施設(届出対象施設)が市主催の研修に参加するために、代替職員を雇用した場合の経費の一部を補助することにより、認可外保育施設の職員の資質向上及び入所児童の処遇向上を目指します。	<b>成果実績</b>	認可外保育施設(届出対象施設)のうち、「認可外保育施設指導監督基準を満たす旨の証明書」交付の施設数の割合は、88.6%です。
-----------	--------------------	--	-------------	--

	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
<b>代表的な成果指標</b>	保育の質の向上		向上			代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	安全や人権等の保育の基礎に関する研修を実施するとともにその参加を促進することにより、認可外保育施設の職員の資質向上及び入所児童の処遇向上を図ります。 (最終目標と目標年度)					
	(最終目標と目標年度)				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

<b>活動計画</b>	北九州市内に所在する認可外保育施設(届出対象施設)が市主催の研修に参加するために、代替職員を雇用した場合の経費の一部を補助することにより、認可外保育施設の職員の資質向上及び入所児童の処遇向上を目指します。	<b>活動実績</b>	活動結果は下記のとおりです。
-------------	--	-------------	----------------

	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
<b>活動指標</b>	研修に参加した認可外保育施設		35 施設	32 施設		活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	施設における安全保育や子どもの人権、保育技術等の研修、感染症等の最新の情報を盛り込んだ研修会へ参加することで、職員の資質向上を図ります。	28 / 31 施設 (90.3%)		91.4 %		
					大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	対象施設35施設中、32施設が研修に参加しました。 23.7.28 33施設中27施設参加(38人) 23.12.11 34施設中15施設参加(23人) 22.12.15 34施設中15施設参加(15人) 23.2.6・9 35施設中27施設参加(57人) 本事業は、認可外保育施設に従事する職員の資質向上および入所児童の処遇向上を図るものであり、ニーズが高く、その有効性は高いと考えます。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	民間保育所運営補助金における職員代替に係る経費から積算(有資格者3,605円、無資格者3,065円)。雇用に係る経費の一部補助であるため、これ以上補助額を下げると、代替職員の雇用ができず、研修への参加を断念する施設が増えるおそれがあります。

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題	
	引き続き、施設職員の研修参加を促進することにより、職員の資質向上及び入所児童の処遇向上を図ります。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	引き続き、施設職員の研修参加を促進するため補助事業を行います。(事業費は、「現状維持」)	職員の資質向上及び入所児童の処遇向上を図ります。

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	保育指導専門員の配置						施策番号
							I-1-(1)-①
<b>コスト</b>	事業費	平成23年度執行額 6,162 千円	平成24年度当初予算額 7,018 千円	人件費 の目安	金額 1,245 千円 (備考)	担当局	子ども家庭局
					課長 0 人 職員 0.1 人	担当課	保育課
					係長 0 人	課長名	武田

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたのか	認可外保育施設の指導監督を強化するため、認可保育所の所長経験者2名を保育課に配置し、きめ細やかな指導を行い、施設や職員の資質向上及び入所児童の処遇向上を目指します。	<b>成果実績</b>	認可外保育施設(届出対象施設)のうち、「認可外保育施設指導監督基準を満たす旨の証明書」交付の施設数の割合は、88.6%です。
-----------	--------------------	--	-------------	--

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
		保育の質の向上  安全や人権等の保育の基礎に関する研修の実施や施設の立入調査を行うなど、施設や職員の資質向上及び入所児童の処遇向上を図ります。  (最終目標と目標年度)		向上		
	(最終目標と目標年度)					

<b>活動計画</b>	認可外保育施設の指導監督を強化するため、認可保育所の所長経験者2名を保育課に配置し、きめ細やかな指導を行い、施設や職員の資質向上及び入所児童の処遇向上を目指します。	<b>活動実績</b>	活動結果は下記のとおりです。
-------------	--	-------------	----------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
		保育指導専門員の配置数  認可保育所の所長経験者を2名配置し、きめ細やかな指導を継続します。  認可外保育施設への立入調査の実施  認可外保育施設(届出対象施設全て)に立入調査を行い、指導監督を行います。	2 名	2 名	2 名 100.0 %	
		31/31 施設 (100%)	35 施設	35 施設 100.0 %		

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。  認可保育所の所長経験者を2名配置し、きめ細やかな指導を継続しました。届出対象認可外保育施設に対し、立入調査など必要な助言及び指導を実施しました。本事業は、認可外保育施設に対する指導監督を強化するため、平成23年度においては保育指導専門員を配置し、きめ細やかな指導を行ったものであり、その有効性は高いと考えます。  「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。  現在の指導専門員は、嘱託員であり、経済性や効率性も重視した雇用形態としています。
------------------	---	---

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題	引き続き、保育指導専門員を配置することにより、研修の実施や施設の立入調査を行うなど、施設や職員の資質向上及び入所児童の処遇向上を図ります。
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	引き続き、保育指導専門員を配置することにより、施設や職員の資質向上及び入所児童の処遇向上を図ります。(事業費は、「現状維持」)	施設や職員の資質向上及び入所児童の処遇向上を図ります、

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	延長保育事業						施策番号
							I-1-(1)-①
<b>コスト</b>	事業費	平成23年度執行額 828,114 千円	平成24年度当初予算額 825,625 千円	人件費の目安	金額 2,095 千円 (備考)	担当局	子ども家庭局
					課長 0 人 職員 0.1 人	担当課	保育課
					係長 0.1 人	課長名	武田

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたのか	保護者の就労形態の多様化や、残業等に伴う保育時間の延長への需要に対応するため、通常の保育時間を越えて、午後7時まで延長する「延長保育」の実施箇所数を拡充します。また地域の実状を踏まえ、子どもの生活リズムに配慮しながら、午後8時までの延長保育の実施を検討します。	<b>成果実績</b>	当初の計画通り、延長保育事業(1時間延長)の実施施設を2箇所拡充し、延べ利用児童数は、17,343人・月であり、多くの方々に利用されています。		
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	保育所に対する満足度(保育内容)	91.1 %	向上	81.0 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	保育の質の向上、多様なニーズに対応した特別保育の充実などの取り組みによる成果を示す指標として掲げました。最終目標は、「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 向上(26年度)					
(最終目標と目標年度)						

<b>活動計画</b>	延長保育事業を実施する保育所の施設数を拡充します。午後8時までの延長保育の実施について検討します。	<b>活動実績</b>	活動結果は下記のとおりです。			
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	延長保育事業を実施する保育所の施設数(午後7時まで)	141 所	143 所	143 所	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	保育所の新設や公立民営化に伴う延長保育事業の実施および既存保育所の新規実施により、実施施設数の増を図ります。 (最終目標と目標年度) 153箇所(平成26年度)			100.0 %		順調
延長保育事業を実施する保育所の施設数(午後8時まで) 午後8時までの延長保育の需要を鑑みながら、実施施設の検討を行います。 (最終目標と目標年度) 20箇所(平成26年度)						

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」 「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。  国が、補助基準額に準じて補助を設定しており、効果的に事業を実施しています。

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題 保護者の就労形態の多様化や、残業等に伴う保育時間の延長への需要に対応し、平成23年度は延長保育事業(1時間延長)の実施施設数を2所拡充しました。多様化する就労形態への対応として高い効果が得られています。また、午後8時までの延長保育について、実施の検討を行います。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	延長保育事業(1時間延長)を実施する保育所の施設数を増設するための予算を拡充します。午後8時までの延長保育の実施に向けた準備を進めます。	保育所に対する満足度の向上を図ります。

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	夜間(長時間)保育事業						施策番号
							I-1-(1)-①
<b>コスト</b>	事業費	平成23年度執行額 9,897 千円	平成24年度当初予算額 12,238 千円	人件費 の目安	金額 715 千円 (備考)	担当局	子ども家庭局
				課長 0 人 職員 0 人		担当課	保育課
				係長 0 人		課長名	武田

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたのか	保護者の就労形態の多様化に伴い、夜間の保育需要に対応するため、午前7時から概ね深夜0時まで利用できる「夜間保育所」を1所開設しています。今後は利用者の動向を踏まえて入所定員の拡大を検討します。	<b>成果実績</b>	夜間保育事業の延べ利用児童数は、523人・月であり、現在の入所状況及び入所申込状況を考えると概ね順調に対応できています。
-----------	--------------------	--	-------------	--

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
		保育所に対する満足度(保育内容)  保育の質の向上、多様なニーズに対応した特別保育の充実などの取り組みによる成果を示す指標として掲げました。最終目標は、「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。  (最終目標と目標年度) 向上(26年度)	91.1 %	向上	81.0 %	

<b>活動計画</b>	現在の施設で事業を継続し利用者の動向をふまえて入所定員の拡大を検討します。	<b>活動実績</b>	活動結果は下記のとおりです。
-------------	---------------------------------------	-------------	----------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
		夜間保育事業を実施している保育所の現状維持  夜間保育事業の実施施設数については現状の体制の維持に努めます。 (最終目標と目標年度) 現状維持(平成26年度)	1 箇所	1 箇所	1 箇所 100.0 %	

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	現在の入所状況及び入所申込状況から考えると、現状1所に対応可能と思われます。平成23年度は延べ利用児童数は、523人・月であり、多様化する就労形態への対応として深夜にまで仕事が及ぶ保護者に高い効果があります。
	<b>「経済性」</b> <b>「効率性」</b> の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	国が示す補助基準額等に基づき補助を行っており、効果的に事業を実施しています。

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	<b>課題</b>  夜間保育事業については、午前7時から深夜0時まで利用できる「夜間保育所」を1所開設しています。現在の入所状況、及び入所申込状況を考えると概ね順調に対応できています。  次年度の活動計画(見直し内容)  現在の施設で事業を継続するとともに、引き続き、利用者の動向や市民ニーズの把握に努めます。 夜間保育所の実施施設数については、現状の体制の維持に努め、事業費についても現状を維持します。	その結果目指す成果(次年度の成果目標)  保育所に対する満足度の向上を図ります。
---------------	--	--

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	休日保育事業						施策番号		
							I-1-(1)-①		
<b>コスト</b>	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	865 千円 (備考)	担当局	子ども家庭局		
	17,211 千円	17,001 千円		課長	0 人	職員	0.1 人	担当課	保育課
				係長	0 人			課長名	武田

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	日曜日、祝日及び年末に就労している保護者に対応するため、休日等に指定された保育所を開所し、保護者の就労を支援します。	<b>成果実績</b>	休日保育事業は、各区1箇所で開催し、平成23年度の延べ利用児童数は、1,779人・日であり、休日等に就労する多くの保護者に利用されています。
-----------	---------------------	--	-------------	--

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
		保育所に対する満足度(保育内容) 保育の質の向上、多様なニーズに対応した特別保育の充実などの取り組みによる成果を示す指標として掲げました。最終目標は、「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 向上(26年度)	91.1 %	向上	81.0 %	
	(最終目標と目標年度)				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

<b>活動計画</b>	休日等に指定した保育所を開所します。	<b>活動実績</b>	活動結果は下記のとおりです。
-------------	--------------------	-------------	----------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
		休日保育事業を実施している保育所の施設数 日曜日、祝日及び年末に就労している保護者に対応するため、休日等に指定した保育所を開所します。 (最終目標と目標年度) 9箇所(平成26年度)	7 所	7 所	7 所 100.0 %	
					大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	保護者の就労形態が多様化する中、各区1か所で開催しました。平成23年度の延べ利用児童数は、1,779人・日であり、多様化する就労形態への対応として、一定の効果があります。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	委託料は国の補助基準額をベースに実績に応じた額となっており、合理的に実施しています。

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	日曜、祝日及び年末に就労している保護者の保育ニーズに対応していますが、各施設概ね順調に対応できていることから、現在の事業の規模を維持します。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	
	現在の施設で事業を継続(事業費についても現状を維持)し、利用者の動向をふまえて今後の対応を検討します。	保育所に対する満足度の向上を図ります。

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	特定保育事業						施策番号	
							I-1-(1)-①	
<b>コスト</b>	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費の目安	金額	790 千円 (備考)	担当局	子ども家庭局	
	5,940 千円	7,200 千円		課長	0 人 職員 0.1 人		担当課	保育課
				係長	0 人			課長名

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	パート就労などの多様な働き方を支援するため、週に2,3日程度または午前か午後のみなどの就労形態に応じて柔軟に利用形態を決めることができる「特定保育」を実施します。	<b>成果実績</b>	平成23年度における特定保育事業の延べ利用児童数は550人・日であり、パート就労などの多様な働き方をしている保護者を支援できており、概ね順調であるといえます。		
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	保育所に対する満足度(保育内容)	91.1 %	向上	81.0 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	保育の質の向上、多様なニーズに対応した特別保育の充実などの取り組みによる成果を示す指標として掲げました。最終目標は、「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 向上(26年度)					
(最終目標と目標年度)						

<b>活動計画</b>	週に2,3日程度または午前か午後のみなどの就労形態に応じて柔軟に利用形態を決めることができる「特定保育」を実施します。	<b>活動実績</b>	活動結果は下記のとおりです。			
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	特定保育事業を実施している保育所の施設数	5 所	5 所	5 所	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	特定保育事業の実施箇所数について、現状の実施体制の維持に努めます。 (最終目標と目標年度) 現状維持(平成26年度)			100.0 %		順調

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	平成23年度の延べ利用児童数は550人・日であり、多様化する就労形態に対応しており一定の効果があります。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	委託料は国の補助基準額をベースに実績に応じた額となっており、合理的に実施しています。

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題	週に2,3日程度または午前か午後のみなど、パート就労などで多様な働き方をしている保護者の保育ニーズに対応していますが、実施施設の中には利用実績の少ない施設があります。
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	当面、現在の施設で事業を継続(事業費についても現状を維持)します。	保育所に対する満足度の向上を図ります。

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	急病の子どもを支える仕組みづくり						施策番号		
							I-1-(1)-①		
<b>コスト</b>	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費の目安	金額	575 千円 (備考)	担当局	子ども家庭局	
		0 千円	0 千円		課長	0.1 人 職員	0 人	担当課	保育課
					係長	0 人		課長名	武田

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	仕事と子育ての両立を支援するため、保育所等の施設やボランティア、医療関係者、企業等の職場、保護者などが子どもの病気についての理解を深め、相互に連携しながら、急病の子どもを支える仕組みづくりを推進します。	<b>成果実績</b>	社会福祉研修所における研修を通じて、保育所等の施設が子どもの病気時の対応についての理解を深めており、急病の子どもを支える仕組みづくりは順調に推進されています。
-----------	---------------------	---	-------------	---

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
		保育所に対する満足度(保育内容) 保育の質の向上、多様なニーズに対応した特別保育の充実などの取り組みによる成果を示す指標として掲げました。最終目標は、「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 向上(26年度)	91.1 %	向上	81.0 %	

<b>活動計画</b>	仕事と子育ての両立を支援するため、保育所等の施設やボランティア、医療関係者、企業等の職場、保護者などが子どもの病気についての理解を深め、相互に連携しながら、急病の子どもを支える仕組みづくりを推進します。	<b>活動実績</b>	活動結果は下記のとおりです。
-------------	---	-------------	----------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
		社会福祉研修所における研修の実施と企業などの職場に対する働きかけ 保育所等の施設が、子どもの病気時の対応についての理解を深めるため、社会福祉研修所において研修を実施しました。 企業などの職場に対して、子どもの病気についての理解を深めるための情報提供を行いました。 「ほっと子育てふれあいセンター」など、各種団体による支援の促進 「ほっと子育てふれあいセンター」など、各種団体による支援の促進のための情報提供を行います。				

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	保育所に対しては、社会福祉研修所における研修を通じて、乳幼児期の子どもの病気や、保育所などでの対応についての啓発を行いました。この研修は、保育所等の施設などが子どもの病気についての理解を深め、相互に連携しながら、急病の子どもを支えるものであり、その有効性は高いと考えます。
	<b>「経済性」</b> <b>「効率性」</b> の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	保育課の課長級職員を研修の講師とするなど、必要最小限のコストで高い効果が得られるものと考えます。

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題 引き続き、社会福祉研修所における研修等を通じて、保育所等の施設が子どもの病気時の対応についての理解を深めるなどの取り組みを行っていきます。 次年度の活動計画(見直し内容)      その結果目指す成果(次年度の成果目標) 社会福祉研修所における研修のほか、保育所等と医療関係者の連携を深めるなど、急病の子どもを支える仕組みづくりを推進します。社会福祉研修所における研修は、担当課長を講師としているため、事業費はかかりません。      保育所等の施設やボランティア、医療関係者、企業等の職場、保護者などが子どもの病気についての理解を深め、相互に連携しながら、急病の子どもを支える仕組みづくりの推進することにより、保育所に対する満足度の向上等を目指します。
---------------	---

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	病児・病後児保育の充実						施策番号
							I-1-(1)-①
<b>コスト</b>	事業費	平成23年度執行額 87,662 千円	平成24年度当初予算額 115,169 千円	人件費の目安	金額 2,320 千円 (備考)	担当局	子ども家庭局
					課長 0 人 職員 0.1 人	担当課	保育課
					係長 0.1 人	課長名	武田

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	病児・病後児の児童に対応するため、医療機関併設型の施設において児童を保育し、保護者の子育てと就労の両立を支援します。あわせて、より効果的・効率的にサービスを提供するため、施設の空き情報を共有化して保護者に提供するなど、病児保育のネットワーク化を進めます。	<b>成果実績</b>	利用児童数が増加傾向にあるなど保護者ニーズが高い中、新規に1施設開設しました。また、施設の空き情報の共有化についても、着実に準備を進めています。
-----------	---------------------	---	-------------	--

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
		保育所に対する満足度(保育内容) 保育の質の向上、多様なニーズに対応した特別保育の充実などの取り組みによる成果を示す指標として掲げました。最終目標は、「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 向上(26年度)	91.1 %	向上	81.0 %	
	(最終目標と目標年度)				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

<b>活動計画</b>	病児・病後児の児童に対応するため、医療機関併設型の施設において児童を保育し、保護者の子育てと就労の両立を支援します。あわせて、より効果的・効率的にサービスを提供するため、施設の空き情報を共有化して保護者に提供するなど、病児保育のネットワーク化を進めます。	<b>活動実績</b>	活動結果は下記のとおりです。
-------------	---	-------------	----------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
		病児・病後児保育事業を実施している施設の箇所数 保護者ニーズが高いため、医師会に対して実施施設の推薦を働きかける等により、実施箇所数の増を図ります。 (最終目標と目標年度) 11箇所(平成26年度)	8 施設	9 施設	9 施設 100.0 %	
	病児保育室の空き情報の共有化 インターネットを使って、病児・病後児保育施設の空き情報を共有化し、保護者に提供できる仕組みをつくります。				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	病児・病後児保育事業の実施施設の箇所数を、平成22年度拡充予定でしたが、平成23年度に1施設拡充しました。 病児・病後児保育施設の空き情報システム(病児・病後児保育施設の利用状況(空き情報)をインターネットを共有化し保護者に提供する仕組みづくり)の稼働に向けた準備を行いました。 仕事と子育ての両立支援のため、平成23年度においては9箇所病児・病後児保育事業を実施しましたが、利用児童数は増加傾向にあるなど保護者ニーズは高く、その有効性は高いと考えます。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	国の補助基準額を踏まえた委託料で所要の人員配置をしつつ、多忙な小児科医の自助努力により事業を実施している状況から、コスト削減は困難と考えます。

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題 当該事業は、北九州市医師会の協力のもと、診療科目に小児科を掲げている医療機関を委託先としているが、対象が限られるため実施施設の選定に時間を要することが課題です。	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	次年度の活動計画(見直し内容)	
	医療機関等に対して当該事業の内容を分かりやすく説明できるように新たに作成した資料を用いることにより、八幡西区や小倉南区などでの開設に向けた調整を行います。新規開設分の経費については、施設の選定時に対応するため、次年度予算は現行ペースで維持します。	病児・病後児保育の利用状況や、保護者ニーズを踏まえた医療機関併設型の「病児保育」の拡充を図ります。

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	<b>障害児保育の充実</b>						施策番号
							I-1-(1)-①
<b>コスト</b>	事業費	平成23年度執行額 180,599 千円	平成24年度当初予算額 239,502 千円	人件費の目安	金額 8,825 千円 (備考)	担当局	子ども家庭局
					課長 0.3 人 職員 0.1 人	担当課	保育課
					係長 0.5 人	課長名	重谷

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたいのか 通常保育での受け入れに加え、延長保育、一時保育を含めて統合保育の可能な障害のある子どもの受け入れを行います。また障害のある子どもの福祉の向上と、保護者の就労を支援するため、関係機関の協力のもと、統合保育の可能な重度の障害のある子どもを直営保育所で受け入れます。	<b>成果実績</b>	平成24年3月1日現在、104施設で316名の障害児を、直営保育所では10名の重度障害児を受け入れており、障害児保育のニーズへの対応は順調に進んでいます。
-----------	---	-------------	---

	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
<b>代表的な成果指標</b>	保育所に対する満足度(保育内容)	91.1 %	向上	81.0 %		代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	保育の質の向上、多様なニーズに対応した特別保育の充実などの取り組みによる成果を示す指標として掲げました。最終目標は、「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 向上(26年度)					大変順調 順調 やや遅れ 遅れ
	(最終目標と目標年度)					

<b>活動計画</b>	通常保育の受け入れに加え、延長保育、一時保育を含めて統合保育の可能な障害児を受け入れを行います。また、保統合保育の可能な重度の障害児を直営保育所で受け入れます。	<b>活動実績</b>	活動結果は下記のとおりです。
-------------	--	-------------	----------------

	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
<b>活動指標</b>	通常保育における障害児の入所状況	157 施設 (100%)	158 施設	158 施設 100.0 %		活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	・通常保育で障害児の受け入れを全保育所で行います。 ・統合保育の可能な重度障害児の受け入れを直営保育所で行いました。					大変順調 順調 やや遅れ 遅れ
	特別保育事業における障害児の入所状況	(延長保育) 141 (一時保育) 54 施設	(延長保育) 143 (一時保育) 58 施設	(延長保育) 143 (一時保育) 58 施設 100.0 %		
	保護者の仕事と子育ての両立支援を図るため、通常保育のみならず特別保育事業においても、全保育所で障害児の受け入れを行います。					

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	平成24年3月1日現在、104施設で336名の障害児を受け入れました。直営保育所では重度障害児10名を受け入れました。 障害の有無にかかわらず、一緒に保育し、ともに育ち生活する中で、相互の健全な育成を図ることができず。保育所での保育が可能な障害のある子どもを積極的に受け入れており、なおかつ就労を希望する保護者も増加すると思われるため、障害児保育のニーズは高まると予想されます。有効性は、高いと思われます。
	「経済性」 「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」 「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	現在は障害児数に応じた職員配置を、常勤やパートで行っており効率性は高いと考えます。これ以上のコスト削減は困難と考えます。

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題	
	関係機関と連携のもと、全保育所で障害児の受け入れを行います。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	多様なニーズに対応した障害児保育の充実に努めます。 事業費を維持しながら、関係機関との連携、研修や会議等の内容を工夫し、保育の質の向上を図り、きめ細かい支援を行います。	障害児保育の質の向上を図ります。

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	保育所入所定員の拡大						施策番号
							I-1-(1)-①
<b>コスト</b>	事業費	平成23年度執行額 34,939 千円	平成24年度当初予算額 859,449 千円	人件費 の目安	金額 12,200 千円 (備考)	担当局	子ども家庭局
					課長 0.3 人 職員 0.5 人	担当課	保育課
					係長 0.5 人	課長名	武田

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたのか	保育所が特に不足する地域について、民間保育所の新規開設や既存保育所の定員増を行い、年間を通じた待機児童の解消と、年度当初における定員超過入所の状況の解消を目指します。なお、新規開設の公募にあたっては、「安心子ども基金」を活用した補助金の交付や私立幼稚園(幼保連携型認定こども園)など既存施設の活用を図り、より幅広い視点から民間活力の活用を図ります。	<b>成果実績</b>	成果の状況は下記のとおりです。		
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	保育所入所待機児童数(年度当初)	16 人	0 人	0 人	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	保育所の定員については、市全体では年度当初の受け入れ態勢はおおむね整っています。今後もこれを維持していくため成果指標として掲げました。最終目標は、「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 待機児童0人を維持(26年度)			100.0 %		
保育所入所待機児童数(年度中途(10月))	89 人	待機児童を解消	67 人	順調		
	一部地区では年度の後半にかけて待機児童が生じています。保育所への入所を希望する人は今後さらに増加するものと思われることから、年間を通じた待機児童の解消を成果指標として掲げました。最終目標は、「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 待機児童を解消(26年度)					

<b>活動計画</b>	年間を通じた待機児童の解消	<b>活動実績</b>	活動結果は下記のとおりです。			
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	民間保育所の新規開設	1 施設	1 施設	1 施設	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	保育所の特に不足する地域について、民間保育所の新規開設に取り組み、地域の需要に適切に対応した保育サービスの基盤整備を進める。 (平成22年度から26年度までの5か年で実施)			100.0 %		
年間を通じた待機児童の解消	16 (H22.4時点)	0 人 (年間を通じて)	0 (H23.4時点) 67 (H23.10時点)	人		順調
	仕事と子育ての両立を支援するため、地域の需要に適切に対応した保育サービスの基盤整備を進め、年間を通じた待機児童の解消を図ります。 (平成22年度から26年度までの5か年で実施)					

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析	地域の子育てニーズに対応し、計画的に保育所の適正配置と定員増を進めることにより、仕事と子育ての両立や、乳幼児の健やかな育成に大きく寄与するものと考えます。 ◇ 民間保育所の新設 … 1施設(沼・吉田地区 定員70名) ※ 平成22年度公募、23年度整備、24年4月開所 ◇ 既存民間保育所の改築と定員増 … 3施設(中原、二島、ふたば合わせて定員60名の増) ※ 平成23～24年度整備、7月(中原:10名)、8月(ふたば:30名)、12月(二島:20名)の定員増 ◇ 民間保育所の新設 … 2施設(日明・到津地区、折尾・本城 各定員70名) ※追加 ※ 平成23年度公募、23～24年度整備、25年4月開所	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。  新たな保育所の整備や入所定員の拡大は、すべて民間保育所を対象に実施しており、民間活力の活用に最大限努めています。
------------------	---	--	--

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題  一部の地域では、年度途中での待機児童が生じています。  次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)  年間を通じた待機児童の解消を図ります。
	待機児童の傾向や、地域の保育需要の動向を見極めながら、保育所の新設や既存保育所の増改築等を行い、保育所入所定員の拡大を図ります。 保育所の新設については、「元気発進！子どもプラン」に掲げた事業計画(4か所)が全て完了したことから、次年度の事業費は減額となります。	

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	直営保育所の再編・民営化						施策番号
							I-1-(1)-①
<b>コスト</b>	事業費	平成23年度執行額 1,635 千円	平成24年度当初予算額 266,800 千円	人件費 の目安	金額 13,350 千円 (備考)	担当局	子ども家庭局
					課長 0.4 人 職員 0.5 人	担当課	保育課
					係長 0.5 人	課長名	武田

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたのか	保育所運営の効率化と機能の集約・強化を図るため、児童数の減少等に伴う近隣の保育所との統合や、老朽化した施設の建て替え等にあわせて直営保育所の民営化を行い、施設の再編を進めます。なお、民営化後の施設の建て替えにあたっては、「安心子ども基金」などを活用した補助金の交付など幅広い民間活力の活用を図ります。	<b>成果実績</b>	当初の計画通り、直営保育所の民営化と、民営化施設の改築をそれぞれ1施設ずつ実施しました。
-----------	--------------------	--	-------------	--

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	保育所に対する満足度(施設、環境)	老朽化の進む施設の計画的な改築など、保育所の施設環境と機能の向上は重要であることから成果指標として掲げました。最終目標は、「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 向上(26年度)	80.0 %	向上	66.7 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ
保育所に対する満足度(保育内容)		保育の質の向上、多様なニーズに対応した特別保育の充実などの取り組みによる成果を示す指標として掲げました。最終目標は、「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 向上(26年度)	91.1 %	向上	81.0 %	

<b>活動計画</b>	直営保育所の民営化 民営化施設の改築	<b>活動実績</b>	活動結果は下記のとおりです。
-------------	-----------------------	-------------	----------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	直営保育所の再編・民営化	保育所運営の効率化と機能の集約・強化を図るため、児童数の減少等に伴う近隣の保育所との統合や、老朽化した施設の建て替え等にあわせて直営保育所の民営化を行い、施設の再編を進めます。 (最終目標と目標年度) 18箇所(平成27年4月)	1 施設	1 施設	1 施設 100.0 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ
民営化施設の老朽改築		保育環境の向上を図るため、公立から民営化した保育所について、「民設民営方式」による施設の老朽改築を進めます。	1 施設	1 施設 100.0 %		

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 直営保育所の民営化 … 1施設(早鞆) ※ 平成23年度公募、運営引継ぎ、24年4月1日付民営化</li> <li>◇ 民営化施設の改築 … 1施設(篠崎) ※ 平成23年4月1日付民営化、23年度改築、24年1月 新施設開所 (このほか、新たに民営化1施設(初音)、民営化施設の改築(早鞆)に着手…いずれも24年度実施)</li> </ul>	<p>計画的に公立保育所の民営化を進めることにより、保育所運営に係る市負担額の軽減を図り、保育所運営の効率化と保育サービス全体の向上に寄与するものと考えます。また、民営化等による施設の再編とあわせて、直営保育所の施設と人材を活用し、支援の必要な子どもと家庭への対応を強化しています。(親子通園の実施、重度障害児の受入等)</p> <p>公立保育所の運営主体について、計画的に民間法人への移行を図っています。また、「民設民営方式」による施設の老朽改築を進めることにより、改築等に係る市負担の軽減を図りながら、保育環境の向上に努めています。</p>
	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。		

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	安心子ども基金の次年度以降の期間延長について国に要望しています。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	
	更なる保育所運営の効率化と機能の集約・強化を図るため、「元気発進！子どもプラン」に掲げた直営保育所の再編を進めます。なお、次年度の事業費については、子どもプラン推進のため、維持します。	保育所に対する満足度の向上を図ります。

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	産休明け保育等の対応の強化						施策番号
							I-1-(1)-①
<b>コスト</b>	事業費	平成23年度執行額 56,221 千円	平成24年度当初予算額 74,962 千円	人件費 の目安	金額 7,300 千円 (備考)	担当局	子ども家庭局
					課長 0.2 人 職員 0.4 人	担当課	保育課
					係長 0.2 人	課長名	河渕

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたのか	産休明けを含む乳児期の保育ニーズに対応するため、生後43日目から保育を行う家庭保育員の増加を図るとともに、一般の保育所において、段階的に概ね3ヶ月から乳児を受け入れます。	<b>成果実績</b>	当初の計画を上回る、3名の家庭保育員の拡充を行い、入所率は8割を超えるなど、産休明けを含む乳児期の保育ニーズへの対応は順調であるといえます。
-----------	--------------------	---	-------------	--

	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
<b>代表的な成果指標</b>	保育所に対する満足度(保育内容)	91.1 %	向上	81.0 %		代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	保育の質の向上、多様なニーズに対応した特別保育の充実などの取り組みによる成果を示す指標として掲げました。最終目標は、「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 向上(26年度)					
	(最終目標と目標年度)					
					大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

<b>活動計画</b>	公募による新規募集により、家庭保育員を2名増員します。一般保育所での概ね3ヶ月からの入所受け入れについて、その方法、受け入れの可能性について調整します。	<b>活動実績</b>	活動結果は下記のとおりです。
-------------	--	-------------	----------------

	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
<b>活動指標</b>	家庭保育員数	13 人	15 人	16 人		活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	公募による新規募集により、家庭保育員を増員しました。 (最終目標と目標年度) 20人(平成26年度)					
	一般保育所での概ね生後3ヶ月からの入所受け入れ					
	受入可能な保育所があるかの検討、調整を行いました。					
					大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<p><b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析</p> <p>活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。</p>	<p>家庭保育員3名の拡充を行いました。産休明け保育に対応できる保育所は他になく、定員は1か所5名以下であり、家庭的な雰囲気での保育を希望する保護者も多いため、入所率は8割を超え、効果は高いと考えます。</p>
	<p>「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。</p>	<p>保育所の新規開設に比べ、施設整備費はかからず、保育に対する市の負担額も低いため経済面での効率はよいと考えられます。児童福祉法により、市に実施責任が課せられており、市以外で行うことは困難です。</p>

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	<p>課題</p> <p>平成24年10月1日現在、家庭保育員の入所率は90%を超えています。平成24年11月より新規家庭保育員2名が加わり、全18か所(うち1か所は25年1月以降開所)で事業を実施します。「元気発進！子どもプラン」では、平成26年度までに20ヶ所を実施することを目標としています。一般の保育所における概ね3ヶ月からの児童の受入れについては、門司区と戸畑区とに対象となる施設がありません。</p> <p>次年度の活動計画(見直し内容)</p> <p>家庭保育員については、「元気発進！子どもプラン」にもとづき不足している地区で増設し、平成25年度に19ヶ所を実施します。一般の保育所における概ね3ヶ月からの児童の受入れについては、門司区と戸畑区で新規で実施します。</p> <p style="text-align: right;">その結果目指す成果(次年度の成果目標)</p> <p style="text-align: right;">保育所に対する満足度の向上を図ります。</p>
---------------	--

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	計画的な老朽改築等の推進						施策番号
							I-1-(1)-①
<b>コスト</b>	事業費	平成23年度執行額 147,494 千円	平成24年度当初予算額 147,000 千円	人件費 の目安	金額 2,845 千円 (備考)	担当局	子ども家庭局
					課長 0 人 職員 0.2 人	担当課	保育課
					係長 0.1 人	課長名	武田

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	民間法人の協力のもと、老朽化の進む施設を対象に、計画的な施設の改築を行います。	<b>成果実績</b>	完成時期に変更が生じたものの、当初の計画どおり1施設の民間保育所の老朽改築に着手しました。
-----------	---------------------	---	-------------	---

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
		保育所に対する満足度(施設、環境) 老朽化の進む施設の計画的な改築など、保育所の施設環境と機能の向上は重要であることから成果指標として掲げました。最終目標は、「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 向上(26年度)	80.0 %	向上	66.7 %	
	(最終目標と目標年度)					順調

<b>活動計画</b>	老朽化したふたば保育園(八幡東区・昭和52年建築)の改築を行い、合わせて多様な保育ニーズへの対応や保育環境の充実を図ります。	<b>活動実績</b>	活動結果は下記の通りです。
-------------	--	-------------	---------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
		計画的な施設の改築 多様な保育ニーズへの対応や乳幼児の保育環境の充実を図りながら、改築を行います。	3/3 施設 (100%)	1 施設	1 施設 100.0 %	
						順調

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。  関係者との調整に時間を要したため、平成23年度内の完成には至りませんでした。平成24年8月末に完成予定です。
	<b>「経済性」</b> <b>「効率性」</b> の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。  国の安心子ども基金を最大限活用し、市負担の軽減を図りながら、保育環境の向上に努めています。

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	<b>課題</b> 施設の老朽化等のため入所児童の安全性を確保することが困難な保育所に対する、効率的な整備を実施します。現在活用している、国補助金(安心子ども基金)の継続が不透明であり、基金が打ち切りとなった場合の今後の財源の確保が必要です。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	耐震診断等の結果を考慮しながら、計画的な老朽改築を実施します。2か所で改築を行うため、事業費は拡充しますが、効率的かつ効果的な整備を実施します。	施設の安全性を確保し、保育環境の改善を図ります。

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	緊急時対応保育所の整備						施策番号	
							I-1-(1)-①	
<b>コスト</b>	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	1,220 千円 (備考)	担当局	子ども家庭局
		0 千円	0 千円		課長	0 人 職員 0.1 人	担当課	保育課
					係長	0.1 人	課長名	武田

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	新型インフルエンザなどの新型感染症発生時や災害発生時など、保育所を一斉休業する緊急時に、両親とも医療従事者など、特に保育を必要とする保護者へ対応するため、直営保育所を「緊急時対応保育所」として開所します。			<b>成果実績</b>	成果の状況は下記のとおりです。		
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】		
	保育所に対する満足度(施設、環境)	80.0 %	向上	66.7 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック		
	老朽化の進む施設の計画的な改築など、保育所の施設環境と機能の向上は重要であることから成果指標として掲げました。最終目標は、「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 向上(26年度)						やや遅れ	
(最終目標と目標年度)								

<b>活動計画</b>	緊急時受入体制等の検討を行います。				<b>活動実績</b>	直営保育所については、民間との役割分担をふまえ、そのあり方自体を検討中です。			
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】			
	緊急時の受け入れ体制等				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック			
	開所する保育所への人員体制の集約、施設の整備などを検討します。					やや遅れ			

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	H23年度は、開所する保育所の人員体制、施設の整備、関係機関との調整などを行いました。
	<b>「経済性」</b> <b>「効率性」</b> の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	既存施設・人員を活用してサービスを提供できます。

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題	このまま、開所する保育所の人員体制、施設の整備、関係機関との調整について取り組んできました。今後も引き続き、限られた人的・物的制約をいかに活用していくのか検討する必要があります。
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	非常時における開所のための体制確立、優先業務実施に向けた課題と対策等について、平成25年度中に計画を策定します。	保育所に対する満足度の向上を図ります。

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	区役所における保育サービス等の相談・コーディネート機能の向上						施策番号
							I-1-(1)-①
<b>コスト</b>	事業費	平成23年度執行額 0千円	平成24年度当初予算額 0千円	人件費 の目安	金額 875千円 (備考)	担当局	子ども家庭局
					課長 0人 職員 0.1人	担当課	保育課
					係長 0.1人	課長名	武田

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	区役所の保育サービスに関する窓口の体制を強化し、保育サービスに関するきめ細かい説明や情報提供を行いながら、児童と保護者の状況を踏まえた保育サービス等のコーディネートに取り組みます。	<b>成果実績</b>	成果の状況は下記のとおりです。
-----------	---------------------	--	-------------	-----------------

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
		保育所に対する満足度(保育内容)			81.0 %	
	保育の質の向上、多様なニーズに対応した特別保育の充実などの取り組みによる成果を示す指標として掲げました。最終目標は、「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 向上(26年度)	91.1 %	向上			
	(最終目標と目標年度)				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	やや遅れ

<b>活動計画</b>	入所窓口体制等の強化	<b>活動実績</b>	人員確保について関係機関と調整中です。
-------------	------------	-------------	---------------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
		関係機関との協議				
	障害児保育の入所調整など、保育ニーズの多様化とともに入所事務が複雑化しており、子ども総合センター、療育センターなどの療育機関や区保健福祉課等との調整のため、入所窓口の体制強化を図ります。					
	(最終目標と目標年度)				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	やや遅れ

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	「元気発進！子どもプラン」に基づき、体制強化を図るため、引き続き関係機関との調整を進めます。
	<b>「経済性」</b> <b>「効率性」</b> の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	現行の窓口の体制を強化し、多様化する保育ニーズに応える必要があり、民間活力導入にはなじまないと考えます。

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題  これまで、経験豊かな保育士をコーディネート役として、全区役所の「子ども・家庭相談コーナー」に配置し、子育て支援に関する相談体制の充実・強化を図ってきました。今後も社会経済状況の変化により、多様化する保育ニーズに対応して、保育サービス等の相談・コーディネート機能の向上を図ることは必要と考えます。	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	次年度の活動計画(見直し内容)	保育所に対する満足度の向上を図ります。
	国において「子ども・子育て関連3法」の成立に伴い、新たな支援策が検討されているところであり、他都市の事例も参考としながら、コーディネート機能のさらなる充実を図ります。多様化するニーズや実情に応じた、きめ細かい説明、情報提供、具体的なアドバイス等を提供します。	

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	保育サービスに関する情報提供の充実						施策番号			
							I-1-(1)-①			
<b>コスト</b>	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費の目安	金額	525 千円 (備考)	担当局	子ども家庭局		
		0 千円	0 千円		課長	0 人	職員	0 人	担当課	保育課
					係長	0 人			課長名	武田

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	市ホームページ上で各保育所の入所状況を表示し、保育所入所希望者等への情報提供の充実を図ります。				<b>成果実績</b>	各保育所の入所状況を表示したホームページを毎月更新しており、平成23年度の年間アクセス数は、22,510件でした。		
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】			
	保育所に対する満足度(保育内容)	91.1 %	向上	81.0 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック			
	保育の質の向上、多様なニーズに対応した特別保育の充実などの取り組みによる成果を示す指標として掲げました。最終目標は、「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 向上(26年度)								
	(最終目標と目標年度)								
(最終目標と目標年度)					順調				

<b>活動計画</b>	ホームページ等の充実を図ります。				<b>活動実績</b>	活動結果は下記のとおりです。			
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】			
	ホームページの更新回数	12 回	12 回	12 回	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック			
	平成21年度より、市内の各保育所の受入状況をホームページで公開しており、毎月更新することを継続します。			100.0 %					
	(最終目標と目標年度)					順調			
(最終目標と目標年度)									

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】 【活動の状況】</b> を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	計画どおりに毎月更新して、情報提供を行っています。		
	<b>「経済性」 「効率性」</b> の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	ホームページでの情報提供は低いコストでより高い効果が期待でき、これ以上のコスト削減は困難であると考えます。		

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題				
	各保育所の入所状況等を表示したホームページの周知を図り、年間アクセス数を増やします。(平成23年度年間アクセス数 22,510件)				
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)			
	区役所窓口での保育所入所受付時などの機会を通じて積極的にホームページをPRします。各保育所の保育方針や特色など、利用者が必要とする情報提供を充実します。日常業務における取り組みのため、事業費はかかりません。	保育所に対する満足度の向上を図ります。			

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	支援の必要な子どもと家庭生活を支えるネットワークの構築						施策番号		
							I-1-(1)-①		
<b>コスト</b>	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	640 千円 (備考)	担当局	子ども家庭局		
	0 千円	0 千円		課長	0 人	職員	0 人	担当課	保育課
				係長	0 人		課長名	重谷	

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたのか	発達の気になる子どもや、育児に不安を抱えた保護者など、支援の必要な子どもと家庭への個別の対応と継続した支援を行うため、区役所と直営保育所の連携を深め、保健・医療・福祉・教育の連携によるネットワーク作りを進めます。	<b>成果実績</b>	発達の気になる子どもや、育児に不安を抱える保護者が増えている中、新たに東篠崎保育所で親子通園を開設し、既存の黒崎保育所とともに、連携を進めました。
-----------	--------------------	--	-------------	---

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
		保育所に対する満足度(保育内容) 保育の質の向上、多様なニーズに対応した特別保育の充実などの取り組みによる成果を示す指標として掲げました。最終目標は、「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 向上(26年度)	91.1 %	向上	81.0 %	
	(最終目標と目標年度)				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

<b>活動計画</b>	区役所と直営保育所の連携を深め、保健・医療・福祉・教育の連携によるネットワーク作りを進めます。	<b>活動実績</b>	活動結果は下記のとおりです。
-------------	---	-------------	----------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
		ネットワークの構築 親子通園の利用者の入所調整、入所後の支援体制についてのネットワーク作りを進めます。				
					大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析  <b>「経済性」</b> <b>「効率性」</b> の分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。  新たに小倉北区の東篠崎保育所で親子通園を開始し、既存の黒崎保育所とともに連携を進めています。発達の気になる子どもや、育児に不安を抱える保護者が増えていますので、直営保育所と区役所が連携したネットワークの構築は有効性が高いと思われます。  「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。  直営保育所の機能を活かしながら、支援の必要な子どもとその家庭への個別対応と継続した支援を行うので、これ以上のコスト削減は困難と考えます。
------------------	--	--

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題  多様なニーズに対応した、よりきめ細かい支援のためのネットワークの構築や、現在の親子通園実施園から離れている地域の利用希望者への対応、市民への情報発信についての検討が必要です。  次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)  親子通園利用者の増加を図ります。他機関との連携のもと、各保護者のニーズに応じたサービスの提供を行います。
	区役所、直営保育所の職員間の連携を強化し、親子通園の実施されている区以外の区役所や専門機関とのネットワークの拡大・充実を行います。ホームページ、市政だより、チラシなどで市民への情報発信に努めます。日常業務における取り組みであるため、事業費はかかりません。	

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	一時保育事業						施策番号
							I-1-(1)-①
<b>コスト</b>	事業費	平成23年度執行額 49,646 千円	平成24年度当初予算額 54,620 千円	人件費 の目安	金額 1,480 千円 (備考)	担当局	子ども家庭局
					課長 0 人 職員 0.1 人	担当課	保育課
					係長 0.1 人	課長名	武田

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたのか	保護者のパート就労や冠婚葬祭、及び育児リフレッシュ等の理由により、一時的に家庭での保育が困難となる児童を保育所において保育します。今後は、実施施設数を増やします。	<b>成果実績</b>	当初の計画を上回る5施設で、一時保育の新規開設を行い、全59施設において年間延べ25,525人の児童に利用されています。
-----------	--------------------	---	-------------	--

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
		保育所に対する満足度(保育内容)  保育の質の向上、多様なニーズに対応した特別保育の充実などの取り組みによる成果を示す指標として掲げました。最終目標は、「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。  (最終目標と目標年度) 向上(26年度)	91.1 %	向上	81.0 %	
	(最終目標と目標年度)				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

<b>活動計画</b>	引き続き一時保育実施施設を増やし、子育て家庭等の支援を行います。	<b>活動実績</b>	活動結果は下記のとおりです。
-------------	----------------------------------	-------------	----------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
		一時保育事業を実施する保育所  保育所の新設や改築に伴い一時保育室を設置するなどして一時保育事業実施保育所数の増を図ります。  (最終目標と目標年度) 64箇所(平成26年度)	54 所	58 所	59 所 101.7 %	
					大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	平成23年度は5所で新規開設を行い、全59施設における年間延べ利用児童数は、25,525人でした。一時的な就労等多様化する就労形態への対応や、専業主婦等の育児リフレッシュへの対応等について高い効果があります。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	補助金は利用児童数に応じた額となっており、限られた補助の中で人員を配置し実施するなど、合理的に事業を行っています。

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題 保護者のパートタイム就労の増大や、疾病等による緊急の保育需要、さらには保護者の育児リフレッシュなどの要望は年々増大しています。就労しているにも関わらず保育所に入所できないケースや核家族化の進行や疾病等により一時的に保育に欠けるケースも多く存在しています。一時保育を幅広く展開していくことで、待機児童の解消や子育て支援家庭への支援にも繋がることとなることから、今後も一時保育の実施施設数の増を図ります。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	新設・改築した保育所に一時保育室を設置するなどして予算を維持しながら、一時保育事業実施保育所数の拡充を図ります。	保育所に対する満足度の向上を図ります。

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	全児童化のための施設整備						施策番号
							I-1-(1)-①
<b>コスト</b>	事業費	平成23年度執行額 115,173 千円	平成24年度当初予算額 3,600 千円	人件費 の目安	金額 9,075 千円 (備考)	担当局	子ども家庭局
					課長 0.1 人 職員 0.6 人	担当課	子育て支援課
					係長 0.4 人	課長名	大下

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたのか	留守家庭の保護者が安心して子どもを預けて働くことができるよう、放課後児童クラブの施設整備を行います。さらに、留守家庭以外の児童も受け入れ、希望するすべての子どもたちの放課後の居場所づくりを推進します。そのため、希望者全員を受け入れることができ、国のガイドライン(児童の生活スペースや静養スペースの確保等)に沿った施設整備を行います。また、適切な指導を行う上で必要な環境を整えるため、大規模クラブの分割を行います。	<b>成果実績</b>	下記の代表的な成果指標のとおりです。		
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	放課後児童クラブの待機児童数	9 人	減少	0 人	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	放課後児童クラブの全児童化に必要な施設整備を行い、待機児童の解消に向けた指標として掲げました。最終目標は「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 0人(26年度)			100.0 %		
	登録児童71人以上のクラブ数	6 クラブ	減少	3 クラブ		順調
国のガイドラインでは、登録児童数は最大70人までとすることとされています。71人以上の大規模クラブの解消を図るため施設整備を行い、クラブの分割を進めます。最終目標は「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 0クラブ(26年度)						

<b>活動計画</b>	全児童化のための施設整備で、22年度より繰り越した事業(3箇所)を実施します。	<b>活動実績</b>	活動結果は下記のとおりです。
-------------	---	-------------	----------------

<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	全児童対応クラブの割合	74.4 %	100 %	99.5 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	希望する全ての児童を受け入れられるよう必要な施設整備を行い、全クラブで全児童化を実施します。			99.5 %		
						順調

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。
	<b>「経済性」</b> <b>「効率性」</b> の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。
		全児童化のための施設整備では、予定していた3箇所の整備を完了しました。全児童化のための施設整備により、待機児童の解消などの放課後児童クラブの課題の解決が図られており、有効性の高い取り組みと考えています。
		施設整備にあたり、立地場所については市立小学校敷地内を、建物については小学校の余裕教室を優先活用することとしており、経済性・効率性の高い取り組みと考えています。

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題 平成22年度末までには、予定していた施設整備を概ね完了し、平成23年4月からは、希望する全ての児童の受け入れができています。大里柳小学校区については、25年度に施設整備を行う予定であり、そのための実施設計を24年度に行います。また、一部の施設では、施設規模を上回る利用者が発生しており、待機児童の発生が危惧されるため、児童の生活スペースを確保する必要があります。また、1クラブ、70人を超える利用者が見込まれる施設も発生しており、適切な指導を行う上で必要な環境を整えるため、大規模クラブの分割に向けた施設整備も行う必要があります。	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	次年度の活動計画(見直し内容)	待機児童が発生しないようにするとともに、71人以上の大規模クラブの解消に努めます。
	大里柳小学校区では、24年度の実施設計を経て、25年度は施設整備に取り組みます。また、待機児童を出さず、また、71人以上の大規模クラブの解消を図るため、25年度は新たに施設の増設等に取り組みます。以上のことから、事業費の拡充を行います。	

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	放課後児童クラブの運営体制の基盤整備						施策番号
							I-1-(1)-①
<b>コスト</b>	事業費	平成23年度執行額 1,247,024 千円	平成24年度当初予算額 1,389,985 千円	人件費の目安	金額 35,025 千円 (備考)	担当局	子ども家庭局
					課長 0.4 人 職員 2.4 人	担当課	子育て支援課
					係長 1.3 人	課長名	大下

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたのか 放課後児童クラブの全児童化に併せ、市民ニーズに応えられる運営内容を確保するため、研修会の実施、運営マニュアルの作成、開設時間の標準化や延長の推進等により、運営体制の充実を図ります。また、全児童化により、受け入れが増加する高学年児童や障害のある子どもへの対応が適切に行えるよう、指導員の資質向上を図ります。そのため、研修の充実、指導員相互の交流や情報交換、障害のある子どもなどの対応を支援するための臨床心理士等の巡回派遣を行います。	<b>成果実績</b>	下記の代表的な成果指標のとおりです。
-----------	---	-------------	--------------------

	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】	
<b>代表的な成果指標</b>	放課後児童クラブに対する満足度(利用日、利用時間)	81.8 %	向上	81.5 %		代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	クラブごとに開設日や開設時間などの運営状況が異なる中、市民ニーズの多様化への対応を示す指標として掲げました。最終目標は「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 向上(26年度)					大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調
	(最終目標と目標年度)						

<b>活動計画</b>	指導員の資質向上を図るため、より実践的な研修に取り組みます。さらに、障害児を受け入れているクラブに臨床心理士を派遣し、指導員に助言等を行います。また、開設時間の標準化の推進に取り組みます。	<b>活動実績</b>	活動結果は下記のとおりです。
-------------	--	-------------	----------------

	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
<b>活動指標</b>	18時30分以降まで開設している放課後児童クラブの割合	87.8 %	向上	96.8 %		活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	放課後児童クラブは多様な団体によって運営されていることから、クラブごとに開設時間などの運営状況に違いがあります。放課後児童クラブに対する様々なニーズに応えられるよう開設時間の標準化・延長をはじめ、運営の質を高めま (最終目標と目標年度) 100%(26年度)					順調 やや遅れ 遅れ
	障害のある児童の受入 全児童化により、受入が増加する障害のある児童への対応が適切に行えるよう、研修の充実や臨床心理士等の派遣により指導員の資質の向上を図ります。					

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	経験年数に応じた階層別研修など実践的な研修の実施や、障害児受入クラブへの臨床心理士(巡回カウンセラー)の派遣指導といった指導員の資質の向上に取り組んだ結果、障害児の受入が促進されています。また、開設時間の標準化に向けた協議をクラブと行い、18時30分以降まで開設しているクラブも増えていきます。そのため、活動の状況は順調としました。こうした活動の結果、クラブに対する満足度が引き続き高い水準を維持していることから、成果の状況は順調としました。
	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	障害児の受入に関しては、市に巡回カウンセラーを設置(雇用)し、必要に応じて各クラブに派遣して、指導員の助言にあたらせることができたため、各クラブで専門職を設置する場合に比べて低コストで効率的な取り組みと考えています。	

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題 放課後児童クラブの利用に関する満足度は8割超と高水準を維持していますが、障害児等を含め利用児童は増加傾向にあります。このため、指導員の資質の向上を図るため、研修の実施や、巡回カウンセラー等の派遣指導への取り組みが必要です。また、開設時間が18時30分以降になっていないクラブも残っており、引き続き標準化に向けた取り組みが必要です。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	適切な指導員の配置が行えるようにするとともに、指導員の資質向上を図るための研修等の実施や、開設時間の標準化に向けた取り組みを行い、運営の基盤整備を進めていくため、事業費は現状を維持していきます。	放課後児童クラブの利用に関する満足度を高水準で維持できるよう努めています。

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	放課後児童ヘルパーの設置						施策番号
							I-1-(1)-①
<b>コスト</b>	事業費	平成23年度執行額 0千円	平成24年度当初予算額 0千円	人件費の目安	金額 1,000千円 (備考)	担当局	子ども家庭局
					課長 0人 職員 0人	担当課	子育て支援課
					係長 0.1人	課長名	大下

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたのか 地域の特色を活かした放課後児童クラブの活動を推進していくため、地域と連携を図り、地域の人材を「放課後児童ヘルパー」として登録し、活動を支援していきます。	<b>成果実績</b>	下記の代表的な成果指標のとおりです。
-----------	--	-------------	--------------------

	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
<b>代表的な成果指標</b>	放課後児童クラブの魅力向上 学校や地域と連携し、活動内容の充実を図ることで、各地域の特色を活かした魅力ある放課後児童クラブの運営が促進されると考え、指標として掲げました。 (最終目標と目標年度)		向上			代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック  順調
	(最終目標と目標年度)				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	

<b>活動計画</b>	夏の教室(地域版)のモデル事業の実施に併せ、放課後児童ヘルパーを活用したモデル事業を実施し、活動内容の充実に向けた取り組み手法等の検討を行います。なお、モデル事業は6クラブ程度で実施します。	<b>活動実績</b>	活動結果は下記のとおりです。
-------------	---	-------------	----------------

	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
<b>活動指標</b>	ヘルパー活用クラブの割合 放課後児童クラブの多くは、地域の方々が運営に参画されており、地域の特色を活かした放課後児童クラブの活動を推進していくために、「放課後児童ヘルパー」として登録し、活動を支援していきます。 (最終目標と目標年度) 50%(26年度)	0%	単年度の目標設定はありません	8.2%		活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック  順調
	(最終目標と目標年度)				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	夏の教室(地域版)のモデル事業の実施に併せ、12クラブで、放課後児童ヘルパー(地域の高齢者、大学生等)を活用したモデル事業を実施しました。これらのクラブでは、地域の高齢者等が、クラブの清掃活動等の支援を行い、普段取り組めない活動を行うことができたことから、モデル期間終了後も、この取り組みを継続・発展させ、魅力あるクラブづくりを進めています。地域の人材を活用することで、地域の特色を活かした活動が促進され、クラブの魅力向上に繋がっています。有効性の高い取り組みと考えています。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	地域の身近なところで、クラブの活動を支援してくれる人材を確保することができるので、経済性・効率性が高い取り組みと考えています。

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題 23年度のモデル事業の取り組みの結果を報告書にまとめ、指導員研修会を通じて全放課後児童クラブに紹介しました。今後は、モデル事業の成果を踏まえ、夏の教室(地域版)の実施に併せ、各クラブでの取り組みを促進していく必要があります。	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	次年度の活動計画(見直し内容)	
	各クラブの先進的な取り組み事例を指導員研修等を通じて紹介したり、個別に助言等を行うなどして、各クラブの取り組みを促進していきます。	放課後児童ヘルパーを活用するクラブの割合を増やし、放課後児童クラブの魅力を上向きさせていきます。

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	夏の教室(地域版)の実施						施策番号
							I-1-(1)-①
<b>コスト</b>	事業費	平成23年度執行額 1,810 千円	平成24年度当初予算額 2,371 千円	人件費 の目安	金額 1,000 千円 (備考)	担当局	子ども家庭局
					課長 0 人 職員 0 人	担当課	子育て支援課
					係長 0.1 人	課長名	大下

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたのか スポーツ、文化等の指導員の派遣や放課後児童ヘルパー等の地域力の活用などにより、夏季休業日中に小学校で一週間程度実施されている「夏の教室」の地域版を放課後児童クラブで実施し、生活体験や自然体験、スポーツや伝統文化などさまざまな体験をさせるとともに、学習習慣を養います。また、学校との連携により、校内で育てている動植物の世話や観察などを行います。	<b>成果実績</b>	下記の代表的な成果指標のとおりです。
-----------	---	-------------	--------------------

	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】	
<b>代表的な成果指標</b>	放課後児童クラブの魅力向上 学校や地域と連携し、活動内容の充実を図ることで、各地域の特色を活かした魅力ある放課後児童クラブの運営が促進されると考え、指標として掲げました。 (最終目標と目標年度)		向上			大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	(最終目標と目標年度)						順調

<b>活動計画</b>	スポーツ等さまざまな体験活動に取り組むモデル事業を実施します。モデル事業は6クラブ程度で実施します。なお、モデル事業の実施にあたっては、放課後児童ヘルパーを活用したり、高学年をジュニアリーダーに位置づけて行います。また、JICA九州による国際協力出前講座も実施します。	<b>活動実績</b>	活動結果は下記のとおりです。
-------------	--	-------------	----------------

	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】	
<b>活動指標</b>	実施クラブの割合 放課後児童ヘルパー等の地域力の活用などにより、夏季休業日中の放課後児童クラブの活動内容の充実を図ります。 (最終目標と目標年度) 50%(26年度)	0 %	単年度の目標設定はありません	8.2 %		大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
						順調	

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析  <b>「経済性」</b> <b>「効率性」</b> の分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。  「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。  12クラブで、夏の教室(地域版)のモデル事業を実施し、スポーツ等のさまざまな体験活動を実施しました。モデル事業の実施にあたっては、放課後児童ヘルパー(地域の高齢者等)を活用したり、高学年児童をジュニアリーダーに位置づけて行いました。その結果、児童にさまざまな体験の機会を提供することができ、活動内容の充実が図られたことから、これらのクラブでは、モデル期間終了後も、この取り組みを継続・発展させ、魅力あるクラブづくりを進めています。有効性の高い取り組みと考えています。  体験活動の実施にあたり、放課後児童ヘルパー等地域の人材を活用するとともに、各クラブで活動内容を企画・実施するので、経済性・効率性の高い取り組みと考えています。
------------------	--	--

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題  23年度のモデル事業の取り組みの結果を報告書にまとめ、指導員研修会を通じて全放課後児童クラブに紹介しました。今後は、モデル事業の成果を踏まえ、放課後児童ヘルパーや放課後ジュニアリーダー、活動支援事業指導員を活用して、各クラブでの取り組みを促進していく必要があります。  次年度の活動計画(見直し内容)  各クラブの先進的な取り組み事例を指導員研修会を通じて紹介したり、個別に助言等を行うなどして、各クラブの取り組みを促進していきます。実施クラブが増えることで、経済的・効率的に事業が実施できるようになるため、事業費は縮小します。	その結果目指す成果(次年度の成果目標)  夏の教室(地域版)の実施クラブの割合を増やし、放課後児童クラブの魅力向上させていきます。
---------------	--	---

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	放課後ジュニアリーダープログラムの展開						施策番号
							I-1-(1)-①
<b>コスト</b>	事業費	平成23年度執行額 0千円	平成24年度当初予算額 0千円	人件費の目安	金額 1,000千円 (備考)	担当局	子ども家庭局
					課長 0人 職員 0人	担当課	子育て支援課
					係長 0.1人	課長名	大下

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたのか 高学年児童(5~6年生)をジュニアリーダーとし、指導員、放課後児童ヘルパーとともに、低学年児童等のお世話をすることで、高学年児童の思いやりの心や自立心を促していきます。	<b>成果実績</b>	下記の代表的な成果指標のとおりです。
-----------	--	-------------	--------------------

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
		放課後児童クラブの魅力向上 学校や地域と連携し、活動内容の充実を図ることで、各地域の特色を活かした魅力ある放課後児童クラブの運営が促進されると考え、指標として掲げました。 (最終目標と目標年度)		向上		
	(最終目標と目標年度)				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

<b>活動計画</b>	夏の教室(地域版)のモデル事業の実施に併せ、高学年児童をジュニアリーダーに位置づけ、体験活動に関わらせるモデル事業を実施します。モデル事業は6クラブ程度で実施します。	<b>活動実績</b>	活動結果は下記のとおりです。
-------------	---	-------------	----------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
		実施クラブの割合 高学年児童の受け入れに伴い、異学年間の交流を活かした活動内容の充実を図ります。 (最終目標と目標年度) 50%(26年度)	0%	単年度の目標設定はありません	8.2%	
					大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	夏の教室(地域版)のモデル事業に併せ、12クラブで、高学年児童をジュニアリーダーに位置づけたモデル事業を実施しました。これらのクラブでは、体験活動の中で、高学年児童が指導員のお手伝い等を積極的に行い、普段取り組めない活動を行うことができたことから、モデル期間終了後もこの取り組みを継続・発展させ、魅力あるクラブづくりを進めています。なお、この活動の中で、低学年児童との異学年交流が促進され、高学年児童に思いやりや精神的な成長が見られました。有効性の高い取り組みと考えています。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	普段、利用しているクラブ(身近な場所)で、思いやりの心等を育む貴重な体験活動(夏の教室(地域版)等での活動)ができることから、効率性の高い取り組みと考えています。

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題 23年度のモデル事業の取り組みの結果を報告書にまとめ、指導員研修会を通じて全放課後児童クラブに紹介しました。今後は、モデル事業の成果を踏まえ、夏の教室(地域版)の実施に併せ、各クラブでの取り組みを促進していく必要があります。	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	次年度の活動計画(見直し内容)	
	各クラブの先進的な取り組み事例を指導員研修会等を通じて紹介したり、個別に助言等を行うなどして、各クラブの取り組みを促進していきます。	高学年児童をジュニアリーダーに位置づけて活動するクラブの割合を増やし、放課後児童クラブの魅力を向上させていきます。

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	母親学級等の充実						施策番号			
							I-1-(1)-②			
<b>コスト</b>	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	500 千円	(備考)	担当局	子ども家庭局		
	26,261 千円	28,117 千円		課長	0 人		職員	0 人	担当課	子育て支援課
				係長	0.1 人				課長名	松成

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	妊娠や出産・育児に関する知識の普及を図るため、土日開催や託児を設けるなど、開催方法等を検討し、参加しやすい教室を実施します。				<b>成果実績</b>	できるだけ多くの方が参加できるように、チラシの作成や電話勧奨などで工夫しています。参加人数が増えています		
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】			
	安全に安心して妊娠・出産できる環境づくり 母体の心身の変化が著しい妊娠。出産期における不安軽減を図るため、妊娠や出産・育児に関する情報提供及び知識普及の場を提供します。 (最終目標と目標年度)			妊娠や出産・育児に関する情報提供及び知識普及の場を提供			代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック		
	子育ての悩みや不安を感じる人の割合(就学前児童の保護者) 多くの保護者が子育ての悩みや不安を感じており、施策を着実に推進していく上で重要な指標であることから、設定しました。最終目標は「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 減少(26年度)	34.6 %	減少	38.0 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調			

<b>活動計画</b>	母子の健康確保や妊婦同士の交流や妊娠・出産・育児に必要な知識を提供するため、妊婦を対象とした母親学級を各区で開催します。また、教室内容の充実を図るため、医療機関における保健指導の実施状況について調査します。						<b>活動実績</b>	活動結果は下記のとおりです。		
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】				
	母親学級開催数 より多くの妊産婦やその家族に対して、妊娠・出産・育児に必要な知識の普及を図ることは重要です。	100 回	維持	84 回		活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック				
	母親学級参加者数 より多くの妊産婦やその家族に対して、妊娠・出産・育児に必要な知識の普及を図ります。	1,254 人	参加者数の向上	1,707 人	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調				

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】 【活動の状況】</b> を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	参加者からは仲間ができて、参考になったとの意見があり、妊婦同士の交流や妊娠・出産・育児に必要な知識を提供し交流する場として、事業の有効性は高いと考えています。
	<b>「経済性」 「効率性」</b> の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	関係機関と連携し、参加しやすい教室内容を工夫することで、より効果的な情報提供を行うことが必要です。

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	参加者からは仲間ができて、参考になったとの意見があります。妊婦同士の交流の場の確保や妊娠・出産・育児に必要な知識を効率的に提供する場が必要です。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	
	事務の見直しなどにより、事業全体の予算は縮小しますが、出産や育児の負担が母親のみにかからないよう、夫婦で協力して育児に取り組む大切さを認識する機会になっていることから、今後も学級での指導内容の見直しを図りながら事業を行っていきます。	就学前児童の保護者に対して、子育ての悩みや不安を感じる人の割合を減少させます。

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	母子健康手帳の充実						施策番号	
							I-1-(1)-②	
<b>コスト</b>	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費の目安	金額	5,250 千円 (備考)	担当局	子ども家庭局	
	26,261 千円	28,117 千円		課長	0 人 職員 0.5 人		担当課	子育て支援課
				係長	0.2 人			課長名

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたのか 母子の健康状態を記録するとともに、妊娠・出産・育児に関する正しい知識を提供することで、母子の健康の保持及び増進を図ります。また、妊婦健診の早期受診の勧奨やマタニティマーク等の情報を効果的に提供し、安心して妊娠・出産ができる環境づくりを推進します。	<b>成果実績</b>	下記の代表的な成果指標のとおりです。
-----------	---	-------------	--------------------

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
		妊娠11週までの妊娠届出者の割合 母体の健康保持および胎児の健やかな発育を促すためには、妊娠早期から妊婦健診を受診することが必要であるため、成果指標として掲げました。最終目標は「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 100%(26年度)	91.0 %	増加	91.8 %	
	(最終目標と目標年度)				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

<b>活動計画</b>	妊婦健診の周知を図り、妊娠11週までの妊娠届出者の割合を増加させます。また、母子健康手帳交付時に、子育てに関する情報を提供し、保健師等の専門職が相談に応じ、妊娠中からの継続した支援を行います。	<b>活動実績</b>	活動結果は下記のとおりです。
-------------	--	-------------	----------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
		母子健康手帳の交付数 個別面接による随時交付を実施することで、ハイリスク者への相談・支援の機会を保障します。母子健康手帳交付時に安全な出産のための妊婦健診の重要性について説明します。	8,746 件	全妊婦への面接	8,566 件	
	母子健康手帳の交付案内の配布 母子健康手帳交付のご案内のチラシを作成し、関係機関と協力して、母子健康手帳の交付の周知活動を行います。	13,000 枚	関係機関への必要枚数の配布	13,000 枚	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。
	<b>「経済性」</b> <b>「効率性」</b> の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。 関係団体の意見を参考に、北九州市独自の母子健康手帳を作成しているため、コストダウンは難しい状況です。

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題 母体の健康保持および胎児の健やかな発育を促すためには母子健康手帳の交付時に妊婦に必要な情報を提供することが重要です。そのために確実な面接を実施することや、より使いやすい母子健康手帳を作成する必要があります。
	次年度の活動計画(見直し内容)
	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	事務の見直しなどにより、事業全体の予算は縮小しますが、母子健康手帳の利便性に対する要望に応えるため、関係機関と協力して内容の充実や、利便性の向上に努めます。
	母体の健康保持および胎児の健やかな発育を促すためには、妊娠早期から妊婦健診を受診することが必要であるため、妊娠11週までの妊娠届出者の割合の増加を目指します。

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	<b>母子健康診査事業</b>						施策番号	
							I-1-(1)-②	
<b>コスト</b>	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	3,500 千円 (備考)	担当局	子ども家庭局	
	921,964 千円	971,089 千円		課長	0 人 職員 0.4 人		担当課	子育て支援課
				係長	0.1 人			課長名

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたのか	妊婦や乳幼児に対する健康診査を公費助成することで、子育て世帯の経済的な負担を軽減するとともに、母体の健康維持や胎児の健やかな発育を支援します。	<b>成果実績</b>	妊娠早期から母体の健康維持に配慮できることを目指して、関係機関とともに母子健康診査の受診率向上に取り組んでいます。
-----------	--------------------	---	-------------	---

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	妊娠11週までの妊娠届出者の割合	母体の健康保持および胎児の健やかな発育を促すためには、妊娠早期から妊婦健診を受診することが必要であるため、成果指標として掲げました。最終目標は「元気発進! 子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 100%(26年度)	91.0 %	増加	91.8 %	
(最終目標と目標年度)					大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

<b>活動計画</b>	妊婦健診の公費助成を14回行うとともに、受診勧奨を行うことで、受診率を向上させます。また、様々な機会を通じて妊婦健診を周知し、11週までの妊娠届出者数を増加させます。	<b>活動実績</b>	活動結果は下記のとおりです。
-------------	---	-------------	----------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	妊婦健診受診率	母体の健康を保持し、安心して出産・産後するために、妊婦健診を受診することは必要です。 (最終目標と目標年度) 100%(平成26年度)	96.6 %	増加	98.5 %	
3歳児健診受診率	乳幼児の健康を保持し、健全な育成を促すために、乳幼児健診を受診することは必要です。 (最終目標と目標年度) 90%(平成26年度)	87.8 %	増加	89.9 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。  妊娠早期から健診を確実に受診することや乳児期に適宜健診を受診することは、疾病の予防や異常の早期発見につながることから、母体や乳幼児の健康保持のために母子健康診査は重要です。
	<b>「経済性」</b> <b>「効率性」</b> の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。  関係機関等と協議して実施しているため、これ以上のコスト削減は困難です。

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題 妊婦が必要な回数(14回程度)の妊婦健康診査が受けられるよう、平成21年度から妊婦健康診査支援基金が創設され、国庫補助(1/2)と地方財政措置(1/2)により支援されていましたが、平成24年度末で、基金が終了することとなり、より恒常的な仕組みへの移行が、国において検討されています。平成24年度以降も妊婦健診の公費助成を継続できるよう、あらゆる機会を通じて国に要望します。 妊婦健診の公費助成回数拡充及び項目を追加し、健診の周知を図ったことで、妊娠早期から受診する人が増加しています。	その結果目指す成果(次年度の成果目標)  母体の健康保持および胎児の健やかな発育を促すためには、妊娠早期から妊婦健診を受診することが必要であるため、妊娠11週までの妊娠届出者の割合の増加を目指します。
	次年度の活動計画(見直し内容)  今後も健診の周知や健診項目の見直しなど支援の充実を図り、事業を継続していきます。また、早期発見することで障害の予防や軽減及び死亡を防ぐことができる疾患の種類を増やすため、新たな検査方法を導入するため予算を拡充します。	

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	生後4か月までの乳児家庭全戸訪問事業の充実						施策番号
							I-1-(1)-②
<b>コスト</b>	事業費	平成23年度執行額 43,979 千円	平成24年度当初予算額 46,339 千円	人件費 の目安	金額 2,750 千円 (備考)	担当局	子ども家庭局
					課長 0 人 職員 0.3 人	担当課	子育て支援課
					係長 0.1 人	課長名	松成

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	生後4か月までの乳児がいる家庭を訪問し、子育ての孤立化を防ぐために、様々な不安や悩みを聞き、子育て支援に関する必要な情報提供を行うとともに、支援が必要な家庭に対しては適切なサービス提供に結びつけることにより、地域のなかで子どもが健やかに育成できる環境整備を図ります。	<b>成果実績</b>	下記の代表的な成果指標のとおりです。
-----------	---------------------	---	-------------	--------------------

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
		生後4か月までの乳児家庭訪問の割合 育児の孤立化を防ぎ、子育てに関する情報を提供するために、生後4ヶ月までの間に乳児がいる家庭を訪問することは有効な手段であることから成果指標として掲げました。最終目標は「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 100% (26年度)	81.1 %	増加	84.8 %	
	(最終目標と目標年度)				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

<b>活動計画</b>	訪問を継続実施し、訪問担当者に対する研修会を行うなど、事業の充実を図ります。訪問等で直接面接して情報を提供します。	<b>活動実績</b>	活動結果は下記のとおりです。
-------------	---	-------------	----------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
		専門職による訪問 全戸家庭訪問により、母体の健康保持および胎児の健やかな発育を促すためには、専門職の訪問が必要なため指標に掲げました。	5,685 件	適切な訪問	5,855 件	
					大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及課題の整理</b>	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	対象家庭に訪問した結果、81%は実際に面接できており、面接できなかった家庭に対しても、その後の乳児健診において支援を行っています。子育ての孤立化を防ぎ、地域での見守り体制を充実していくために、今後も事業を継続します。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	地域の主任児童委員や専門職が実施しているため、これ以上のコスト削減は困難です。

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題 要支援家庭を把握するためには訪問して面接することが必要です。対象家庭に訪問した結果、81%は実際に面接できています。面接できなかった家庭に対しても、その後の支援を行うことが必要です。	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	次年度の活動計画(見直し内容)	
	事務の見直しなどにより、事業全体の予算は縮小しますが、子育ての孤立化を防ぎ、地域での見守り体制を充実していくために、今後も事業を継続します。また、医療機関との連携を強化し、対象家庭を早期に訪問するための体制について検討します。	育児の孤立化を防ぎ、子育てに関する情報を提供するために、生後4か月までの乳児家庭訪問の割合を増加させます。

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	産後うつ対策の充実						施策番号	
							I-1-(1)-②	
<b>コスト</b>	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	4,250 千円 (備考)	担当局	子ども家庭局	
	43,979 千円	46,339 千円		課長	0 人 職員 0.5 人		担当課	子育て支援課
				係長	0.1 人			課長名

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたのか	産後のうつ状態等を早期に把握し、きめ細かに支援するために全産婦に産後うつを早期に発見するための質問票表を用いるとともに医療機関と行政が連携し、産後うつに対して早期対応する体制を整備します。	<b>成果実績</b>	産後に訪問等により、専門的な質問票を実施することで、適切に支援することができず。質問票を実施する産婦の数は増加しています。
-----------	--------------------	--	-------------	---

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
		子育ての悩みや不安を感じる人の割合 (就学前児童の保護者) 多くの保護者が子育ての悩みや不安を感じており、施策を着実に推進していく上で重要な指標であることから、設定しました。最終目標は「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 減少(26年度)	34.6 %	減少	38.0 %	
	(最終目標と目標年度)				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

<b>活動計画</b>	全戸訪問での面接を目指します。産後うつ質問票を実施し、必要な場合は適切に継続支援します。訪問を継続実施するとともに、連携体制の充実を図るため、関係機関と連携します。	<b>活動実績</b>	活動結果は下記のとおりです。
-------------	--	-------------	----------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
		専門職による産後うつ質問票の実施件数 産後うつ質問表を活用することで、産後うつの早期発見につながります。	5,456 件	増加	5,477 件	
	質問票の実施により継続支援した件数 産後うつを早期に発見し対応することで、育児負担を軽減につながります。	746 件	適切な継続	715 件	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	対象家庭に訪問した結果、81%は実際に面接できており、面接できなかった家庭に対しても、その後の乳児健診において支援を行っています。子育ての孤立化を防ぎ、地域での見守り体制を充実していくために、今後も事業を継続します。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」 「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	産婦の状況に応じて地域の主任児童委員や専門職が実施しているため、これ以上のコスト削減は困難です。

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題 要支援家庭を把握するためには訪問して面接することが必要です。対象家庭に訪問した結果、81%は実際に面接できています。面接できなかった家庭に対しても、その後の支援を行うことが必要です。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	事務の見直しなどにより、事業全体の予算は縮小しますが、子育ての孤立化を防ぎ、地域での見守り体制を充実していくために、今後も事業を継続します。また、医療機関との連携を強化し、対象家庭を早期に訪問するための体制について検討します。	産後うつを適切な方法で発見し、訪問等で支援することで就学前の児童の保護者に対して、子育ての悩みや不安を感じる人の割合を減らします。

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	(仮称)養育支援が必要な家庭への訪問指導員派遣事業						施策番号
							I-1-(1)-②
<b>コスト</b>	事業費	平成23年度執行額 0千円	平成24年度当初予算額 0千円	人件費 の目安	金額 875千円 (備考)	担当局	子ども家庭局
					課長 0人 職員 0.1人	担当課	子育て支援課
					係長 0.1人	課長名	松成

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	養育に問題を抱えている家庭に対し、訪問指導員がその居宅を訪問し、家事・育児に関する指導・助言等を行うことにより、当該家庭の養育能力の向上を図ります。	<b>成果実績</b>	自治体によって対象者や回数、費用など特徴があります。北九州市として早期に養育支援をする方法を検討しています。		
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	子育ての悩みや不安を感じる人の割合(就学前児童の保護者)	34.6 %	減少	38.0 %		代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	多くの保護者が子育ての悩みや不安を感じており、施策を着実に推進していく上で重要な指標であることから、設定しました。最終目標は「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 減少(26年度)					
(最終目標と目標年度)				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	やや遅れ	

<b>活動計画</b>	検討資料とするため、他都市の実施状況を確認します。	<b>活動実績</b>	活動結果は下記のとおりです。			
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	養育支援体制の検討		単年度の目標設定はありません			活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	他都市の状況を参考にしながら、養育支援の体制を検討します。					
(最終目標と目標年度)				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調	

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	養育に問題を抱える家庭に対して継続した支援を行うことは育児不安の軽減を図り、児童虐待予防につながるから重要です。養育支援の必要な家庭の実態や他都市の実施状況を把握・分析した結果、約半数の政令指定都市が実施しており、派遣する対象者や実施回数等についても、各市において特徴があることがわかりました。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」 「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	効果的に実施できるよう、関係機関と連携する必要があります。

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題
	虐待予防の観点から、特定妊婦や要支援家庭に対して妊娠中、または出産後早期に支援できる体制作りが必要です。
	次年度の活動計画(見直し内容)
	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	妊娠期からの養育支援のため医療機関等と連携体制の構築を図るとともに養育支援対象者の訪問体制を検討します。
	就学前の児童の保護者に対して、子育ての悩みや不安を感じる人の割合を減らします。

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	乳幼児健診における問診項目の見直し						施策番号
							I-1-(1)-②
<b>コスト</b>	事業費	平成23年度執行額 26,261 千円	平成24年度当初予算額 28,117 千円	人件費の目安	金額 4,500 千円 (備考)	担当局	子ども家庭局
					課長 0 人 職員 0.4 人	担当課	子育て支援課
					係長 0.2 人	課長名	松成

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	乳幼児健診等における発達障害の早期発見の精度を上げ、標準化するため、受診票の問診項目の見直しを行います。	<b>成果実績</b>	乳幼児健診で適切に発達障害を早期発見するため、専門家による乳幼児健診問診項目等の見直し検討会を開催しました。
-----------	---------------------	--	-------------	--

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
		子育ての悩みや不安を感じる人の割合 (就学前児童の保護者) 多くの保護者が子育ての悩みや不安を感じており、施策を着実に推進していく上で重要な指標であることから、設定しました。最終目標は「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 減少(26年度)	34.6 %	減少	38.0 %	
	(最終目標と目標年度)				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

<b>活動計画</b>	母子保健調査研究事業(小児保健研究会)において、発達障害を早期に発見するための乳幼児健診項目について検討します。また、その結果を踏まえ、関係機関と協議します。	<b>活動実績</b>	活動結果は下記のとおりです。
-------------	---	-------------	----------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
		問診項目の見直しの推進 (検討会の実施) 乳幼児健診の問診を適切に実施することで、発達障害を早期に発見し、支援に繋がります。そのために医療関係者、大学関係者など専門家と検討会を実施しました。	0 回	検討会の実施	1 回	
					大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。
	<b>「経済性」</b> <b>「効率性」</b> の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。  効果的に実施できるよう関係機関と連携する必要があります。

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題  発達障害の診断の有無にかかわらず、子育てや発達の不安を受け止め、支援する体制が必要です。そのため「少し気になる」などグレーゾーンの段階から、子どもとその親が専門家に相談できる体制づくりが必要です。	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	次年度の活動計画(見直し内容)	就学前の児童の保護者に対して、子育ての悩みや不安を感じる人の割合を減らします。

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	乳幼児発達相談指導事業の拡充						施策番号
							I-1-(1)-②
<b>コスト</b>	事業費	平成23年度執行額 26,261 千円	平成24年度当初予算額 28,117 千円	人件費の目安	金額 2,750 千円 (備考)	担当局	子ども家庭局
					課長 0 人 職員 0.1 人	担当課	子育て支援課
					係長 0.2 人	課長名	松成

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	心身の発達が気になる乳幼児について、医師・臨床心理士・保育士等がチームで相談に応じ、保護者の育児不安に対応することで、発達障害等を早期に発見し、乳幼児の健全な発達を支援します。				<b>成果実績</b>	わいわい子育て相談の中で遊びを通じた指導をした区を除いて、親子遊びに特化した「親子遊び教室」を6区で開催しました。
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】	
	親子遊び教室の開催数	6 区	—	6 区	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	発達相談の中で気になる親子に対しては、専門職による継続した支援が必要であるため、成果指標として掲げました。最終目標は「元気発達！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 全区で開催(26年度)			順調			
(最終目標と目標年度)							

<b>活動計画</b>	親子を対象にした遊びや相談に応じる教室を実施し、子どもの発達を促すとともに、親の育児不安の軽減に繋がります。	<b>活動実績</b>	活動結果は下記のとおりです。			
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	わいわい子育て相談の実施回数	104 回	168 回	105 回	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	発達が気になる子どもを早期に発見し、親子を支援するために相談体制の充実が必要です。			62.5 %		
わいわい子育て相談の参加者数	349 人	増加	366 人	順調		
発達相談の中で気になる子どもを早期に発見し、支援するために相談体制の充実が必要です。						

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	発達障害を早期に発見し支援することは、子どもの健やかな発育を促し、保護者の不安の軽減や様々な問題を予防することができます。早期発見及び早期支援体制の強化が求められていることから、回数の拡充や関係機関との連携を強化する等、事業の充実が必要です。
	<b>「経済性」</b> <b>「効率性」</b> の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	医療関係者等の専門職が実施していることから、これ以上のコスト削減は困難です。

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題  発達障害を早期に発見し支援することは、子どもの健やかな発育を促し、保護者の不安の軽減や様々な問題を予防することができます。発達が気になる乳幼児が増加傾向にあり、早期発見及び早期支援体制の強化が求められていることから、回数の拡充や関係機関との連携を強化する等、事業の充実が必要です。  次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)  事務の見直しなどにより、事業全体の予算は縮小しますが、今後、発達障害などの心配のある子どもの増加が考えられるため、その受け入れ体制や不安を持つ保護者への支援を検討します。あわせて、発達過程で経過を見る必要がある親子に対応するための親子遊び教室を各区で実施するなど、効果的な事業の推進を図ります。
---------------	---	--

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	育児教室等の充実						施策番号
							I-1-(1)-②
<b>コスト</b>	事業費	平成23年度執行額 26,261 千円	平成24年度当初予算額 28,117 千円	人件費 の目安	金額 1,250 千円 (備考)	担当局	子ども家庭局
					課長 0 人 職員 0.1 人	担当課	子育て支援課
					係長 0.1 人	課長名	松成

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたのか	乳幼児の子育てや基本的な生活習慣等に関する知識の普及を図るため、土日開催や託児を設けるなど、開催方法等を検討し、参加しやすい教室を実施します。	<b>成果実績</b>	参加人数の増減にとらわれず、継続的に身近な場所で適切な情報を提供できる教室等を開催します。必要な情報が提供できる場として充実させるため、乳幼児健診等のアンケートを分析教室に生かしていきます。
-----------	--------------------	---	-------------	---

	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
<b>代表的な成果指標</b>	子育ての悩みや不安を感じる人の割合 (就学前児童の保護者)	34.6 %	減少	38.0 %		代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	多くの保護者が子育ての悩みや不安を感じており、施策を着実に推進していく上で重要な指標であることから、設定しました。最終目標は「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 減少(26年度)					大変順調 順調 やや遅れ 遅れ
	(最終目標と目標年度)					

<b>活動計画</b>	母子の健康確保のため、乳幼児の保護者を対象とした育児教室を各区で開催します。子どもを持つ親同士との交流や育児に必要な知識を提供します。また、教室内容の充実を図るため、医療機関における保健指導の実施状況について調査します。	<b>活動実績</b>	活動結果は下記のとおりです。
-------------	--	-------------	----------------

	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
<b>活動指標</b>	育児教室開催数	671 回	継続的な開催	601 回		活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	より多くの乳幼児の保護者に対して、基本的な生活習慣や事故予防など、育児に必要な知識の普及を図ります。					大変順調 順調 やや遅れ 遅れ
	育児教室参加者数	12,485 人	増加	10,010 人		
	より多くの乳幼児の保護者に対して、基本的な生活習慣や事故予防等、育児に必要な知識の提供を図ります。					

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析</p> <p>活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。</p>	<p>基本的な生活習慣を育成するためには、乳幼児期は大切な時期であることから、乳幼児を持つ保護者に対して、知識の普及を図ることは重要です。また、子どもを持つ保護者同士が交流し情報を交換することで、育児に関する不安の軽減が図られています。</p>
	<p>「同じ成果をより低いコストで」 「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。</p>	<p>関係機関と連携し、参加しやすい教室内容を工夫することで、より効果的な情報提供を行うことが必要です。</p>

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	<p>課題</p> <p>妊娠中の喫煙や乳児の事故、乳幼児期からのメディア接触などの課題があります。食育や運動、生活リズムの確立など基本的な生活習慣の重要性について伝える機会が必要です。</p>	
	<p>次年度の活動計画(見直し内容)</p> <p>基本的な生活習慣を育成するためには、乳幼児期は大切な時期であり、乳幼児を持つ保護者に対して、知識の普及を図ることは重要です。事務の見直しなどにより、事業全体の予算は縮小しますが、今後も乳幼児の健診結果に基づいた教室の内容にするなど、実態を反映した育児教室を実施していきます。</p>	<p>その結果目指す成果(次年度の成果目標)</p> <p>就学前の児童の保護者に対して、子育ての悩みや不安を感じる人の割合を減少させます。</p>

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	食を通じた乳幼児等の健康づくり						施策番号
							I-1-(1)-②
<b>コスト</b>	事業費	平成23年度執行額 2,231 千円	平成24年度当初予算額 1,400 千円	人件費 の目安	金額 5,690 千円 (備考)	担当局	子ども家庭局
					課長 0 人 職員 0.7 人	担当課	子育て支援課
					係長 0.1 人	課長名	松成

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	妊産婦や乳幼児の食事に関する悩みや不安を解消するために、ニーズに応じた母子栄養教室内容の充実や、参加しやすい教室を開催し、栄養指導・啓発を行います。	<b>成果実績</b>	「平成23年度北九州市健康づくり実態調査」において、子どもの食事のことを学ぶ機会があった保護者の割合が20年度の51.1%から57.6%と増加しており、教室等の参加がしやすくなったと評価できます。		
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	子育ての悩みや不安を感じる人の割合(就学前児童の保護者)	34.6 %	減少	38.0 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	多くの保護者が子育ての悩みや不安を感じており、施策を着実に推進していく上で重要な指標であることから、設定しました。最終目標は「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 減少(26年度)					
(最終目標と目標年度)						

<b>活動計画</b>	25回と教室開催回数は減りましたが、対象者のニーズやコスト面を考慮した実施会場の設定や運営の委託化を行う予定です。また、リーフレットの配布を行い、より多くの市民に啓発していきます。	<b>活動実績</b>	活動結果は下記のとおりです。			
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	教室開催回数	28 回	25 回	25 回	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	食について学ぶ機会があった保護者のほうが、野菜の摂取量やバランスの取れた食生活が実践できているという調査結果から、市民がより参加しやすい形に見直した教室の開催回数を活動指数として掲げました。 (最終目標と目標年度) 30回(26年度)			100.0 %		順調
(最終目標と目標年度)						

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。
	<b>「経済性」</b> <b>「効率性」</b> の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。
		25回と教室開催回数は減ったが、対象者のニーズやコスト面を考慮した実施会場の設定や運営の委託化を行った。また、幼稚園、保育所等へのリーフレットの配布を行い、より多くの市民に啓発できました。
		教室を休日に開催したことにより、職員の休日の人件費を押さえるため、教室の運営委託を行い、人件費を抑えました。

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題  12月まで16回開催しており、回数は減っていますが、年度の目標回数は予定どおり開催しています。委託化により効率的に運営すること、また、開催会場が東部地域に片寄り、西部地域の対象者が参加しにくい状況にあること、参加者には大変好評ですが参加者が少ない教室もあることが課題です。	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	次年度の活動計画(見直し内容)	子育ての悩みや不安を感じる人の割合(就学前児童の保護者)を減少させます。
	平成25年度予算は減額しますが、西部地域の対象者にも参加しやすいように母子栄養教室を西部地域でも開催します。また、参加人数が少ない教室を他の教室と統合するなど、見直しを図ります。	

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	「思春期保健連絡会」の設置						施策番号
							I-1-(1)-②
<b>コスト</b>	事業費	平成23年度執行額 786 千円	平成24年度当初予算額 3,300 千円	人件費の目安	金額 3,500 千円 (備考)	担当局	子ども家庭局
					課長 0 人 職員 0.2 人	担当課	子育て支援課
					係長 0.2 人	課長名	松成

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたのか	思春期の心身の変化を正しく理解し、自分自身の心と体を大切にする健康教育を推進するため、医療・学校・地域・行政等の関係者による連絡会を開催し、現状の把握や課題の共有および連携強化を図るとともに、思春期保健の対策等について協議します。協議の結果等を踏まえ、思春期の健康教育を効果的に実施します。	<b>成果実績</b>	代表的な成果指標の他に、性教育関連イラスト集(CD版および冊子)が完成し、健康教育に利用できるようになりました。		
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	10代の人工妊娠中絶率 性に関する正しい知識を普及させることで、思春期の性感染症や意図せぬ妊娠の減少を図ります。したがって、指標として掲げました。最終目標は「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 低下(26年度)	24年度秋に確定	低下	25年秋に確定		代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	(最終目標と目標年度)			大変順調 順調 やや遅れ 遅れ		順調

<b>活動計画</b>	思春期の子どもへの課題を共有し、健康教育を推進するために、医療・保健・教育等の思春期保健関係者による連絡会を開催します。また、モデル教室を実施し、その結果を検証するとともに、平成22年度に作成した「保健指導イラスト教材集」の改訂を行います。	<b>活動実績</b>	活動結果は下記のとおりです。			
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	連絡会の開催 思春期保健連絡会を開催し、関係者の連携を強化します。思春期保健の課題を共有し、効果的に健康教育を推進するのに重要です。	6 回	適切な開催	6 回		活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	健康教室の開催 小・中学校における健康教室の実施による知識の普及啓発、課題の共有。	0 回	適切な実施	22 回	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	思春期の子どもへの課題を共有し、健康教育を推進するために、医療・保健・教育等の思春期保健関係者による連絡会を開催しました。また、モデル教室を実施し、その結果を検証するとともに、平成22年度に作成した「保健指導イラスト教材集」の改訂を行いました。
	<b>「経済性」</b> <b>「効率性」</b> の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	様々な関係団体との連携強化を図ることで、教材を作成することができました。それを利用した健康教室をすることで効率的な実施ができています。

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題 10代の妊娠中絶率や薬物乱用、メディアリテラシー、飲酒・喫煙、深夜徘徊など思春期を取り巻く課題は様々です。継続的は思春期の健康教育が必要です。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	事務の見直しなどにより、予算は縮小しますが、モデル教室の検証結果を踏まえ、小中学校における思春期健康教室の実施を拡大・充実していくことで、効果的な思春期の心とからだの健康教育を推進します。併せて、保護者に対する啓発や支援体制の検討を行います。	10代の意図しない妊娠など思春期の子どもへの心身の問題に対応するため、10代の人工妊娠中絶率の低下を目指します。

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	<b>乳幼児等医療費支給制度</b>						施策番号	
							I-1-(1)-②	
<b>コスト</b>	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	10,400 千円	(備考)	担当局	子ども家庭局
	2,638,578 千円	2,904,711 千円		課長	0.1 人 職員 0.9 人		担当課	子育て支援課
					係長		0.3 人	課長名

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	乳幼児等の健康の保持と健やかな育成を図るため、乳幼児等の保険診療による医療費の自己負担額を助成します。	<b>成果実績</b>	下記の代表的な成果指標のとおりです。		
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	子育ての悩みや不安を感じる人の割合(就学前児童の保護者)	34.6 %	減少	38.0 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	多くの保護者が子育ての悩みや不安を感じており、施策を着実に推進していく上で重要な指標であることから、設定しました。最終目標は「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 減少(26年度)					
	子育ての悩みや不安を感じる人の割合(小学生の保護者)	33.7 %	減少	24.0 %		順調
多くの保護者が子育ての悩みや不安を感じており、施策を着実に推進していく上で重要な指標であることから、設定しました。最終目標は「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 減少(26年度)						

<b>活動計画</b>	平成23年10月より、入院医療費の助成対象を中学校3年生まで拡大します。					<b>活動実績</b>	活動実績は計画通りです。	
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】		
	乳幼児等医療の受給者数(小・中学生を除く)	53,635 人	53,477 人	53,534 人	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
	乳幼児等医療の受給者数が増えることにより、経済面における子育ての悩みや不安を感じる人の割合は減少すると予想されるため、指標として設定しました。			100.1 %				
	小・中学生の入院件数	632 件	1,084 件	1,102 件		順調		
小・中学生の入院件数が増えることにより、経済面における子育ての悩みや不安を感じる人の割合は減少すると予想されるため、指標として設定しました。	101.7 %							

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	受給者数はほぼ目標通りであり、経済面における子育ての悩みや不安を感じる人の割合の減少につながったと考えられるため、施策に対する効果は高いと考えます。
	<b>「経済性」</b> <b>「効率性」</b> の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	保険診療による自己負担額を助成するものであるため、代替手段によるコスト削減または市以外の団体による関与は考えられません。

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題 受給者数及び小・中学生の入院件数ともに目標通りであり、経済面における子育ての悩みや不安を感じる人の割合の減少につながったと考えます。小・中学生の入院医療費の助成については、引き続き制度の周知に努めます。	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	次年度の活動計画(見直し内容)	医療費の自己負担額を助成することにより、「子育ての悩みや不安を感じる人の割合」について、現状通りの成果を目指します。
	現行制度を継続して実施し、事業費についても、現状通りとします。	

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	特定不妊治療費助成						施策番号
							I-1-(1)-②
<b>コスト</b>	事業費	平成23年度執行額 105,929 千円	平成24年度当初予算額 112,901 千円	人件費の目安	金額 6,500 千円 (備考)	担当局	子ども家庭局
					課長 0 人 職員 0.8 人	担当課	子育て支援課
					係長 0.1 人	課長名	松成

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたのか	不妊に悩む夫婦が、経済的理由で不妊治療を断念することがないように、医療費が高額な特定不妊治療に要する費用の一部を助成することにより、経済的負担の軽減を図ります。また、専門の相談窓口を設置し、不妊に関する様々な相談に応じることで、心身にわたる悩みを軽減します。	<b>成果実績</b>	不妊相談件数、助成件数ともに増加しました。安心して不妊治療を受けることができる環境作りに取り組みました。		
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	不妊治療に関する支援の充実および市民の理解促進					大変順調 順調 やや遅れ 遅れ
	不妊治療について経済的負担の軽減を図るとともに、不妊に関する広報等を行い、治療を行う夫婦のみならず、その家族や市民にも不妊治療に関する理解を深めます。 (最終目標と目標年度)					
(最終目標と目標年度)					順調	

<b>活動計画</b>	5年間の助成期間のうち、1年目の公費助成回数を3回に拡充します。また、情報誌への掲載や交流会の開催など不妊に関する情報の普及啓発に努めます。そのことで必要な人に支援が届くようにします。	<b>活動実績</b>	活動結果は下記のとおりです。			
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	助成件数	533 件	適切な助成	684 件	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	不妊に悩む夫婦が経済的理由で不妊治療を断念することがないように、助成することが必要です。					
相談件数	363 件	増加	392 件	順調		

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	特定不妊治療費の助成を受ける夫婦が年々増加しており、制度の認知は徐々に広がっていることから、今後も事業の周知を図っていきます。また、不妊に関する相談者も増加しており、相談内容も多様になっているため、相談を受ける専門職のスキルアップや不妊に悩む方の交流会等を実施し、事業を継続します。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」 「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	助成内容は国の要綱に基づいて実施しています。

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題	不妊治療を希望する夫婦が増えており、今後も周知が必要です。また、治療等について、深刻な相談もあることから、相談窓口の充実が重要です。
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	特定不妊治療費の助成を受ける夫婦が年々増加しており、今後も事業の周知を図っていきます。また、不妊に関する相談者も増加しており、相談内容も多様になっているため、相談を受ける専門職のスキルアップや不妊に悩む方の交流会等を実施するなど、事業を継続します。また、助成希望者の増加に対応できるよう予算を拡充します。	不妊治療に関する支援の充実および市民の理解促進を目指します。

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	子育てに優しいまちづくりに向けたキャンペーン						施策番号
							I-1-(1)-③
<b>コスト</b>	事業費	平成23年度執行額 9,321 千円	平成24年度当初予算額 7,772 千円	人件費 の目安	金額 3,650 千円 (備考)	担当局	子ども家庭局
					課長 0.1 人 職員 0.2 人	担当課	子ども家庭政策課
					係長 0.1 人	課長名	村地

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたいのか 安心して子どもを生き育てることができるように、本市が子育て日本一を実感できるまちづくりを進めていることを、広く市民にPRするとともに、行政のみならず、身近な地域においても、子育てを家庭を支える環境づくりに取り組んでもらえるよう、キャンペーン(「すくすく子育てフェスタ」)を実施し、地域社会全体で子育てを支援する環境づくりを進めます。	<b>成果実績</b>	親子で楽しみふれあうことができる「すくすく子育てフェスタ」を実施し、市民に「子育て日本一を実感できるまちづくり」を進めていることをPRするなど、地域社会全体で子育てを支援する環境づくりを進めました。
-----------	---	-------------	---

	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
<b>代表的な成果指標</b>	子育てが地域の人に支えられていると感じる人の割合 地域のつながりが希薄化していると言われていた中、子育ての悩みや不安を軽減するため、地域社会全体で子育てを支える意識の醸成や環境整備を望む声があることから、成果指標として設定しました。 最終目標は「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 増加(26年度)	55.2 %	増加	55.9 %		代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	(最終目標と目標年度)				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

<b>活動計画</b>	平成23年12月23日に、西日本総合展示場新館にて、「すくすく子育てフェスタ」を開催します。	<b>活動実績</b>	平成23年12月23日に「すくすく子育てフェスタ」を開催しました。43団体が参加し、9,100人の来場者に、市の子育て支援施策や地域における支援活動のPR、親子のふれあいの場の提供などを行うことができました。
-------------	--	-------------	--

	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
<b>活動指標</b>	「すくすく子育てフェスタ」の来場者数 来場者数の増加が、より多くの市民にPRすることにつながることから、活動指標として掲げました。 (最終目標と目標年度) 10,000人(26年度)	8,400 人	8,400 人	9,100 人 108.3 %		活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	来場者アンケートで「大変良かった」「良かった」と回答した割合 来場者の満足度を測る指標として掲げました。	99.6 %	増加	96.0 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	大変順調

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析 活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	平成23年12月23日に「すくすく子育てフェスタ」を開催しました。43団体が参加し、9,100人の来場者に、市の子育て支援施策や地域における支援活動のPR、親子のふれあいの場の提供などを行うことができました。市の施策や地域における支援活動のPR、親子のふれあいの場の提供などを行うことは、「子育ての悩みや不安の解消」に向け、高い効果が期待できるとともに、本市が子育て日本一を実感できるまちづくりを進めていることを実感してもらえる良い機会となっています。
	<b>「経済性」</b> <b>「効率性」</b> の分析 「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	イベント実施にあたっては競争入札を行うとともに、地域で子育て支援活動に携わっている企業・団体等の協力を得て、経済的・効率的な運営を行っています。また、本市が子育て日本一を実感できるまちづくりを進めていることをPRするのは、本市自身が行うべきであり、実施主体として市が適切であると考えます。

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題 平成23年度に開催した「すくすく子育てフェスタ」は、来場者数9,100名、参加団体数43団体となり、また、来場者アンケートで「大変良かった」「良かった」と回答した割合が96%になるなど大変順調です。引き続き、地域の子育て支援活動に携わっている団体・企業等に参加を呼びかけ、本市が子育て日本一を実感できるまちづくりを進めていることを、広く市民にPRすることが必要です。	その結果目指す成果(次年度の成果目標) 「すくすく子育てフェスタ」を通じて、地域社会全体で子育てを支援する環境づくりを進め、子育てが地域社会全体で支えられていると感じる人の割合の増加を目指します。
	次年度の活動計画(見直し内容) イベント内容や設営費を見直し、事業費の縮小を図りますが、引き続き「すくすく子育てフェスタ」を開催し、市の子育て支援施策や地域における支援活動のPR、親子のふれあいの場を提供します。	

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	子ども家庭レポートの発行						施策番号
							I-1-(1)-③
<b>コスト</b>	事業費	平成23年度執行額 1,411 千円	平成24年度当初予算額 1,409 千円	人件費 の目安	金額 2,900 千円 (備考)	担当局	子ども家庭局
					課長 0.1 人 職員 0.1 人	担当課	子ども家庭政策課
					係長 0.1 人	課長名	村地

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたのか	安心して子どもを生き育てることができるように、本市が取り組んでいる子どもの健全育成や子育て支援についての成果や課題、データを盛り込んだ「子ども家庭レポート」を発行し、幅広く市民に周知することにより、地域社会全体で子育てを支援する環境づくりを進めます。	<b>成果実績</b>	「子ども家庭レポート」を平成23年10月に発行し、幅広く市民に周知することにより、地域社会全体で子育てを支援する環境づくりを進めました。
-----------	--------------------	---	-------------	--

	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
<b>代表的な成果指標</b>	子育てが地域の人に支えられていると感じる人の割合	55.2 %	増加	55.9 %		代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	地域のつながりが希薄化していると言われていた中、子育ての悩みや不安を軽減するため、地域社会全体で子育てを支える意識の醸成や環境整備を望む声があることから、成果指標として設定しました。 最終目標は「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 増加(26年度)					
	(最終目標と目標年度)					
					大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

<b>活動計画</b>	平成23年10月頃に、「子ども家庭レポート」の発行を行います。	<b>活動実績</b>	「子ども家庭レポート」を平成23年10月に1,500冊発行し(その後300冊増刷)、親子ふれあいルーム、子どもの館、子育てふれあい交流プラザ、保育所等を通じて、市民に周知を図りました。
-------------	---------------------------------	-------------	--

	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
<b>活動指標</b>	「子ども家庭レポート」の発行	発行	-	発行		活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	「子ども家庭レポート」を発行することが、幅広く市民に本市の子ども家庭行政を周知することにつながるため、活動指標として掲げました。					
					大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	大変順調

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。  本市が取り組んでいる子どもの健全育成や子育て支援についての成果や課題、データを盛り込んだ「子ども家庭レポート」を平成23年10月に発行し、幅広く市民に周知を図ることにより、子どもの成長と子育てを地域で支える環境づくりを進めました。
	<b>「経済性」</b> <b>「効率性」</b> の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。  契約の際には複数社から見積書を徴収するなど、経済的・効率的な作成・発行に努めています。本市が取り組んでいる子どもの健全育成や子育て支援についての成果や課題、データ等の取りまとめについては、市のみが可能であり、実施主体としては市が適切であると考えます。

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題  本市が取り組んでいる子どもの健全育成や子育て支援についての成果や課題、データを盛り込んだ「子ども家庭レポート」を作成し、より多くの市民への周知に努めるなど大変順調です。引き続き幅広く市民への周知に努めます。	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	次年度の活動計画(見直し内容)	「子ども家庭レポート」による周知を通じて、地域社会全体で子育てを支援する環境づくりを進め、子育てが地域社会全体で支えられていると感じる人の割合の増加を目指します。
	掲載内容等の見直しを含め、経済的・効率的な作成・発行に努めることで事業費を縮小しますが、引き続き「子ども家庭レポート」を発行し、幅広く市民に本市の取り組みを周知します。	

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	子育てに優しいまちづくり(地域の子育て支援)の推進						施策番号
							I-1-(1)-③
<b>コスト</b>	事業費	平成23年度執行額 5,318 千円	平成24年度当初予算額 5,800 千円	人件費 の目安	金額 7,275 千円 (備考)	担当局	子ども家庭局
					課長 0.1 人 職員 0.35 人	担当課	子育て支援課
					係長 0.35 人	課長名	大下

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたのか	地域ぐるみで子育てを支える取り組みを進めていくため、小学校区単位を基本に市民センター等を拠点とした子育て支援活動を促進します。	<b>成果実績</b>	成果の状況は以下のとおりです。
-----------	--------------------	---	-------------	-----------------

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
		子育てが地域の人に支えられていると感じる人の割合 地域のつながりが希薄化していると言われている中、子育ての悩みや不安を軽減するため、地域社会全体で子育てを支える意識の醸成や環境整備を望む声があることから、成果指標として設定しました。最終目標は「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 増加(26年度)	55.2 %	増加	55.9 %	
	子育ての悩みや不安を感じる人の割合(就学前児童の保護者) 多くの保護者が子育ての悩みや不安を感じており、この割合の減少は施策の目標を確実に推進していく上でも重要であることから、成果指標として設定しました。最終目標は「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 減少(26年度)	34.6 %	減少	38.0 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

<b>活動計画</b>	平成23年度は20地域を採択し、財政的支援(子育て支援活動経費として10万円を交付)、人的支援(アドバイザーを地域に派遣し子育て支援活動をサポート)、人材育成支援(子育てに関する研修会(年2回実施)や活動事例報告会(年度末実施))を行います。	<b>活動実績</b>	20地域に補助金の交付、アドバイザーの派遣、人材育成研修会(9、10月)及び活動事例報告会(3月)を開催しました。採択地域においては、地域の実情に応じた、地域ぐるみの子育て支援活動を展開しました。
-------------	---	-------------	--

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
		支援地域数 地域ぐるみで子育てを支えるには、各校区のまちづくり協議会を核としたネットワークによる地域での子育て支援活動の展開が望ましく、地域の実情に応じた子育て支援活動を実施する地域数を拡充していく必要があると考え、支援地域数を活動指標とします。	10 地域	20 地域	20 地域 100.0 %	

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	成果の状況は、年度により若干の上下変動が見られるものの、目標達成に向け推移していることから順調とし、活動の状況については、計画どおりの20地域で、地域の実情に応じた様々な子育て支援活動が実施されたことから、大変順調としました。 また、本年度は20支援地域採択枠に24地域からの申請があったことから、本事業のニーズが高く、地域が主体となって積極的に子育て支援活動に取り組んでいることから、事業目的を達成する上で大変有効的であると考えられます。  本年度、実施した研修会や活動事例報告会では、支援地域以外からの参加者も多数あり、本事業についての関心やニーズが高いことが確認された。このことから、支援地域以外においても、自主的に子育て支援活動へ取り組むこととなれば、効率的に本事業の目的が達成できると考えます。 身近な地域で子育てをさせる仕組みをつくるとともに、子育てを地域で支えるという意識を市民に啓発する必要があることから、実施主体としては市が適切であると考えます。
------------------	-------------------------------	--	--

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題 平成23年度は計画どおりに活動し、成果指標も目標達成に向け推移しています。平成24年度も20地域で順調に活動しています。しかしながら、本年度で7地域の支援が終了したことから、来年度以降についても、これらの地域で自主的な子育て支援活動への取り組みが継続していくことができるよう、フォローしていくことが課題です。	その結果目指す成果(次年度の成果目標) 平成26年度の最終目標の達成に向け、子育てが地域の人に支えられていると感じる人の割合が増加し、子育ての悩みや不安を感じる人の割合が減少するよう、引き続き、身近な地域で子育てを支える取り組みに支援を行い、地域社会全体で子育てを支援する環境づくりを進めます。
	次年度の活動計画(見直し内容) 平成25年度も引き続き20地域を採択し支援します。また、次年度より、支援が終了した地域やその他の地域についてもアドバイザーの派遣や研修会への案内をし、自主的に子育て支援活動に取り組むよう啓発していきます。なお、事業費については、現状を維持します。	

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	<b>赤ちゃんの駅登録事業</b>						施策番号
							I-1-(1)-③
<b>コスト</b>	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	4,400 千円 (備考)	担当局	子ども家庭局
	2,757 千円	2,549 千円		課長	0.1 人 職員 0.3 人	担当課	子ども家庭政策課
				係長	0.1 人	課長名	村地

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたのか	安心して子どもを生き育てることができるように、乳幼児を持つ保護者が外出した際、授乳やおむつ替えができる施設を、「赤ちゃんの駅」として登録し、子育て家庭が安心して外出できる環境づくりを進めます。また、本事業については、公共施設だけではなく、民間事業者の協力も得るなど、地域社会全体で子育て家庭を支える環境づくりを進めます。	<b>成果実績</b>	子育て家庭が安心して外出できるように、登録施設数の増加や利用促進に向けてPR活動に取り組み、地域社会全体で子育て家庭を支える環境づくりを進めました。
-----------	--------------------	--	-------------	--

	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
<b>代表的な成果指標</b>	子育てが地域の人に支えられていると感じる人の割合	55.2 %	増加	55.9 %		代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	地域のつながりが希薄化していると言われていた中、子育ての悩みや不安を軽減するため、地域社会全体で子育てを支える意識の醸成や環境整備を望む声があることから、成果指標として設定しました。最終目標は「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 増加(26年度)					大変順調 順調 やや遅れ 遅れ
	(最終目標と目標年度)					

<b>活動計画</b>	「赤ちゃんの駅」登録施設数増や利用促進に向けて、チラシ等を活用したPR活動を行うほか、「すくすく子育てフェスタ」会場でもPR活動を行います。登録施設には、利用者が気軽に立ち寄れるよう、目印となるステッカー等を目立つ場所に掲示します。	<b>活動実績</b>	下記のほか、チラシや啓発グッズを配布し利用促進に向けたPR活動を実施しました。
-------------	--	-------------	---

	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
<b>活動指標</b>	「赤ちゃんの駅」登録施設数	326 施設	300 施設	342 施設 114.0 %		活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	「赤ちゃんの駅」登録施設数が増加することが、乳幼児を持つ保護者の利便性の向上につながるため、活動指標に掲げました。 (最終目標と目標年度) 300施設(26年度)					大変順調 順調 やや遅れ 遅れ

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及課題の整理</b>	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	「すくすく子育てフェスタ」会場でのPRチラシと啓発グッズの配布、臨時赤ちゃんの駅を設置しPRを行いました。また、各区親子ふれあいルーム等でのPRチラシと啓発グッズの配布など幅広く行い、「赤ちゃんの駅」登録施設数増や利用促進に向けたPRを効果的に実施できました。地域社会全体で子育て家庭を支える環境づくりを進めました。
	【経済性】 【効率性】 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	「赤ちゃんの駅」登録施設の拡充にあたっては、公共・民間施設を問わず、既存の施設を有効活用することとしており、経済的・効率的な登録施設の拡充に努めています。子育てしやすい環境づくりは市が主体で行うもので、市が積極的に関与する必要があります。また、「赤ちゃんの駅」登録施設の拡充のため、民間事業者の無償協力を得るには、実施主体としては市が適切です。

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	平成23年度末の登録施設数が342施設になるなど、子育て家庭が安心して外出できる環境づくりは大変順調に進んでいます。引き続き、登録施設数増や利用促進の取り組みが必要です。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	
	「すくすく子育てフェスタ」を活用した「赤ちゃんの駅」の効率的なPR方法を検討することで、事業費を縮小しますが、平成25年度においても、登録施設数の増加に向けた協力依頼を行うとともに、「赤ちゃんの駅」の認知度向上や利用促進に向けたPR活動を行い、子育て家庭が安心して外出できる環境づくりを進めます。	「赤ちゃんの駅」の登録施設数の増加や利用促進に向けたPR活動に取り組み、地域社会全体で子育てを支える環境づくりを進め、子育てが地域社会全体で支えられていると感じる人の割合の増加を目指します。

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	<b>親子ふれあいルーム整備事業</b>						施策番号
							I-1-(1)-③
<b>コスト</b>	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	7,275 千円 (備考)	担当局	子ども家庭局
	31,456 千円	33,698 千円		課長	0.1 人 職員 0.35 人	担当課	子育て支援課
				係長	0.35 人	課長名	大下

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたのか	乳幼児を持つ保護者の子育てへの不安を軽減するため、親子が気軽に集い、交流、情報交換、育児相談等ができるスペースを既存の公共施設を活用しながら、区役所や児童館などに整備し運営します。				<b>成果実績</b>	成果の状況は以下のとおりです。	
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】		
	子育てが地域の人に支えられていると感じる人の割合 地域のつながりが希薄化していると言われていた中、子育ての悩みや不安を軽減するため、地域社会全体で子育てを支える意識の醸成や環境整備を望む声があることから、成果指標として設定しました。最終目標は「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 増加(26年度)	55.2 %	増加	55.9 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック  <b>順調</b>		
	子育ての悩みや不安を感じる人の割合(就学前児童の保護者) 多くの保護者が子育ての悩みや不安を感じており、この割合の減少は施策の目標を着実に推進していく上でも重要であることから、成果指標として設定しました。最終目標は「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 減少(26年度)	34.6 %	減少	38.0 %				

<b>活動計画</b>	区役所等7か所・児童館10か所での親子ふれあいルームの運営を実施します。 親子ふれあいルームの利用促進を図るため、情報発信(PRチラシ作成、配布等)を実施します。					<b>活動実績</b>	区役所等7か所の親子ふれあいルームについては、委託により運営を実施。(28,441千円) また、PRチラシ(3万枚)を作成、配布し、利用促進を図った。	
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】		
	親子ふれあいルーム利用者数(保護者)	16,007 人	単年度の目標設定はありません	25,347 人	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック  <b>順調</b>		
	親子ふれあいルームを利用することで、子育ての不安や悩みを軽減できると考えられるため、利用者数を活動指標とします。							

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	成果の状況は、年度により若干の上下変動が見られるものの、目標達成に向け推移していることから順調とし、活動の状況については、目標設定はないものの、利用者数が増加していることから、順調としました。 また、親子ふれあいルームの整備については、これまでに区役所等に7か所、児童館に10か所に整備し、「元気発進！子どもプラン」の計画を達成しています。
	<b>「経済性」</b> <b>「効率性」</b> の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	親子ふれあいルームの整備は、既存の公共施設を活用しています。運営については、公募により選考を行い、子育て支援活動の実績のある団体や社会福祉法人へ委託し、民間活用を行っています。今後は親子ふれあいルームの質の向上や利用促進を図るため、運営スタッフへの研修や事業内容についての検討を進めます。

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	<b>課題</b> 平成23年度は計画どおりに活動し、成果指標も目標達成に向け推移しています。平成24年度も順調に活動し、利用者も増加傾向にあります。しかしながら、本年度で7区の委託契約が終了し、来年度、委託事業者が切り替わることもあることから、今後も継続して親子ふれあいルームの安定した運営や質の向上、利用促進を図る必要があります。そのため、来年度以降の事業内容を検討する必要があります。	その結果目指す成果(次年度の成果目標) 平成26年度の最終目標の達成に向け、子育てが地域の人に支えられていると感じる人の割合が増加し、子育ての悩みや不安を感じる人の割合が減少するよう、親子ふれあいルームの安定した運営や質の向上、利用促進を図ります。
	<b>次年度の活動計画(見直し内容)</b> 来年度の新規契約(3年間)を機会に、現在の事業内容に新たな取り組み(地域の子育て支援団体等との連携など)を加え、事業内容の充実を図ります。なお、事業費については、現状を維持します。	

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	地域子育て支援センター事業						施策番号
							I-1-(1)-③
<b>コスト</b>	事業費	平成23年度執行額 65,867 千円	平成24年度当初予算額 69,530 千円	人件費の目安	金額 865 千円 (備考)	担当局	子ども家庭局
					課長 0 人 職員 0.1 人	担当課	保育課
					係長 0 人	課長名	武田

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	保育所等を拠点とした地域子育て支援センターを設置し、育児相談や情報提供、親同士の交流などの場を設け、地域の子育て家庭の支援等を行います。	<b>成果実績</b>	成果の状況は下記のとおりです。
-----------	---------------------	--	-------------	-----------------

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
		子育ての悩みや不安を感じる人の割合 (就学前児童の保護者) 多くの保護者が子育ての悩みや不安を感じており、この割合の減少は施策の目標を着実に推進していく上でも重要であることから、成果指標として設定しました。最終目標は、「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 減少(26年度)	34.6 %	減少	38.0 %	
	(最終目標と目標年度)				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	やや遅れ

<b>活動計画</b>	育児相談や情報提供、親同士の交流など、保育所等の特性を活かした子育て支援の場を設け、地域の子育て家庭の支援を行います。	<b>活動実績</b>	本市では、施設の情報交換会を開催するなど、情報の共有化を図る取り組みを行いました。
-------------	---	-------------	---

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
		地域子育て支援センター事業を実施している保育所の施設数 地域子育て支援センター事業の実施施設数については、現状の実施体制の維持に努めます。 (最終目標と目標年度) 現状維持(平成26年度)	8 所	8 所	8 所 100.0 %	
					大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析 活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	地域の子育て中核施設として育児講座や育児相談等の事業を積極的に行っており、子育て家庭の支援に大きな効果があります。
	<b>「経済性」</b> <b>「効率性」</b> の分析 「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	限られた補助金等の中で、配置保育士2名分の給与を支出すると同時に、各保育所でパンフレットや手引き等を作成するほか、離乳食講座、手作り教室など各種交流行事を開催しており、効率性は高いと言えます。

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題 育児相談や情報提供、親同士の交流など、保育所等の特性を活かした子育て支援の場を設け、地域の子育て家庭の支援を行っており、各実施施設で子育て家庭の支援に有効な事業となっています。今後は各施設における事業内容について情報共有・情報交換することで更なる子育て支援の充実に努めます。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	事業内容の情報を共有・交換することにより、各施設間での事業内容の充実に努めるなど、更なる子育て支援の充実に努めます。事業費については、現状を維持します。	子育ての悩みや不安を感じる人の割合の減少を図ります。

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	子育て支援員の養成・配置(保育所)						施策番号
							I-1-(1)-③
<b>コスト</b>	事業費	平成23年度執行額 710 千円	平成24年度当初予算額 587 千円	人件費 の目安	金額 3,675 千円 (備考)	担当局	子ども家庭局
					課長 0.2 人 職員 0.1 人	担当課	保育課
					係長 0.1 人	課長名	河渕

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたのか 北九州市社会福祉研修所の研修の充実を図り、保育所の保育士を子育てに関する相談や育児サークルの支援等に対応できる「子育て支援員」として養成します。「子育て支援員」は、各区役所や市民センター等と連携しながら、地域に根差す保育所の子育て家庭支援の中心的な役割を担います。			<b>成果実績</b>	成果の状況は下記のとおりです。		
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	<b>実績 (達成率)</b>	→	<b>【成果の状況】</b>	
	子育ての悩みや不安を感じる人の割合(就学前児童の保護者)	34.6 %	減少	38.0 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	多くの保護者が子育ての悩みや不安を感じており、この割合の減少は施策の目標を着実に推進していく上でも重要であることから、成果指標として設定しました。最終目標は、「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 減少(26年度)						
	(最終目標と目標年度)					やや遅れ	

<b>活動計画</b>	年間40名を受講対象とし、4年を1クールと設定し、全保育所(158施設)の保育士が参加するように計画している。			<b>活動実績</b>	40名定員の「子育て支援要請講座」を6回実施しました。		
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	<b>実績 (達成率)</b>	→	<b>【活動の状況】</b>	
	子育て支援員の増員	40 名	40 名	40 名	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	専門性を活かし、きめ細やかな子育て相談等に対応できるよう、子育て支援員の養成を継続します。			100.0 %			
	子育て支援員の配置保育所数	158 施設	158 施設	158 施設		順調	
保育所の保育士を子育てに関する相談や育児サークルの支援等に対応できる「子育て支援員」として養成し、保育所に配置し、育児に悩む保護者を支援できるよう、活動指標としてあげました。 (最終目標と目標年度) 全ての保育所(26年度)	100.0 %						

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	子育て支援指導者の育成を計画的に行い、「子育て支援員養成講座」を6日間実施しました。子育て支援の推進及び保育の質の向上を図ることが出来ました。
	<b>「経済性」</b> <b>「効率性」</b> の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	北九州市福祉事業団に委託している社会福祉研修所が主催した研修を受講しているので、これ以上コストを下げることは出来ません。

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題 市内全認可保育所へ子育て支援員が配置可能となる為に子育て支援員を養成します。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	年間40名を受講対象とし年6回の「子育て支援員養成講座」を実施し、保育所の保育士を子育てに関する相談や育児サークルの支援等に対応できる「子育て支援員」として養成、配置することで、育児に悩む保護者を支援できる体制の充実を図ります。事業費は現状を維持します。	子育ての悩みや不安を感じる人の割合の減少を図ります。

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	一時預かりサービス情報の提供						施策番号	
							I-1-(1)-③	
<b>コスト</b>	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費の目安	金額	2,900 千円 (備考)	担当局	
		0 千円	0 千円		課長	0.1 人	職員	0.1 人
					係長	0.1 人		
							担当課	
							課長名	
							村地	

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	安心して子どもを生き育てることができるように、民間事業者が提供する子どもの一時預かりサービスに関する情報を、幅広く収集し、ホームページ「子育てマップ北九州」に専用のページを設け、情報提供を行い、地域社会全体で子育て家庭を支える環境づくりを進めます。	<b>成果実績</b>	子育て中の人々が求めるときに知りたい情報を手軽に入手できるよう、ホームページで一時預かりサービスに関する情報を提供することにより、地域社会全体で子育て家庭を支える環境づくりを進めました。
-----------	---------------------	--	-------------	---

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
		子育てが地域の人に支えられていると感じる人の割合 地域のつながりが希薄化していると言われていた中、子育ての悩みや不安を軽減するため、地域社会全体で子育てを支える意識の醸成や環境整備を望む声があることから、成果指標として設定しました。 最終目標は「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 増加(26年度)	55.2 %	増加	55.9 %	
	(最終目標と目標年度)				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

<b>活動計画</b>	民間事業者が提供する一時預かりサービスに関する情報の収集及びホームページ「子育てマップ北九州」に専用のページを設け、情報提供を行います。	<b>活動実績</b>	計画どおり情報の収集及びホームページでの情報提供を行いました。
-------------	--	-------------	---------------------------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
		「子育てマップ北九州」内専用ページのアクセス件数 より多くの市民に、必要とされる子育てに関する情報が届いているかを図る活動指標として設定します。	572 件	増加	2,153 件	
					大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析  <b>「経済性」</b> <b>「効率性」</b> の分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。  民間事業者が提供する一時預かりサービスに関する情報を収集し、平成24年3月にホームページ「子育てマップ北九州」で情報提供を行いました。「子育ての悩みや不安の解消」に向けて、必要とされる情報を保護者にタイムリーに提供することにより地域社会全体で子育て家庭を支える環境づくりを進めました。  ホームページ「子育てマップ北九州」管理運営は、「子どもの館・子育てふれあい交流プラザ」運営に関する指定管理業務の一部として実施しており、経済的・効率的な情報提供に努めています。市が実施主体となっており、情報のとりまとめを行い、ホームページ「子育てマップ北九州」において情報提供を行う必要があると考えます。
------------------	--	---

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題  民間事業者が提供する一時預かりサービスに関する情報を収集し、平成24年3月にホームページ「子育てマップ北九州」で情報提供を行いました。「子育ての悩みや不安の解消」に向けて、引き続き必要とされる情報を保護者にタイムリーに提供することや情報内容の充実が必要と考えます。  次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)  民間事業者が提供する子どもの一時預かりサービスに関する情報提供を行うことで、地域社会全体で子育て家庭を支える環境づくりを進め、子育てが地域社会全体で支えられていると感じる人の割合の増加を目指します。
---------------	---	--

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	ほっと子育てふれあい事業の充実						施策番号
							I-1-(1)-③
<b>コスト</b>	事業費	平成23年度執行額 15,100 千円	平成24年度当初予算額 15,736 千円	人件費 の目安	金額 3,075 千円 (備考)	担当局	子ども家庭局
					課長 0.1 人 職員 0.2 人	担当課	子育て支援課
					係長 0.1 人	課長名	松成

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたのか	ほっと子育てふれあいセンターにおいて、地域で子育ての援助を行いたい者と子育ての援助を受けたい者を組織化し、相互に援助できるよう支援することにより、安心して子育てと仕事を両立できるような環境づくりに資するとともに地域の子育て支援を行い、労働者の福祉の増進及び児童の福祉の向上を図ります。	<b>成果実績</b>	成果の状況は下記のとおりです。
-----------	--------------------	--	-------------	-----------------

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
		子育てが地域の人に支えられていると感じる人の割合 地域のつながりが希薄化していると言われている中、子育ての悩みや不安を軽減するため、地域社会全体で子育てを支える意識の醸成や環境整備を望む声があることから、成果指標として設定しました。最終目標は「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 増加(26年度)	55.2 %	増加	55.9 %	
	(最終目標と目標年度)				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

<b>活動計画</b>	定期的な会員募集を行い、会員獲得に努めています。また、提供会員の基本研修、ステップアップ研修や会員相互の交流会活動を通じて、会員の資質向上を図っています。	<b>活動実績</b>	活動結果は下記のとおりです。
-------------	---	-------------	----------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
		提供(両方)会員の確保 援助活動の需要に対する供給の確保に努めます。	2,946 人	単年度の目標設定はありません	2,370 人	
	研修会の実施 研修会を実施し、会員の質の向上に努めます。	18 回	18 回	18 回 100.0 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	仕事の都合で保育所等への送迎ができない方や、急な用事のために子どもを預ける必要がある方等を援助し、労働者の福祉の増進及び児童の福祉の向上に寄与することにより、十分な効果が得られていると考えます。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」 「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	会員の質の向上のため、子どもの心身の健康や事故の対応などの研修を行っています。研修内容や会員同士の交流会の充実を図ることにより、安全で質の高いサービスの提供に努めることとしており、効率性は高いと考えます。

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題
	代表的な評価指標が増加し、概ね順調な成果ができています。今後も、安心して子育てと仕事を両立できるような環境づくりに資するとともに地域の子育て支援を行い、労働者の福祉の増進及び児童の福祉の向上を図るために、ほっと子育てふれあい事業の充実を図ります。
	次年度の活動計画(見直し内容)
	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	従来の研修に加えて、子どもの栄養と食生活の講義を追加したり、活動中の事故0を目指した事例研修を行うなど研修内容の充実を図ることにより、安全で質の高いサービスの提供に努めます。 平成25年度予算については、現状維持です。

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	子ども手当						施策番号
							I-1-(1)-③
<b>コスト</b>	事業費	平成23年度執行額 18,357,843 千円	平成24年度当初予算額 2,876,000 千円	人件費 の目安	金額 38,720 千円 (備考)	担当局	子ども家庭局
					課長 0.9 人 職員 2.6 人	担当課	子育て支援課
					係長 0.9 人	課長名	松成

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたのか	子ども手当を支給することにより、次代の社会を担う子どもの育ちを支援することを目的とします。				<b>成果実績</b>	成果の状況は下記のとおりです。	
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】		
	子育ての悩みや不安を感じる人の割合(就学前児童の保護者)	34.6 %	減少	38.0 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック		
	多くの保護者が子育ての悩みや不安を感じており、この割合の減少は施策の目標を着実に推進していく上でも重要であることから、成果指標として設定しました。最終目標は「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 減少(26年度)							
	子育ての悩みや不安を感じる人の割合(小学生の保護者)	33.7 %	減少	24.0 %		順調		
多くの保護者が子育ての悩みや不安を感じており、この割合の減少は施策の目標を着実に推進していく上でも重要であることから、成果指標として設定しました。最終目標は「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 減少(26年度)								

<b>活動計画</b>	法令等に基づき、確実に手当を支給します。						<b>活動実績</b>	活動結果は下記のとおりです。	
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】			
	手当の確実な支給	15,976,532 千円	-	18,357,843 千円	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック			
	法定受託事務であり、法令等に基づいて、手当を確実に支給することが必要であるため、指標に設定しました。								
						順調			

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	子育てにかかる経済的な負担を軽減し、経済的な負担を和らげるために有効であると考えます。					
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	法定受託事務であり、支給要件・手当額が全国一律に定められているため、評価に馴染まないと考えています。					

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題						
	法定受託事務であり、法令等に基づいて、子ども手当を確実に支給しました。今後も、手当を支給することにより、次代の社会を担う子どもの育ちを支援します。						
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)					
	法令等に基づいて、手当を確実に支給します。(平成24年4月からは、児童手当を支給)支給対象延べ児童数見込が昨年度と同様なため、平成25年度予算は現状維持です。	児童手当の支給により、次代の社会を担う児童の健やかな成長に資することを目指します。					

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	<b>児童扶養手当</b>						施策番号
							I-1-(1)-③
<b>コスト</b>	事業費	平成23年度執行額 5,572,760 千円	平成24年度当初予算額 5,696,406 千円	人件費 の目安	金額 7,400 千円 (備考)	担当局	子ども家庭局
					課長 0.1 人 職員 0.7 人	担当課	子育て支援課
					係長 0.1 人	課長名	松成

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	父又は母と生計を同じくしていない児童が育成される家庭の生活の安定と自立の促進に寄与するため、当該児童について児童扶養手当を支給し、もって児童の福祉の増進を図ることを目的としています。	<b>成果実績</b>	成果の状況は下記のとおりです。		
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	子育ての悩みや不安を感じる人の割合(就学前児童の保護者)	34.6 %	減少	38.0 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	多くの保護者が子育ての悩みや不安を感じており、この割合の減少は施策の目標を着実に推進していく上でも重要であることから、成果指標として設定しました。最終目標は「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 減少(26年度)					
	子育ての悩みや不安を感じる人の割合(小学生の保護者)	33.7 %	減少	24.0 %		順調
多くの保護者が子育ての悩みや不安を感じており、この割合の減少は施策の目標を着実に推進していく上でも重要であることから、成果指標として設定しました。最終目標は「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 減少(26年度)						

<b>活動計画</b>	法令等に基づき、確実に手当を支給します。	<b>活動実績</b>	活動結果は下記のとおりです。			
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	手当の確実な支給	5,383,943 千円	—	5,572,760 千円	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	法定受託事務であり、法令等に基づいて、手当を確実に支給することが必要であるため、指標に設定しました。					
		—	—	—		順調

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。  ひとり親家庭等の生活の安定と自立の促進に寄与しています。
	<b>「経済性」</b> <b>「効率性」</b> の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。  法定受託事務であり、支給要件・手当額当が全国一律に定められているため、評価に馴染まないと考えています。

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題	
	法定受託事務であり、法令等に基づいて、児童扶養手当を確実に支給しました。今後も、手当を支給することにより、ひとり親家庭の生活の安定と自律の促進に寄与します。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	法令等に基づいて、手当を確実に支給します。受給者数見込が昨年度と同様なため、平成25年度予算は現状維持です。	ひとり親家庭の生活の安定と自律の促進に寄与するため、児童扶養手当を支給し、児童の福祉の増進を図ることを目指します。

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	子ども・家庭相談コーナーの運営						施策番号
							I-1-(1)-③
<b>コスト</b>	事業費	平成23年度執行額 89,255 千円	平成24年度当初予算額 87,202 千円	人件費 の目安	金額 136,625 千円 (備考)	担当局	子ども家庭局
					課長 0.75 人 職員 7.6 人	担当課	子育て支援課
					係長 7.1 人	課長名	松成

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	各区役所の「子ども・家庭相談コーナー」では、家庭と子どもに関するあらゆる相談に応じ、母子家庭の自立支援、DV被害者対応、児童虐待対応等、それぞれの相談に応じた支援・対応を行うとともに、必要に応じて他の機関のサービス・支援へとつなげます。	<b>成果実績</b>	成果の状況は下記のとおりです。		
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	子育ての悩みや不安を感じる人の割合 (就学前児童の保護者)	34.6 %	減少	38.0 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	多くの保護者が子育ての悩みや不安を感じており、この割合の減少は施策の目標を着実に推進していく上でも重要であることから、成果指標として設定しました。最終目標は「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 減少(26年度)					
	子育ての悩みや不安を感じる人の割合 (小学生の保護者)	33.7 %	減少	24.0 %		順調
多くの保護者が子育ての悩みや不安を感じており、この割合の減少は施策の目標を着実に推進していく上でも重要であることから、成果指標として設定しました。最終目標は「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 減少(26年度)						

<b>活動計画</b>	家庭と子どもに関するあらゆる相談に応じ、母子家庭の自立支援、DV被害者対応、児童虐待対応等、それぞれの相談に応じた支援・対応を行なうとともに、必要に応じて他の機関のサービス・支援へとつなげ、総合的な相談窓口としての役割を担います。	<b>活動実績</b>	活動結果は下記のとおりです。			
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	相談件数	81,703 件	-	76,648 件	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	各区の子ども・家庭相談コーナーにおいて、子ども・家庭相談員等が、来所、電話、訪問、手紙など、様々な形態による相談に応じています。その相談件数を活動指標として設定しました。					
						順調

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	子どもと家庭に関するあらゆる相談に応じ、それぞれの内容に応じた支援・対応を行い、相談者の不安や負担感の軽減を図るとともに、関係機関との連携により一定の成果をあげており、事業の適切な運営がなされています。
	<b>「経済性」</b> <b>「効率性」</b> の分析	「同じ成果をより低いコストで」 「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	事業実施にあたり、計画的な研修を通じて相談員の資質向上を図るなど効率的な運営をしています。

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	<b>課題</b> 子どもと家庭に関するあらゆる相談に応じ、それぞれの内容に応じた支援・対応を行い、関係機関との連携を図りながら総合的な相談窓口としての役割を担っています。事業の実施にあたっては、計画的な研修を通じて相談員の資質の向上が必要です。	
	<b>次年度の活動計画(見直し内容)</b> 子どもと家庭に関する相談は増加しているとともに複雑化しています。平成25年度の予算は現状維持ですが、年間を通じて計画的に行っている 初任者研修、主務者研修、弁護士会との合同研修、事例検討会等に加え、子ども・家庭相談コーナーのニーズに応じた研修を新たに行うことにより、相談員の資質の向上を図り、あらゆる相談にきめ細かく対応していきます。	その結果目指す成果(次年度の成果目標) 子育ての悩みや不安を感じる人の割合の減少を目指します。

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	身近な施設における相談の実施						施策番号	
							I-1-(1)-③	
<b>コスト</b>	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	2,025 千円 (備考)	担当局	
		0 千円	0 千円		課長	0.1 人	職員	0.1 人
					係長	0.1 人		担当課
							課長名	
							河渕	

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	保育所や幼稚園、学校、市民センター、小児科医などの身近な施設において、通常の業務や活動の中でそれぞれの特性を活かした子育て相談や情報の提供を行っています。このうち、保育所においては、すべての施設で地域の子育て家庭を対象とした育児相談をはじめ、情報の提供を行います。	<b>成果実績</b>	成果の状況は下記のとおりです。		
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	子育ての悩みや不安を感じる人の割合 (就学前児童の保護者)			38.0 %		代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	多くの保護者が子育ての悩みや不安を感じており、この割合の減少は施策の目標を着実に推進していく上でも重要であることから、成果指標として設定しました。最終目標は、「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 減少(26年度)	34.6 %	減少 %			
					大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	やや遅れ
(最終目標と目標年度)						

<b>活動計画</b>	保育所において、子育て家庭を対象として育児に関する相談や情報提供を行います。	<b>活動実績</b>	活動結果は下記のとおりです。			
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	全保育所で実施			158 施設		活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	全保育所で育児相談や子育て情報の提供を実施	157 施設	158 施設	100.0 %		
					大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	保育所における地域事業の一環として位置づけをしています。保育所が持つ専門的知識やノウハウを活かして相談を受けたり、親子のふれあい遊びを提供して愛着関係がスムーズに築けるように支援をしました。各保育所で開催している子育て広場は、年々参加者が増加し、電話相談も多くなってきています。子育てに不安を感じている在宅の母親にとって地域にある身近な相談場所として大きな役割を果たしています。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」 「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	保育所の地域事業の一環として実施している相談業務であり、新たなコストがかかりません。

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題	
	地域の子育て家庭のニーズに応じた、育児に関する相談・子育て情報の提供を行います。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	全保育所で実施の育児相談、情報提供の内容の充実を図ります。地域の子育て家庭の支援の充実を図ります。	子育ての悩みや不安を感じる人の割合の減少を図ります。

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	子育て支援総合コーディネーターの配置						施策番号
							I-1-(1)-③
<b>コスト</b>	事業費	平成23年度執行額 15,018 千円	平成24年度当初予算額 15,066 千円	人件費 の目安	金額 1,745 千円 (備考)	担当局	子ども家庭局
					課長 0 人 職員 0.1 人	担当課	保育課
					係長 0.1 人	課長名	河渕

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたいのか 「子育て支援サロン“びあちえーれ”」に子育て支援総合コーディネーターを3名配置し、面接、電話、インターネット(メール)による子育てに関する相談の対応を行うとともに利用者に必要な関係機関との連絡、調整等の支援を行います。	<b>成果実績</b>	成果の状況は下記のとおりです。
-----------	--	-------------	-----------------

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
		子育ての悩みや不安を感じる人の割合(就学前児童の保護者) 多くの保護者が子育ての悩みや不安を感じており、この割合の減少は施策の目標を着実に推進していく上でも重要であることから、成果指標として設定しました。最終目標は、「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 減少(26年度)	34.6 %	減少	38.0 %	
	子育ての悩みや不安を感じる人の割合(小学生の保護者) 多くの保護者が子育ての悩みや不安を感じており、この割合の減少は施策の目標を着実に推進していく上でも重要であることから、成果指標として設定しました。最終目標は、「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 減少(26年度)	33.7 %	減少	24.0 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	

<b>活動計画</b>	市において、北九州市保育所連盟と委託契約を締結し、保育士等により構成された子育て支援総合コーディネーター3名を配置して、子育てに関する相談への対応や各関係機関との連携、コーディネート業務等を実施します。	<b>活動実績</b>	活動結果は下記のとおりです。
-------------	---	-------------	----------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
		コーディネーターの配置人数 子育て支援サロン“びあちえーれ”のコーディネーターの数の現状維持に努め、子育て相談や関係機関との連絡、調整等にきめ細かく対応します。	3 名	3 名	3 名 100.0 %	
					大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	「子育てふれあい交流プラザ」内の子育て支援サロン“びあちえーれ”において、子育て支援総合コーディネーターを3名配置し、子育てに関する相談に応じ、利用者に必要な関係機関との連絡、調整等を行いました。また、大学教授や小児科医、保育経験者等を講師に招き、子どもの発達や食育、遊び等をテーマとした育児講座の開催や、絵本の貸し出しを行い、子育て支援の充実を図りました。子育てに関する相談は、電話相談1013件、面接相談2223件、メール相談290件あり、利用者に必要な関係機関との連携、調整等も行っていきます。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」 「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	限られた予算で事業を展開しており、施設内での育児講座や貸し出し図書、玩具の購入、リーフレットの作成などを通して事業の周知を図り、効率的な運営をしています。

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題 子育て支援総合コーディネーターを3名配置し、子育てに関する相談や関係機関との連絡・調整を行っています。しかし、子育ての悩みや不安を感じる人の割合は目標にやや遅れているため、子育て支援サロン“びあちえーれ”の認知度を上げていく必要があります。
	次年度の活動計画(見直し内容) <span style="float: right;">その結果目指す成果(次年度の成果目標)</span>
	子育て支援総合コーディネーターを3名配置し、子育てに関する相談に応じ、利用者に必要な関係機関との連携、調整を行います。事業費は維持しながら、子育て支援サロン“びあちえーれ”の認知度を上げていくため、子育て関連の各種行事や会議に積極的に参加し、アピールを行います。 <span style="float: right;">子育ての悩みや不安を感じる保護者の減少を図ります。</span>

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	情報提供の充実							施策番号			
								I-1-(1)-③			
<b>コスト</b>	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	6,150 千円	(備考)	担当局	子ども家庭局		
		4,402 千円	3,700 千円		課長	0.1 人		職員	0.4 人	担当課	子ども家庭政策課
					係長	0.2 人				課長名	村地

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	安心して子どもを産み育てることができるように、ホームページ、情報誌の内容、情報提供方法の充実に努めます。子育て中の人や、子どもの成長に応じた情報をタイムリーに、かつ手軽に入手できる仕組みを構築し、子育ての不安や悩みの軽減を図ります。	<b>成果実績</b>	必要とされる子育てに関する情報が市民に届くように、ホームページ、情報誌による情報提供の充実を図り、子育ての不安や悩みの軽減に取り組みました。
-----------	---------------------	--	-------------	--

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
		子育ての悩みや不安を感じる人の割合(就学前児童の保護者) 多くの保護者が子育ての悩みや不安を感じており、この割合の減少は施策の目標を着実に推進していく上でも重要であることから、成果指標として設定しました。 最終目標は「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 減少(26年度)	34.6 %	減少	38.0 %	
	子育ての悩みや不安を感じる人の割合(小学生の保護者) 多くの保護者が子育ての悩みや不安を感じており、この割合の減少は施策の目標を着実に推進していく上でも重要であることから、成果指標として設定しました。 最終目標は「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 減少(26年度)	33.7 %	減少	24.0 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

<b>活動計画</b>	ホームページ「子育てマップ北九州」での情報提供を行い、平成23年7月には子育て情報誌「こそだて情報」を作成・発行します。	<b>活動実績</b>	情報誌「こそだて情報」を平成23年7月に51,000冊発行し(その後600冊増刷)、保育所、幼稚園等や、母子健康手帳交付時に配付しました。また、ホームページ「子育てマップ北九州」で情報を提供しました。
-------------	--	-------------	--

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
		子育てマップのアクセス件数 より多くの市民に、必要とされる子育てに関する情報が届いているかを図る活動指標として設定します。	739,006 件	739,006 件	667,474 件 90.3 %	
					大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	1 平成23年7月に情報誌「こそだて情報」を51,000冊発行し(その後600冊増刷)、保育所、幼稚園、親子ふれあいルーム、子どもの館、子育てふれあい交流プラザ、医師会、コンビニエンスストア等を通じ、また、母子健康手帳交付時に配付しました。 2 子育てに関するホームページ「子育てマップ北九州」で子どもの成長に応じた情報を提供するとともに、希望者に毎月「子育て情報メール」の無料配信を行いました。 「子育ての悩みや不安の解消」に向けた情報を保護者にタイムリーに提供できる点で高い効果があります。
	【経済性】 【効率性】 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	情報誌「こそだて情報」作成・配布にあたっては競争入札を行い、ホームページ「子育てマップ北九州」では指定管理者制度を導入し、経済的・効率的な情報提供に努めています。市の子育てに関する施策や施設の情報の取りまとめ等については、市のみが可能であり、実施主体としては市が適切であると考えます。

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題 情報誌「こそだて情報」を平成23年7月に51,000冊(その後600冊増刷)、平成24年7月に51,600冊発行し、保育所、幼稚園、親子ふれあいルーム、子どもの館、子育てふれあい交流プラザ、医師会、コンビニエンスストア等を通じ、また、母子健康手帳交付時に配付しました。また、子育てに関するホームページ「子育てマップ北九州」で子どもの成長に応じた情報を提供するとともに、希望者に毎月「子育て情報メール」の無料配信を行いました。「子育ての悩みや不安の解消」に向けた情報を保護者にタイムリーに提供できています。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	「こそだて情報」の掲載内容・配布対象者の見直し及び広告ページ拡大を検討します。また、ホームページ「子育てマップ北九州」の掲載内容を見直し、経済的・効率的な情報提供に努めます。事業費は縮小しますが、引き続き、子育て中の人や、子どもの成長に応じた情報をタイムリーに、かつ手軽に入手できるよう、ホームページ「子育てマップ北九州」や「子育て情報メール」、情報誌「北九州市こそだて情報」の内容、情報提供の方法の充実を図ります。	ホームページ、情報誌の内容、情報提供方法の充実に努めることで、子育ての悩みや不安を感じる人の割合の減少を目指します。

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	児童居室の個室化の推進							施策番号			
								I-1-(1)-④			
<b>コスト</b>	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	2,700 千円	(備考)	担当局	子ども家庭局		
		24,900 千円	0 千円		課長	0.1 人		職員	0.2 人	担当課	子育て支援課
					係長	0.1 人				課長名	松成

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価			
<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	児童居室の個室化や小規模化(2~3人部屋)を推進し、児童養護施設における中高生等の年長児童のプライバシーを確保し、児童の健全な育成を目指します。			<b>成果実績</b>	成果の状況は下記のとおりです。	
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】	
	児童養護施設における生活環境整備等の促進		生活環境整備等の促進			代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	児童養護施設において、子どものプライバシーに配慮した児童居室の個室化などや、家庭的養護を推進するための小規模グループケアを進めるとともに、子どもたちへの支援をさらに充実させるため、職員の資質向上等を図ります。 (最終目標と目標年度)						
	(最終目標と目標年度)				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調	

<b>活動計画</b>	平成23年度は、2施設で児童居室の個室化の整備を行いました。その結果、全児童養護施設で個室化が実施されました。				<b>活動実績</b>	活動結果は下記のとおりです	
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】	
	児童居室の個室化実施施設数			100 %		活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	全児童養護施設で、児童居室の個室化や小規模化(2~3人部屋)を推進し、中高生等の年長児童のプライバシーを確保する必要があることから、全施設での実施を目標としました。	75.0 %	100 %	100.0 %			
	(最終目標と目標年度)				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	大変順調	

【Check】評価(分析)		
<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。
	<b>「経済性」</b> <b>「効率性」</b> の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。  個室化は児童養護施設における中高生のプライバシー確保のための空間整備として最低限必要なことと考えます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入					
<b>見直し状況等</b>	課題				
	平成23年度は、児童居室の個室化の整備が終了し、代表的な成果指標は概ね順調に進んでいます。今後も児童の健全な育成を図るため、児童養護施設における生活環境整備等の促進を図ります。				
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">次年度の活動計画(見直し内容)</td> <td style="width: 50%;">その結果目指す成果(次年度の成果目標)</td> </tr> <tr> <td>児童居室の個室化にかかる施設整備については、終了しているため、平成25年度予算計上はありません。</td> <td>児童養護施設における生活環境整備等の促進を図ることにより、児童の健全な育成を目指します。</td> </tr> </table>	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)	児童居室の個室化にかかる施設整備については、終了しているため、平成25年度予算計上はありません。	児童養護施設における生活環境整備等の促進を図ることにより、児童の健全な育成を目指します。
次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)				
児童居室の個室化にかかる施設整備については、終了しているため、平成25年度予算計上はありません。	児童養護施設における生活環境整備等の促進を図ることにより、児童の健全な育成を目指します。				

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	小規模グループケアの実施						施策番号
							I-1-(1)-④
<b>コスト</b>	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	2,700 千円 (備考)	担当局	子ども家庭局
	51,483 千円	97,980 千円		課長	0.1 人 職員 0.2 人	担当課	子育て支援課
				係長	0.1 人	課長名	松成

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたのか	市内児童養護施設及び乳児院の各施設で小規模グループケアを実施し、被虐待児等に個別的な関係を重視したきめ細かなケアを行い、児童の健全な育成を図ります。	<b>成果実績</b>	成果の状況は下記のとおりです。		
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	小規模グループケア実施箇所数	9 箇所	単年度の目標設定はありません。	10 箇所	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	社会的養護が必要な子どもが、それぞれの子どもにあった生活環境で、健やかにたくましく自立できる社会環境づくりが必要ですが、それを数値で表すことは困難です。代替として児童養護施設における小規模グループケア実施箇所数を成果指標としています。最終目標は「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。(最終目標と目標年度)14か所(26年度)			(最終目標と目標年度)		順調

<b>活動計画</b>	23年度は12月から1か所増設し、10か所で実施しました。今後も、26年度までに14か所整備する目標に向けて、着実に増設し、より多くの児童へきめ細かなケアを提供します。	<b>活動実績</b>	活動結果は下記のとおりです			
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	小規模グループケア実施箇所数	9 箇所	単年度の目標設定はありません	10 箇所	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	国の要綱に基づき、1施設2グループケアまで指定できることから、市内7施設で14か所の設置を指標としました。(最終目標と目標年度)14か所(26年度)			(最終目標と目標年度)		順調

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。
	<b>「経済性」</b> <b>「効率性」</b> の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。  国の措置制度に基づいた義務的経費であり、他の方法による小規模グループケアの実施は困難です。

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題  平成23年度は、1箇所増設し、代表的な成果指標は、ほぼ目標どおりの成果を得ることができました。24年度も順調に成果ができています。今後も児童の健全な育成を図るため、小規模グループケアの実施を進めます。	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	次年度の活動計画(見直し内容)	被虐待児等に個別の関係を重視したきめ細かなケアを行い、児童の健全な育成を目指します。
	26年度14箇所の目標にそって増設します。25年度は増築による設置を行なわないため予算は減額となっていますが、建替に合わせて設置すること等により、2箇所増設を予定しており、その結果13箇所までの設置を計画しています。	

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	自立援助ホームの運営及び女子児童用自立援助ホームの創設						施策番号
							I-1-(1)-④
<b>コスト</b>	事業費	平成23年度執行額 34,108 千円	平成24年度当初予算額 32,381 千円	人件費 の目安	金額 2,700 千円 (備考)	担当局	子ども家庭局
					課長 0.1 人 職員 0.2 人	担当課	子育て支援課
					係長 0.1 人	課長名	松成

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたのか	児童養護施設等を退所し、就職する児童に対し、共同生活を営むべき住居において、相談その他の日常生活上の援助及び生活指導、就職支援を行うことで社会的自立の促進に寄与します。	<b>成果実績</b>	成果の状況は下記のとおりです。
-----------	--------------------	--	-------------	-----------------

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
		児童養護施設における生活環境整備等の促進  児童養護施設において、子どものプライバシーに配慮した児童居室の個室化などや、家庭的養護を推進するための小規模グループケアを進めるとともに、子どもたちへの支援をさらに充実させるため、職員の資質向上等を図ります。 (最終目標と目標年度)		生活環境整備等の促進		
	(最終目標と目標年度)				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	大変順調

<b>活動計画</b>	児童養護施設等を退所し、就職する児童に対し、共同生活を営むべき住居において、相談その他の日常生活上の援助及び生活指導、就職支援を行うことで社会的自立の促進に寄与します。平成22年度末に女子用自立援助ホームを設置し、男女ともに利用が可能となりました。	<b>活動実績</b>	活動結果は下記のとおりです
-------------	--	-------------	---------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
		就労や健康管理、食事等日常生活に関することの援助・指導等  就労や健康管理、食事等日常生活に関することの援助・指導等により、児童の社会的自立の促進に寄与すると考え指標に設定しました。		単年度の目標設定はありません		
	就職等自立児童数  就職もしくは大学進学を進めるとともに、自立資金の貯蓄や正しい生活習慣を身につけさせるなど、自立に向けた準備を整えて卒園させる必要があります。しかし、児童の状況に応じた支援であることから、目標の設定は困難です。	5 人	単年度の目標設定はありません	4 人	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	大変順調

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	平成22年度末に女子用自立援助ホームを設置し、男女ともに利用が可能となったことから大変順調としました。また、児童養護施設卒園児等の自立までの居場所、自立支援として有効と考えます。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」 「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	国の措置費に基づいた義務的経費であり、他の方法による実施は困難です。

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題
	平成22年度末に女子用自立援助ホームを設置し、男女ともに利用が可能となりました。23年度以降は、自立援助ホームの運営により、児童等の日常生活上の援助及び生活指導、就職支援を行うことで社会的自立の促進に寄与します。
	次年度の活動計画(見直し内容)
	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	平成22年度末に女子用自立援助ホームを設置したことから、男女とも対応できる体制が整いました。平成25年度は運営費について入所人員の増に対応できるよう増額しています。
	自立援助ホームの運営により、児童等の社会的自立の促進を目指します。

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	児童養護施設入所児童等への運転免許取得費助成など自立支援事業						施策番号
							I-1-(1)-④
<b>コスト</b>	事業費	平成23年度執行額 11,379 千円	平成24年度当初予算額 19,591 千円	人件費 の目安	金額 675 千円 (備考)	担当局	子ども家庭局
					課長 0 人 職員 0.1 人	担当課	子育て支援課
					係長 0 人	課長名	松成

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	児童養護施設入所児童に対し、普通自動車運転免許取得費や就職に有利になる資格取得費の一部を助成することにより、就職活動の支援を行い、もって児童の自立促進と福祉の向上を図ります。	<b>成果実績</b>	成果の状況は下記のとおりです。		
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	児童養護施設における生活環境整備等の促進		生活環境整備等の促進			代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	児童養護施設において、子どものプライバシーに配慮した児童居室の個室化などや、家庭的養護を推進するための小規模グループケアを進めるとともに、子どもたちへの支援をさらに充実させるため、職員の資質向上等を図ります。 (最終目標と目標年度)				大変順調	<b>大変順調</b>
	(最終目標と目標年度)			やや遅れ		

<b>活動計画</b>	就職を控えた児童養護施設入所児童の必要性に応じ、随時申請を受付助成しました。	<b>活動実績</b>	活動結果は下記のとおりです			
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	就職・進学を控えた児童のうち、運転免許取得希望者への助成件数	21 件	単年度の目標設定はありません。	11 件		活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	運転免許の取得が就職に有利になると考え、助成件数を指標に設定しました。				大変順調 やや遅れ	<b>大変順調</b>
	就職に有利になる資格取得希望者への助成件数	12 件	単年度の目標設定はありません。	5 件		
資格取得が就職に有利になると考え、助成件数を指標に設定しました。						

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。
	<b>「経済性」</b> <b>「効率性」</b> の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。  就職時に有利になる資格の一つである自動車運転免許取得は入所児童等にとって金銭面での負担が大きいため助成が必要です。また、その他の就職を有利にする資格を取得することも、入所児童の自立を促進することにつながるため有効と考えます。免許取得を希望する児童全員に助成を行ったことから成果の状況と活動の状況を大変順調としました。  自動車運転免許は就職の際に必要なとされることが多いものです。自動車運転免許取得にかかる費用については、コストを下げる方法がなく、助成金上限額200千円を下げることは困難です。その他の資格取得の取得費助成についても、より有利な就職にも繋がることから、自立支援策として効果的です。

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題  就職・進学等を控えた児童のうち、運転免許取得等を希望する児童全員に助成を行いました。今後も自動車運転免許取得費等の助成により、就職活動の支援を行い、児童の自立と福祉の向上を図ります。	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	次年度の活動計画(見直し内容)	運転免許取得費等の助成により、就職活動の支援を行い、児童の自立の促進と福祉の向上を目指します。

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	入所児童の権利擁護のための調査審議等を行う審査部会の社会福祉審議会児童福祉専門分科会への設置						施策番号	
							I-1-(1)-④	
<b>コスト</b>	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	5,400 千円 (備考)	担当局	
		0 千円	0 千円		課長	0.1 人 職員 0.3 人	担当課	子育て支援課
					係長	0.2 人	課長名	松成

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	市内の児童養護施設等で発生した被措置児童等への虐待に対し、入所児童の権利の侵害を救済し、心身の健全な成長を図るため、その権利の擁護に向けた調査審議等を行い、市長に対して対応方針等について意見を述べます。	<b>成果実績</b>	成果の状況は下記のとおりです。		
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	児童の心身の健全な成長		児童の心身の健全な成長			代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	被措置児童等に対する虐待事案が発生した際に、入所児童の権利の侵害を救済することにより、児童の心身の健全な成長を図ることが必要ですが、児童の心身の健全な成長を数値で表すことは困難です。 (最終目標と目標年度)				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

<b>活動計画</b>	必要に応じて開催します。23年度は開催実績がありませんでした。		<b>活動実績</b>	活動結果は下記のとおりです。		
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	有事の際の適時的確な調査審議と効果的な対応方針策定		必要に応じ開催	-		活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	措置児童等に対する虐待事案が発生した際、適時的確な調査審議等を行い、より効果的な対応方針等を策定するものです。	なし			大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	措置児童等に対する虐待事案が発生した際の諮問調査機関であるため、有効性は高いと考えます。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」 「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	社会福祉審議会児童福祉専門分科会内へ設置するため、委員会の重複設置を避けることが可能です。また、措置児童等に対する虐待事案が発生した場合のみの開催であるため、経済性、効率性は高いと考えます。

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題	
	23年度も24年度も開催実績はありません。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	必要に応じて開催します。平成25年度予算について計上はありません。	被措置児童の虐待が発生した場合、適時的確な調査審議等を行い、より効果的な対応方針等を作成することにより、入所児童の権利の侵害を救済し、心身の健全な成長を図ることを目指します。

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	ファミリーホームの運営						施策番号
							I-1-(1)-④
<b>コスト</b>	事業費	平成23年度執行額 38,633 千円	平成24年度当初予算額 65,938 千円	人件費の目安	金額 2,700 千円 (備考)	担当局	子ども家庭局
					課長 0.1 人 職員 0.2 人	担当課	子育て支援課
					係長 0.1 人	課長名	松成

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたのか	家庭的養護を促進することで、児童間の相互作用を活かしつつ、児童の自主性を尊重し、基本的な生活習慣を確立するとともに、豊かな人間性及び社会性を養い、児童の自立を支援します。	<b>成果実績</b>	成果の状況は下記のとおりです。		
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	要保護児童数に対する里親・ファミリーホーム委託率 子どもの置かれた状況に応じた社会的養護を実施するため、家庭的な養育環境としての里親、小規模住居型児童養育事業(ファミリーホーム)の普及を促進し、それぞれの子どもにあった養育環境を提供することにより、豊かな人間性や社会性を養い、児童の自立を支援する必要があることから成果指標として掲げました。最終目標は「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 15%(26年度)	11.3 %	増加	13.2 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	(最終目標と目標年度)					順調

<b>活動計画</b>	ファミリーホーム移行可能な里親に打診し、開設を促します。平成23年度は1か所増設しました。	<b>活動実績</b>	活動結果は下記のとおりです。			
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	ファミリーホーム実施箇所数 ファミリーホームの運営により、家庭的な養育環境を整え、児童の自立を支援するため、指標として設定しました。市は、運営費を補助します。	3 箇所	4 箇所	4 箇所 100.0 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
						順調

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	事業が予定どおりに進んでいるため順調としました。また、ファミリーホームは、家庭的養護の中できめ細やかで手厚いケアができ、子どもの健やかな成長に有効です。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	家庭的な生活の中で児童と関わっていけるため、児童の基本的な生活習慣の確立や健全育成にとって、効果が高いと考えます。

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題	
	平成23年度は、1箇所増設しました。家庭的養護を促進することにより、児童の豊かな人間性及び社会性を養い、児童の自立を支援します。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	平成25年度は、現状どおりの予算ですが、ファミリーホーム移行可能な里親に打診し、開設を促します。	児童の自主性を尊重し、基本的な生活習慣を確立するとともに、豊かな人間性及び社会性を養い、児童の自立を支援します。

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	家庭生活体験事業(一日里親事業)の拡大						施策番号
							I-1-(1)-④
<b>コスト</b>	事業費	平成23年度執行額 12,589 千円	平成24年度当初予算額 12,000 千円	人件費 の目安	金額 2,700 千円 (備考)	担当局	子ども家庭局
					課長 0.1 人 職員 0.2 人	担当課	子育て支援課
					係長 0.1 人	課長名	松成

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたのか	児童養護施設等入所児童に家庭生活を体験させることで、児童の社会性の涵養、情緒の安定、退所後の自立を促進します。	<b>成果実績</b>	成果の状況は下記のとおりです。		
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	要保護児童数に対する里親・ファミリーホーム委託率	11.3 %	増加	13.2 %		代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	子どもの置かれた状況に応じた社会的養護を実施するため、家庭的な養育環境としての里親、小規模住居型児童養育事業(ファミリーホーム)の普及を促進し、それぞれの子どもにあった養育環境を提供することにより、豊かな人間性や社会性を養い、児童の自立を支援する必要があることから成果指標として掲げました。最終目標は「元気発達！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 15%(26年度)				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

<b>活動計画</b>	家庭生活体験事業を各施設に周知し、利用促進を図ります。	<b>活動実績</b>	活動結果は下記のとおりです。			
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	家庭生活体験児童数	231 人	児童それぞれの状況に合わせて家庭的生活を体験できるようにすること。	240 人		活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	施設入所児童に家庭生活を体験させることにより、児童の社会性の涵養、情緒の安定を図り、退所後の自立を促進するため、体験児童数を指標としました。市は事業費を補助します。				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。  児童養護施設の入所児童は、家庭生活での基本的習慣などを体得しにくい環境にあるため、体験させることで退所後の自立を促進できます。また、家庭の中で、児童と個別にかかわることができるため、処遇の個別化にもつながり有効と考えます。
	<b>「経済性」</b> <b>「効率性」</b> の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。  児童養護施設に入所しながら、短期間でも家庭生活を体験する中で家庭的な愛情を感じ取ることは、児童の心身の健やかな成長にとって有意義なものであり、処遇の面で非常に効果的です。

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	平成23年度の家庭生活体験児童数は、前年度から少し増加しました。今後も、児童に家庭生活を体験させることで、児童の社会性の涵養、情緒の安定、退所後の自立を促進します。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	
	家庭生活体験事業を各施設に周知し、利用促進を図ります。平成25年度は、より多くの児童が体験できるよう予算を増額します。	児童の社会性の涵養、情緒の安定、退所後の自立を促進します。

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	ひとり親家庭のための合同就職説明会						施策番号
							I-1-(1)-④
<b>コスト</b>	事業費	平成23年度執行額 3,789 千円	平成24年度当初予算額 3,800 千円	人件費 の目安	金額 1,855 千円 (備考)	担当局	子ども家庭局
					課長 0 人 職員 0.2 人	担当課	子育て支援課
					係長 0.1 人	課長名	松成

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたのか	母子家庭は、平均年収が約234万円と低い水準にあり、非正規職員の割合が49%と高く、非常に厳しい状況にある。このような母子家庭等ひとり親家庭の父母の就業を支援するため、ひとり親家庭への理解を示す企業を開拓し、企業への就職の場を提供する「合同就職説明会」を開催し、就業機会を増やします。	<b>成果実績</b>	成果の状況は下記のとおりです。		
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	ひとり親家庭施策を知らない人の割合(母子福祉センター)	25.9 %	減少	66.7 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	自立を図るために必要な施策の情報が、必要な家庭に確実に効果的に届く必要があることから成果指標として掲げました。最終目標は「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 減少(26年度)					
	ひとり親家庭施策を知らない人の割合(子ども・家庭相談コーナー)	40.7 %	減少	22.2 %		やや遅れ
自立を図るために必要な施策の情報が、必要な家庭に確実に効果的に届く必要があることから成果指標として掲げました。最終目標は「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 減少(26年度)						

<b>活動計画</b>	就職が困難なひとり親家庭の父母を対象に、ひとり親家庭に理解を示す企業による合同就職説明会を開催し、就業と自立を支援します。	<b>活動実績</b>	活動結果は下記のとおりです。			
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	合同就職説明会の参加者数	118 人	—	60 人	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	就業による自立を促進することは重要であることから、ひとり親家庭の就業を支援する施策の利用者数を活動指標としました。					
						やや遅れ

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	平成23年8月27日に北九州市合同就職説明会を開催し、就職の困難なひとり親家庭の父母の就業の機会を提供しました。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」 「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	説明会の会場内で、子育てや就職に関する相談や講座を開催し、効率的な支援を行いました。

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	今年度は、事業のPRの強化等に努め、9月9日(日)に実施した就職説明会の利用者数は106人と前年度より増加しました。しかし、まだ十分な数ではなく、今後も施策のPRや事業内容を工夫して、より多くのひとり親家庭の父母に就業の機会を提供します。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	ひとり親家庭施策(母子福祉センター、子ども・家庭相談コーナー)を知らない人の割合の減少を目指します。
	事業費は現状どおりですが、参加者が増加するようPRや事業内容を工夫します。	

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	母子家庭自立支援給付金事業の推進						施策番号
							I-1-(1)-④
<b>コスト</b>	事業費	平成23年度執行額 275,251 千円	平成24年度当初予算額 291,219 千円	人件費 の目安	金額 4,325 千円 (備考)	担当局	子ども家庭局
					課長 0.1 人 職員 0.3 人	担当課	子育て支援課
					係長 0.2 人	課長名	松成

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたのか	母子及び寡婦福祉法第31条に規定する母子家庭の母の雇用の安定及び就職の促進を図るための給付金を支給します。	<b>成果実績</b>	各区の子ども・家庭相談コーナーで給付の相談等を受け、就業に向けた支援を行いました。
-----------	--------------------	---	-------------	---

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
		ひとり親家庭施策を知らない人の割合(母子福祉センター) 自立を図るために必要な施策の情報が、必要な家庭に確実に効果的に届く必要があることから成果指標として掲げました。最終目標は「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 減少(26年度)	25.9 %	減少	66.7 %	
	ひとり親家庭施策を知らない人の割合(子ども・家庭相談コーナー) 自立を図るために必要な施策の情報が、必要な家庭に確実に効果的に届く必要があることから成果指標として掲げました。最終目標は「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 減少(26年度)	40.7 %	減少	22.2 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

<b>活動計画</b>	収入面、雇用条件等で安定した仕事に就き、自立を促進できる事業であり、法の規定に従い、引き続き現状の支援を行います。	<b>活動実績</b>	活動結果は下記のとおりです。
-------------	---	-------------	----------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
		自立支援教育訓練給付金・高等技能訓練促進費等給付金の申請件数 就業による自立を促進することは重要であることから、母子家庭の就業を支援する施策の利用件数を活動指標としました。	78 件	—	104 件	
	給付金受給者の資格取得率(合格者/受験者) 就業の際に有利であり、かつ生活の安定に資する資格の取得を目指すことが目的であるため、資格取得率を活動指標としました。	— %	—	94.3 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。  母子家庭の母親の就業を促進し、自立を支援するため、就職に有利で生活の安定につながる資格の取得を促進するための「高等技能訓練促進費等給付金」、就職につなげる能力開発のため教育訓練講座の受講料を助成する「自立支援教育訓練給付金」を支給し、母子家庭の母の自立を促進しました。
	<b>「経済性」</b> <b>「効率性」</b> の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。  支給金額等は、法律等で規定されています。

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題 国の給付基準(給付期間や給付額など)が財政状況によって変動しており、それが利用者に影響します。平成23年度の母子世帯等実態調査において、自立支援給付金事業を知らない人は56.4%であり、制度の周知不足が課題です。事業の周知に努め、受付窓口である子ども・家庭相談コーナーでは、就職に有利で生活の安定に繋がる資格の取得を促し、利用者数の増加に努めます。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	資格取得率が高いことから、収入面、雇用条件等で安定した仕事に就き、自立を促進する効果的な事業です。今後も法の規定に従い、引き続き現状の支援を行います。平成25年度から、父子家庭の父も支給対象とする予定です。制度改正により支給額が減額となったことにより、平成25年度予算は減額します。	ひとり親家庭施策(母子福祉センター、子ども・家庭相談コーナー)を知らない人の割合の減少を目指します。

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	母子福祉センター事業の充実						施策番号
							I-1-(1)-④
<b>コスト</b>	事業費	平成23年度執行額 33,830 千円	平成24年度当初予算額 39,881 千円	人件費 の目安	金額 1,480 千円 (備考)	担当局	子ども家庭局
					課長 0 人 職員 0.1 人	担当課	子育て支援課
					係長 0.1 人	課長名	松成

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	「母子福祉センター」において、各種相談事業、自立促進のための各種講座や就職相談会などを実施し、母子家庭等の総合的な福祉の向上を図ります。今後、さらに、就業支援講座の充実を図ります。				<b>成果実績</b>	成果の状況は下記のとおりです。	
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	<b>【成果の状況】</b>		
	母子福祉センターにおける講座等の受講者延べ人数	4,438 人	—	3,932 人		代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック		
	ひとり親家庭が自立し、安定した生活を営むためには、就業により収入を安定的に確保する必要があります。よって、この就業を支援する施策の利用数の増加を成果指標として掲げました。最終目標は「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 6,000人(26年度)							
	ひとり親家庭施策を知らない人の割合(母子福祉センター)	25.9 %	減少	66.7 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	<b>やや遅れ</b>		
自立を図るために必要な施策の情報が、必要な家庭に確実に効果的に届く必要があることから成果指標として掲げました。最終目標は「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 減少(26年度)								

<b>活動計画</b>	ひとり親家庭等の様々な相談に応じるとともに、生活指導や技能習得のための講座の開催、就職の援助等を行い、生活の安定や福祉の向上に努めます。					<b>活動実績</b>	活動結果は下記のとおりです。	
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	<b>【活動の状況】</b>		
	母子福祉センターの利用者数	7,200 人	—	7,283 人		活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
	母子福祉センターは、相談事業や就業支援事業等を行い、母子福祉を総合的に推進する拠点施設であることから、その利用者数を活動指標としました。							
					大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	<b>やや遅れ</b>		

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	一般・特別相談(2,001人)、就業支援相談(19人)、就業支援講習会(351回開催、延べ3,932人受講)等を実施し、ひとり親家庭等の自立と生活の向上を図りました。
	<b>「経済性」</b> <b>「効率性」</b> の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	指定管理者制度により、コストの削減等に努めています。

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題 母子福祉センターの利用者数は、昨年度より増加したものの、講座の受講者数が減少し、認知度も下がっています。そのため、今年度、講座を充実させるため講座数を増やしました。また、ひとり親家庭のための合同就職説明会やひとり親家庭のガイドブックなどで周知を図りました。さらに、就業支援の強化を図るため、相談員に専門職(キャリアカウンセラー)を配置し、母子自立支援プログラム策定事業に取り組み、今年度上半期で80件と昨年度1年間の策定件数72件を上回っています。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	事業費は現状どおりですが、講座の変更、期間、時期、時間帯など講座内容の見直しを図ります。また、様々な機会を通じて母子福祉センターをPRし認知度を上げるよう努めます。	母子福祉センターにおける講座等の受講者延べ人員の増加とひとり親施策(母子福祉センター)を知らない人の割合の減少を目指します。

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	母子自立支援プログラム策定事業等成功事例集の作成						施策番号
							I-1-(1)-④
<b>コスト</b>	事業費	平成23年度執行額 0千円	平成24年度当初予算額 0千円	人件費 の目安	金額 790千円 (備考)	担当局	子ども家庭局
					課長 0人 職員 0.1人	担当課	子育て支援課
					係長 0人	課長名	松成

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたのか	「母子福祉センター」で実施している母子自立支援プログラム策定事業等によって、就業につながった事例などを集めた成功事例集を作成し、今後の就業支援に役立てます。				<b>成果実績</b>	成果の状況は下記のとおりです。	
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】		
	ひとり親家庭施策を知らない人の割合(母子福祉センター)	25.9 %	減少	66.7 %		代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック		
	自立を図るために必要な施策の情報が、必要な家庭に確実に効果的に届く必要があることから成果指標として掲げました。最終目標は「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 減少(26年度)							
	ひとり親家庭施策を知らない人の割合(子ども・家庭相談コーナー)	40.7 %	減少	22.2 %		大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	やや遅れ	
自立を図るために必要な施策の情報が、必要な家庭に確実に効果的に届く必要があることから成果指標として掲げました。最終目標は「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 減少(26年度)								

<b>活動計画</b>	母子自立支援プログラム策定事業等によって、就業につながった事例などを集めた成功事例集を作成します。					<b>活動実績</b>	活動結果は下記のとおりです。		
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】			
	成功事例集を母子福祉センターや各区の子ども・家庭相談コーナーにおいて活用します。そのため、数値で示すことが困難です。					大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	事例の収集を行ったが、編成中であり、成功事例集の作成まで至らなかった。
	<b>「経済性」</b> <b>「効率性」</b> の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	母子自立支援プログラム策定事業を行う指定管理者が作成することにより、効率的に取り組めます。

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	本年8月に成功事例集を作成し、母子福祉センターや各区子ども・家庭相談コーナーにおいて就労相談に活用しています。また、ひとり親家庭のための合同就職説明会において配付し、母子福祉センターのPRを兼ねて活用しました。しかし、事業や制度改正に合わせ、より新しい事例を盛り込んだ改訂版を作成する必要があります。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	ひとり親家庭施策(母子福祉センター、子ども・家庭相談コーナー)を知らない人の割合の減少を目指します。
	指定管理者が作成するため、事業費は計上していませんが、掲載事例を見直し、就業支援に役立つ充実した内容の改訂版を作成します。	

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	ひとり親家庭の在宅就業支援						施策番号
							I-1-(1)-④
<b>コスト</b>	事業費	平成23年度執行額 35,332 千円	平成24年度当初予算額 0 千円	人件費 の目安	金額 3,825 千円 (備考)	担当局	子ども家庭局
					課長 0.1 人 職員 0.3 人	担当課	子育て支援課
					係長 0.1 人	課長名	松成

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたのか	ひとり親家庭等の在宅就業について、業務の開拓、従業者の能力開発、相談支援等の一体的取り組みを実践し、就業の拡大に向けた環境整備を図ります。	<b>成果実績</b>	各区の子ども・家庭相談コーナーなどで相談を受け、事業の周知に努めました。
-----------	--------------------	---	-------------	--------------------------------------

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
		ひとり親家庭施策を知らない人の割合(母子福祉センター) 自立を図るために必要な施策の情報が、必要な家族に確実に効果的に届く必要があることから成果指標として掲げました。最終目標は「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 減少(26年度)	25.9 %	減少	66.7 %	
	ひとり親家庭施策を知らない人の割合(子ども・家庭相談コーナー) 自立を図るために必要な施策の情報が、必要な家族に確実に効果的に届く必要があることから成果指標として掲げました。最終目標は「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 減少(26年度)	40.7 %	減少	22.2 %		

<b>活動計画</b>	ひとり親家庭の在宅就業を支援するため、業務開拓や受講者の能力開発を業務委託により実施します。	<b>活動実績</b>	活動結果は下記のとおりです。
-------------	--	-------------	----------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
		受講者数 就業による自立を促進することは重要であることから、ひとり親家庭の就業を支援する施策の利用者数を活動指標としました。	38 人	—	37 人	

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	就職・再就職に困難を伴う、ひとり親家庭の父母等に対して、安定した在宅での就業ができるように支援するため、業務開拓や受講者の能力開発を行いました。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」 「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	企画コンペ方式により、事業者を選定し、効果的に事業を行いました。

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題	
	平成22年度から23年度の2か年の事業のため、本事業は終了しました。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	(終了)	

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	母子寡婦福祉資金貸付金制度の利用促進						施策番号
							I-1-(1)-④
<b>コスト</b>	事業費	平成23年度執行額 339,801 千円	平成24年度当初予算額 577,142 千円	人件費 の目安	金額 8,825 千円 (備考)	担当局	子ども家庭局
					課長 0.1 人 職員 0.9 人	担当課	子育て支援課
					係長 0.2 人	課長名	松成

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	母子家庭の子どもに、高等教育を受ける機会を保障し、厳しい雇用情勢の中での母親の就労を確保して、母子家庭の経済的自立の促進および生活意欲の向上を図るため、貸付の利用を促進します。	<b>成果実績</b>	各区の子ども・家庭相談コーナーで貸付の相談等を受け、利用促進に努めました。		
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	ひとり親家庭施策を知らない人の割合(母子福祉センター)	25.9 %	減少	66.7 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	自立を図るために必要な施策の情報が、必要な家庭に確実に効果的に届く必要があることから成果指標として掲げました。最終目標は「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 減少(26年度)					
	ひとり親家庭施策を知らない人の割合(子ども・家庭相談コーナー)	40.7 %	減少	22.2 %		順調
自立を図るために必要な施策の情報が、必要な家庭に確実に効果的に届く必要があることから成果指標として掲げました。最終目標は「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 減少(26年度)						

<b>活動計画</b>	母子家庭等の生活の安定と向上を図るため、引き続き、貸付事業を継続します。	<b>活動実績</b>	適正な貸付けを執行しました。
-------------	--------------------------------------	-------------	----------------

<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	貸付件数	953 件	—	771 件	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	就業による自立を促進することは重要であることから、母子家庭等の就業や子育て・生活を支援する施策の利用件数を活動指標としました。					
						順調

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	貸付事業の実施により、母子家庭等の子どもの就学、母親の資格取得等を助け、生活の向上と安定に寄与しました。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」 「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	母子及び寡婦福祉法に定められた事業であり、金額等は法律等で規定されています。

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題	貸付の利用件数については、平成21年度から増加傾向にありましたが、昨年度は減少しました。法で定められた事業であり、貸付額等の条件は変更できませんが、施策のPRに努め利用者数の増に努める必要があります。
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	貸付利用者が減少していることから、平成25年度予算は減額となっていますが、母子家庭等の生活の安定と向上を図るためには、経済的支援を行う必要があることから、引き続き法に基づいて貸付事業を継続します。 また、貸付事業の実施にあたっては、支援を必要とするひとに本貸付制度の利用促進を促すため、PRの機会・媒体等を拡大します。	ひとり親家庭施策(母子福祉センター、子ども・家庭相談コーナー)を知らない人の割合の減少を目指します。

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	ひとり親家庭等医療費支給制度						施策番号
							I-1-(1)-④
<b>コスト</b>	事業費	平成23年度執行額 1,251,886 千円	平成24年度当初予算額 998,924 千円	人件費 の目安	金額 8,775 千円 (備考)	担当局	子ども家庭局
					課長 0.1 人 職員 0.8 人	担当課	子育て支援課
					係長 0.2 人	課長名	大下

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたのか	母子家庭の母または父子家庭の父及び児童、父母のない児童の健康の向上と福祉の増進を図るため、保険診療による医療費の自己負担額を助成します。	<b>成果実績</b>	成果の状況は下記のとおりです。		
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	子育ての悩みや不安を感じる人の割合(就学前児童の保護者)	34.6 %	減少	38.0 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	多くの保護者が子育ての悩みや不安を感じており、この割合の減少は施策の目標を着実に推進していく上でも重要であることから、成果指標として設定しました。最終目標は「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 減少(26年度)					
	子育ての悩みや不安を感じる人の割合(小学生の保護者)	33.7 %	減少	24.0 %		順調
多くの保護者が子育ての悩みや不安を感じており、この割合の減少は施策の目標を着実に推進していく上でも重要であることから、成果指標として設定しました。最終目標は「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 減少(26年度)						

<b>活動計画</b>	母子家庭の母または父子家庭の父及び児童、父母のない児童に対する医療費助成を、継続して実施します。	<b>活動実績</b>	活動結果は以下のとおりです。			
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	ひとり親家庭等医療の受給者数	32,408 人	30,564 人	30,046 人	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	ひとり親家庭等医療の受給者数が増えることにより、経済面における子育ての悩みや不安を感じる人の割合は減少すると予想されるため、指標として設定しました。					
						順調

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。  受給者数はほぼ目標通りであり、経済面における子育ての悩みや不安を感じる人の割合の減少につながったと考えられるため、施策に対する効果は高いと考えます。
	<b>「経済性」</b> <b>「効率性」</b> の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。  保険診療による自己負担額を助成するものであるため、代替手段によるコスト削減または市以外の団体による関与は考えられません。

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題  受給者数は目標通りであり、経済面における子育ての悩みや不安を感じる人の割合の減少につながったと考えます。	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	次年度の活動計画(見直し内容)	医療費の自己負担額を助成することにより、「子育ての悩みや不安を感じる人の割合」について、現状通りの成果を目指します。
	現行制度を継続して実施し、事業費についても、現状通りとします。	

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	ひとり親家庭施策の周知						施策番号
							I-1-(1)-④
<b>コスト</b>	事業費	平成23年度執行額 649 千円	平成24年度当初予算額 700 千円	人件費 の目安	金額 790 千円 (備考)	担当局	子ども家庭局
					課長 0 人 職員 0.1 人	担当課	子育て支援課
					係長 0 人	課長名	松成

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたのか 自立を図るために必要な情報を周知するため、ひとり親家庭の利用できる制度や施設をまとめた「ひとり親家庭のガイドブック(携帯版)」を作成し、配布します。	<b>成果実績</b>	成果の状況は下記のとおりです。			
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	ひとり親家庭施策を知らない人の割合(母子福祉センター)	25.9 %	減少	66.7 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	自立を図るために必要な施策の情報が、必要な家庭に確実に効果的に届く必要があることから成果指標として掲げました。最終目標は「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 減少(26年度)					
	ひとり親家庭施策を知らない人の割合(子ども・家庭相談コーナー)	40.7 %	減少	22.2 %		順調
自立を図るために必要な施策の情報が、必要な家庭に確実に効果的に届く必要があることから成果指標として掲げました。最終目標は「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 減少(26年度)						

<b>活動計画</b>	ひとり親家庭等の利用できる制度や施設をまとめた冊子を作成・配布することにより、自立を図るために必要な情報を周知します。	<b>活動実績</b>	活動結果は下記のとおりです。			
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	「ひとり親家庭のガイドブック」の作成・配布	作成 配布	—	作成 配布	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	ひとり親家庭のガイドブックを13,000冊発行し、各区の相談窓口や母子福祉センターなどで配布することにより、ひとり親家庭等の自立を図るために必要な情報を周知します。					
				順調		

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。  ひとり親家庭等の利用できる制度や施設をまとめた冊子を作成・配布することにより、自立を図るために必要な情報を周知しました。
	<b>「経済性」</b> <b>「効率性」</b> の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。  携帯版にすることにより、利便性、経済性を図りました。

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	<b>課題</b>  ひとり親家庭に対する施策の周知は、このガイドブックや市のホームページ、各区子ども・家庭相談コーナーなどで行っています。国や市の制度改正に対応し、より見やすいひとり親家庭のガイドブックの改訂版を作成するなど、自立を図るために必要な情報を周知する必要があります。	<b>その結果目指す成果(次年度の成果目標)</b>  ひとり親家庭施策(母子福祉センター、子ども・家庭相談コーナー)を知らない人の割合の減少を目指します。
	<b>次年度の活動計画(見直し内容)</b>  事業費は現状維持ですが、ひとり親家庭等に、自立を図るために必要な情報を周知するため、周知媒体の見直しを行ない、引き続き事業を継続します。	

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	虐待の早期発見・迅速かつ適切な対応および児童への支援のための連携強化						施策番号
							I-1-(1)-④
<b>コスト</b>	事業費	平成23年度執行額 17,860 千円	平成24年度当初予算額 17,563 千円	人件費 の目安	金額 33,200 千円 (備考)	担当局	子ども家庭局
					課長 0.8 人 職員 2 人	担当課	子ども総合センター
					係長 0.9 人	課長名	高橋

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたのか 児童虐待は子どもに対する最大の人権侵害です。関係各機関が連携を図ることで、児童虐待の発生予防、早期発見、早期対応及び適切な支援ができるようになることを目指します。	<b>成果実績</b>	成果状況は下記のとおりです。
-----------	---	-------------	----------------

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
		児童虐待対応件数 児童虐待の発生予防に努めるとともに、早期発見、早期対応により、虐待が深刻化する前に適切な支援ができる社会環境づくりを進めることが児童虐待対応件数の減少につながることから、成果指標として掲げました。 最終目標は、「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 減少(26年度)	308 件	減少	322 件	
	(最終目標と目標年度)				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

<b>活動計画</b>	児童虐待相談対応の強化を図ります。	<b>活動実績</b>	活動結果は下記のとおりです。
-------------	-------------------	-------------	----------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
		児童虐待問題連続講座の参加者数 市民や関係機関職員を対象にした「児童虐待問題連続講座」を11月に開催するので、参加者数を指標として掲げました。	248 人	単年度の目標設定はありません	266 人	
	児童虐待対応リーダー養成研修の参加者数 児童虐待の早期対応を図るため、保育所、学校等の職員を対象とした「児童虐待対応リーダー養成研修」を毎年実施しています。毎年対象施設が異なるため、参加者数も変動しますが、指標として掲げました。	221 人	単年度の目標設定はありません	154 人	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析 活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	関係職員の資質向上のため、23年度は保育所を対象とした「児童虐待対応リーダー養成研修」を開催しました。また、11月の児童虐待防止推進月間に、市民や関係機関職員を対象とした「児童虐待問題連続講座」を開催しました。児童虐待の問題は、関係する様々な機関が個別に知識や対応能力を向上させるとともに連携し、児童やその家庭等を支援して、問題解決を図っていかねばなりません。現在、関係各機関での研修体制の確立や通告先の明確化、通告後の流れ等も浸透しつつあり、より一層の連携が図られ、児童虐待防止に向け、有効性は高いと考えます。
	<b>「経済性」</b> <b>「効率性」</b> の分析 「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	児童虐待対応は、子どもの安全が最優先であり、法的にも、区や児童相談所がマネジメントの主体とならざるを得ません。また、児童虐待に関する研修や啓発については、専門的な知識や経験が必要で、学識経験者等による講義に加え、一部研修では経験を積んだ職員が講師を行うなど、効率的に実施しています。

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題 成果指標の対応件数はやや増加しました。平成24年度も児童虐待の発生予防や早期発見、早期対応等適切な支援ができるように、今後も関係機関と連携を図りながら、対応することが必要です。	その結果目指す成果(次年度の成果目標) 児童虐待対応件数を減少させることを目標とします。
	次年度の活動計画(見直し内容) 児童虐待対応の質の向上のため、「児童虐待対応リーダー養成研修」等の研修を通して、多くの関係者が協力しながら適切な対応ができるように、前年度並みの事業費で効率的に実施します。	

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	身近で気軽に行ける相談窓口体制の整備(保育所等)						施策番号
							I-1-(1)-④
<b>コスト</b>	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	675 千円 (備考)	担当局	子ども家庭局
	0 千円	0 千円		課長	0 人 職員 0.1 人	担当課	保育課
				係長	0 人	課長名	重谷

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	保育所や幼稚園、児童発達支援センター、入所施設、特別支援学校等で、市民が気軽に相談できる窓口を設けられないか検討します。その体制を作るため、障害児療育の専門機関による技術的支援を行うなど、保育所等の職員の専門性の向上を図ります。	<b>成果実績</b>	発達相談等にも対応できるよう、各保育所が、障害児保育について障害児療育の専門機関等から支援を受け、専門性の向上を図りました。		
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	保育所に対する満足度(保育内容)	91.1 %	向上	81.0 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	保育の質の向上、多様なニーズに対応した特別保育の充実などの取り組みによる成果を示す指標として掲げました。最終目標は、「元気発達！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 向上(26年度)					
(最終目標と目標年度)						

<b>活動計画</b>	市民の相談窓口設定の検討を行い、保育所等の職員の専門性の向上を図ります。	<b>活動実績</b>	社会福祉研修所主催の研修(50所×3回実施(150名参加))での講義の中で、障害児保育の現状についての講義を実施しました。			
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	相談対応施設数	157 施設	158 施設	158 施設	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	全保育所(158施設)で相談に対応していきます			100.0 %		順調

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	入所指導以外の相談は少ないが、療育の専門機関から支援事業や保育課や社会福祉研修所主催で体制づくりの研修を実施しました。保育所という身近な施設において、発達に関する相談もしやすく、子どもに関する様々な問題の早期発見につながります。また乳児から就学前までの様々な子どもがいるので、実際の援助の様子を見ることができ、保護者にとって大きな支援になります。
	<b>「経済性」</b> <b>「効率性」</b> の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	臨床心理士の賃金は子ども総合センターの臨床心理士報償費に基づき金額を設定していますので、経済性や効率性も重視した雇用形態といえます。

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題  一生を通じた支援をイメージした、幼児期の相談体制の整備が必要です。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	専門機関や市の相談窓口などの関連機関との連携・研修を実施し、多様なニーズに対応した相談体制の強化を図ります。保育所職員等の専門性の向上を図ります。	保育所に対する満足度の向上を図ります。

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	保育所・幼稚園から小学校・特別支援学校への連絡体制・情報共有機能の強化						施策番号			
							I-1-(1)-④			
<b>コスト</b>	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費の目安	金額	345 千円 (備考)	担当局	子ども家庭局		
		0 千円	0 千円		課長	0 人	職員	0 人	担当課	保育課
					係長	0 人			課長名	重谷

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたのか	保育所・幼稚園等と小学校・特別支援学校が、特別な支援が必要な児童についてのケース会議を持ち、就学に向けた入学児童の一人ひとりの引継ぎ資料等を作成するなど、入学時の連絡体制・情報共有機能を強化します。	<b>成果実績</b>	北九州市内の全認可保育所から、3月に保育所児童保育要録を送付し、小学校入学児童の一人ひとりについて、情報の共有を図りました。
-----------	--------------------	---	-------------	--

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
		保育所に対する満足度(保育内容)			81.0 %	
	保育の質の向上、多様なニーズに対応した特別保育の充実などの取り組みによる成果を示す指標として掲げました。最終目標は、「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 向上(26年度)	91.1 %	向上			
	(最終目標と目標年度)				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

<b>活動計画</b>	就学に向けて児童一人ひとりの連絡体制・情報共有機能を強化します。	<b>活動実績</b>	活動結果は以下のとおりです。
-------------	----------------------------------	-------------	----------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
		保育所児童保育要録の送付			158 施設	
	北九州市内の認可保育所において共通で使用している様式の保育所児童保育要録を記入し、全保育所から就学先の小学校へ送付します。		158 施設	100.0 %		
	小学校・特別支援学校との連携体制の強化				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調
	各学校における連絡会等の内容や開催時期等の差がありますが、全就学先で実施が可能となるように、教育委員会と連携していきます。					

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。
	<b>「経済性」</b> <b>「効率性」</b> の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。  現行の組織体制の中で、それぞれの連携強化をもって対応しており、特段の予算はかけていないため、経済性・効率性は高いと考えます。

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題	
	保育所、幼稚園等と小学校・特別支援学校との就学に向けた引継ぎ資料や連絡会の実施等、生活や発達の連続性を踏まえた連携が行われるような体制作りが必要です。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	保育所児童要録等の小学校への連絡内容の検討・充実に向けた連絡会議や合同研修等を実施し、保幼小のさらなる連携を図ります。	保育所に対する満足度の向上を図ります。

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	専門機関との連携による保育所での発達障害児支援の充実						施策番号
							I-1-(1)-④
<b>コスト</b>	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費の目安	金額	875 千円 (備考)	担当局
		0 千円	0 千円		課長	0 人 職員 0.1 人	担当課
					係長	0.1 人	課長名
							子ども家庭局 保育課 重谷

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたのか	保育所と、「子ども総合センター」「総合療育センター」など専門機関との連携を強め、保育所に通うLD、ADHD、高機能自閉症のある子どもなどへの支援の拡充を図ります。特に今後の課題として、保育所における対応のあり方、専門機関との役割分担、保護者への支援のあり方等について検討を深め、支援に取り組みます。	<b>成果実績</b>	総合療育センターなどの専門機関への実習、見学を通じ、障害児施設の役割と実態及び療育方法について学び、発達障害児への対応に活かしています。		
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	保育所に対する満足度(保育内容)	91.1 %	向上	81.0 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	保育の質の向上、多様なニーズに対応した特別保育の充実などの取り組みによる成果を示す指標として掲げました。最終目標は、「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 向上(26年度)					順調
(最終目標と目標年度)						

<b>活動計画</b>	専門機関と連携して、発達障害児やその保護者への支援に取り組みます。	<b>活動実績</b>	保育課主催で、療育施設の実習(39名)、統合保育研修(公開保育・55名)、関係機関見学(22名)を実施し、発達障害児支援の充実を図りました。
-------------	-----------------------------------	-------------	--

<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	専門機関と連携した発達障害児の支援				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	子ども総合センター・総合療育センター・障害福祉センター等専門機関と連携し、発達障害児の支援の拡充を図ります。					順調
	保護者支援の取り組み					
専門機関などの支援を受けながら、個別の支援計画を作成し、これを基に保育所と家庭がそれぞれの生活状況を伝え合うことで、共通理解を深め、保護者の悩みなどを支えます。						

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】 【活動の状況】</b> を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	子どもの発達相談や保育への個別支援、研修などを通して、支援に取り組みました。一人ひとりの障害はさまざまであり、その状態も多様であるので、障害のある子どもの保育にあたっては、専門機関と連携する機会を多く持つことが重要で、有効性は高いと考えられます。
	<b>「経済性」 「効率性」</b> の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。」	市の規定に基づく専門講師や既存施設を活用し、合理的に実施していきます。

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題	多様なニーズに対応した、発達障害児支援のための保育の質の向上や、専門機関との連携、保護者支援への体制づくりを実施する必要があります。
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	引き続き、療育施設実習、統合保育研修、関係機関見学等を実施します。また、専門機関、市の関係機関との連携の強化を図ります。	保育所に対する満足度の向上を図ります。

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	<b>親子通園クラスの設置</b>						施策番号
							I-1-(1)-④
<b>コスト</b>	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費の目安	金額	5,300 千円 (備考)	担当局	子ども家庭局
	1,276 千円	2,395 千円		課長	0.2 人 職員 0.4 人	担当課	保育課
				係長	0 人	課長名	重谷

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたのか 直営保育所へ新たに「親子通園クラス」を設置し、発達の気になる子どもを保護者とともに受け入れ、保育所での遊びや体験、相談を通じて継続した支援を行います。また、直営保育所と保健、医療、福祉の関係機関が連携しながら、児童の保育所、幼稚園などへの移行を支援します。	<b>成果実績</b>	親子通園利用世帯の全てが、当該事業の支援を通して、次年度の対応を決定することができました。(移行先が決定した世帯:67%超、「現状にとどまる」という結論を選択した世帯:残りの約30%)
-----------	--	-------------	--

	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
<b>代表的な成果指標</b>	保育所に対する満足度(保育内容)	91.1 %	向上	81.0 %		代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	保育の質の向上、多様なニーズに対応した特別保育の充実などの取り組みによる成果を示す指標として掲げました。最終目標は、「元気発達！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 向上(26年度)					
	(最終目標と目標年度)					
					大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

<b>活動計画</b>	八幡西区黒崎保育所、小倉北区東篠崎保育所において、親子通園クラスを設置し、発達に不安のある児童や育児に不安のある保護者を親子で受け入れ、遊びや相談を通じて、保育所や幼稚園、療育機関等への移行支援を行います。	<b>活動実績</b>	平成23年度については、黒崎保育所で延べ73組、東篠崎保育所で延べ31組の親子が親子通園を利用しました。
-------------	---	-------------	--

	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
<b>活動指標</b>	親子通園クラスの設置数	1 施設	2 施設	2 施設 100.0 %		活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	親子通園クラスを設置し、発達に不安のある児童や育児に不安のある保護者を親子で受け入れ、遊びや相談等を通じて、保育所や幼稚園、療育機関等への移行支援を行います。 (最終目標と目標年度) 7箇所(平成26年度)					
					大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	新たに小倉北区の東篠崎保育所において親子通園クラスを設置し、遊びの提供や保護者との懇談を行い、発達の気になる子どもや育児に不安のある保護者に対し、継続した支援を行いました。黒崎保育所は延べ73組、東篠崎保育所は延べ31組の親子が利用しました。通園利用世帯に対して実施したアンケートで、利用者の満足度は100%でした。また、次年度の移行先が決定した世帯も67%を超え、移行支援としての成果も出ています。全国的にも例のない事業です。
	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	直営保育所の経営資源を活用することでコストを抑えるとともに、利用料として1世帯あたり月に4,000円を徴収しています。	

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題 よりきめ細かい支援を行うためのネットワークの構築や、現在の親子通園実施園から離れている地域の利用希望者への対応、市民への情報発信についての検討が必要で す。 次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	区役所、直営保育所の職員間の連携を強化し、親子通園実施以外の区の関連機関へのネットワークの拡大、充実を行います。ホームページ、市政だより、チラシなどの市民への情報発信に努めます。利用者のための駐車場を確保することで、より利用しやすい環境を整備するため、予算を拡充します。	親子通園利用者の増加を図ります。他機関との連携のもと、各保護者のニーズに応じたサービスの提供を行います。

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	子育てに優しいまちづくり(地域の子育て支援)の推進						施策番号
							I-1-(1)-⑤
<b>コスト</b>	事業費	平成23年度執行額 5,318 千円	平成24年度当初予算額 5,800 千円	人件費 の目安	金額 7,275 千円 (備考)	担当局	子ども家庭局
					課長 0.1 人 職員 0.35 人	担当課	子育て支援課
					係長 0.35 人	課長名	大下

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	地域ぐるみで子育てを支える取り組みを進めていくため、小学校区単位を基本に市民センター等を拠点とした子育て支援活動を促進します。	<b>成果実績</b>	成果の状況は以下のとおりです		
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	子育てが地域の人に支えられていると感じる人の割合	55.2 %	増加	55.9 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	子育ての悩みや不安を感じる人の割合(就学前児童の保護者)	34.6 %	減少	38.0 %		順調
	多くの保護者が子育ての悩みや不安を感じており、この割合の減少は施策の目標を着実に推進していく上でも重要であることから、成果指標として設定しました。最終目標は「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 増加(26年度)					
子育ての悩みや不安を感じる人の割合(就学前児童の保護者)						

<b>活動計画</b>	平成23年度は20地域を採択し、財政的支援(子育て支援活動経費として10万円を交付)、人的支援(アドバイザーを地域に派遣し子育て支援活動をサポート)、人材育成支援(子育てに関する研修会(年2回実施)や活動事例報告会(年度末実施))を行います。	<b>活動実績</b>	20地域に補助金の交付、アドバイザーの派遣、人材育成研修会(9、10月)及び活動事例報告会(3月)を開催しました。採択地域においては、地域の実情に応じた、地域ぐるみの子育て支援活動を展開しました。			
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	支援地域数	10 地域	20 地域	20 地域	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	地域ぐるみで子育てを支えるには、各校区のまちづくり協議会を核としたネットワークによる地域での子育て支援活動の展開が望ましく、地域の実情に応じた子育て支援活動を実施する地域数を拡充していく必要があると考え、支援地域数を活動指標とします。			100.0 %		大変順調
						大変順調

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】 【活動の状況】</b> を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	成果の状況は、年度により若干の上下変動が見られるものの、目標達成に向け推移していることから順調とし、活動の状況については、計画どおりの20地域で、地域の実情に応じた様々な子育て支援活動が実施されたことから、大変順調としました。 また、本年度は20支援地域採択枠に24地域からの申請があり、本事業のニーズが高く、地域が主体となって積極的に子育て支援活動に取り組んでいることから、事業目的を達成する上で大変有効的であると考えられます。
	<b>「経済性」 「効率性」</b> の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。」	本年度、実施した研修会や活動事例報告会では、支援地域以外からの参加者も多数あり、本事業についての関心やニーズが高いことが確認された。このことから、支援地域以外においても、自主的に子育て支援活動へ取り組むこととなれば、効率的に本事業の目的が達成できると考えます。 身近な地域で子育てをさせる仕組みをつくることともに、子育てを地域で支えるという意識を市民に啓発する必要があることから、実施主体としては市が適切であると考えます。

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題				
	平成23年度は計画どおりに活動し、成果指標も目標達成に向け推移しています。平成24年度も20地域で順調に活動しています。しかしながら、本年度で7地域の支援が終了することから、来年度以降についても、これらの地域で自主的な子育て支援活動への取り組みが継続していくことができるよう、フォローしていくことが課題です。				
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">次年度の活動計画(見直し内容)</td> <td style="width: 50%;">その結果目指す成果(次年度の成果目標)</td> </tr> <tr> <td>平成25年度も引き続き20地域を採択し支援します。また、次年度より、支援が終了した地域やその他の地域についてもアドバイザーの派遣や研修会への案内をし、自主的に子育て支援活動に取り組むよう啓発していきます。なお、事業費については、現状を維持します。</td> <td>平成26年度の最終目標の達成に向け、子育てが地域の人に支えられていると感じる人の割合が増加し、子育ての悩みや不安を感じる人の割合が減少するよう、引き続き、身近な地域で子育てを支える取り組みに支援を行い、地域社会全体で子育てを支える環境づくりを進めます。</td> </tr> </table>	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)	平成25年度も引き続き20地域を採択し支援します。また、次年度より、支援が終了した地域やその他の地域についてもアドバイザーの派遣や研修会への案内をし、自主的に子育て支援活動に取り組むよう啓発していきます。なお、事業費については、現状を維持します。	平成26年度の最終目標の達成に向け、子育てが地域の人に支えられていると感じる人の割合が増加し、子育ての悩みや不安を感じる人の割合が減少するよう、引き続き、身近な地域で子育てを支える取り組みに支援を行い、地域社会全体で子育てを支える環境づくりを進めます。
次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)				
平成25年度も引き続き20地域を採択し支援します。また、次年度より、支援が終了した地域やその他の地域についてもアドバイザーの派遣や研修会への案内をし、自主的に子育て支援活動に取り組むよう啓発していきます。なお、事業費については、現状を維持します。	平成26年度の最終目標の達成に向け、子育てが地域の人に支えられていると感じる人の割合が増加し、子育ての悩みや不安を感じる人の割合が減少するよう、引き続き、身近な地域で子育てを支える取り組みに支援を行い、地域社会全体で子育てを支える環境づくりを進めます。				

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	一時保育事業						施策番号
							I-1-(1)-⑤
<b>コスト</b>	事業費	平成23年度執行額 49,646 千円	平成24年度当初予算額 54,620 千円	人件費 の目安	金額 1,480 千円 (備考)	担当局	子ども家庭局
					課長 0.02 人 職員 0.1 人	担当課	保育課
					係長 0.05 人	課長名	武田

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたのか	保護者のパート就労や冠婚葬祭、及び育児リフレッシュ等の理由により、一時的に家庭での保育が困難となる児童を保育所において保育します。今後は、実施施設数を増やします。	<b>成果実績</b>	当初の計画を上回る5施設で、一時保育の新規開設を行い、全59施設において年間延べ25,525人の児童に利用されています。
-----------	--------------------	---	-------------	--

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
		子育ての悩みや不安を感じる人の割合 (就学前児童の保護者) 多くの保護者が子育ての悩みや不安を感じており、この割合の減少は施策の目標を着実に推進していく上でも重要であることから、成果指標として設定しました。最終目標は、「元気発進! 子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 減少(26年度)	34.6 %	減少	38.0 %	
	(最終目標と目標年度)				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

<b>活動計画</b>	引き続き一時保育実施施設を増やし、子育て家庭等の支援を行います。	<b>活動実績</b>	活動結果は下記のとおりです。
-------------	----------------------------------	-------------	----------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
		一時保育事業を実施する保育所 保育所の新設や改築に伴い一時保育室を設置するなどして一時保育事業実施保育所数の増を図ります。 (最終目標と目標年度) 64箇所(平成26年度)	54 所	58 所	59 所 101.7 %	
					大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析  <b>「経済性」</b> <b>「効率性」</b> の分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。  平成23年度は5所で新規開設を行い、全59施設における年間延べ利用児童数は、25,525人でした。一時的な就労等多様化する就労形態への対応や、専業主婦等の育児リフレッシュへの対応等について高い効果があります。  補助金は利用児童数に応じた額となっており、限られた補助の中で人員を配置し実施するなど、合理的に事業を行っています。
------------------	--	---

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題 保護者のパートタイム就労の増大や、疾病等による緊急の保育需要、さらには保護者の育児リフレッシュなどの要望は年々増大しています。就労しているにも関わらず保育所に入所できないケースや核家族化の進行や疾病等により一時的に保育に欠けるケースも多く存在しています。一時保育を幅広く展開していくことで、待機児童の解消や子育て支援家庭への支援にも繋がることとなることから、今後も一時保育の実施施設数の増を図ります。	その結果目指す成果(次年度の成果目標)  子育ての悩みや不安を感じる人の割合の減少を図ります。
	次年度の活動計画(見直し内容)	
	新設・改築した保育所に一時保育室を設置するなどして予算を維持しながら、一時保育事業実施保育所数の拡充を図ります。	

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	放課後児童クラブの運営体制の基盤整備						施策番号
							I-1-(1)-⑤
<b>コスト</b>	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	35,025 千円 (備考)	担当局	子ども家庭局
	1,247,024 千円	1,389,985 千円		課長	0.35 人 職員 2.4 人	担当課	子育て支援課
				係長	1.3 人	課長名	大下

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたのか 放課後児童クラブの全児童化に併せ、市民ニーズに応えられる運営内容を確保するため、研修会の実施、運営マニュアルの作成、開設時間の標準化や延長の推進等により、運営体制の充実を図ります。また、全児童化により、受け入れが増加する高学年児童や障害のある子どもへの対応が適切に行えるよう、指導員の資質向上を図ります。そのため、研修の充実、指導員相互の交流や情報交換、障害のある子どもなどの対応を支援するための臨床心理士等の巡回派遣を行います。	<b>成果実績</b>	成果の状況は以下のとおりです
-----------	---	-------------	----------------

	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
<b>代表的な成果指標</b>	放課後児童クラブに対する満足度(利用日、利用時間)	81.8 %	向上	81.5 %		代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	クラブごとに開設日や開設時間などの運営状況が異なる中、市民ニーズの多様化への対応を示す指標として掲げました。目標は子どもプランで設定したものです。最終目標は「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 向上(26年度)					
	(最終目標と目標年度)				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

<b>活動計画</b>	指導員の資質向上を図るため、より実践的な研修に取り組みます。また、障害児を受け入れているクラブに臨床心理士を派遣し、指導員に助言等を行います。	<b>活動実績</b>	活動結果は下記のとおりです。
-------------	---	-------------	----------------

	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
<b>活動指標</b>	18時30分以降まで開設している放課後児童クラブの割合	87.8 %	向上	96.8 %		活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	放課後児童クラブは多様な団体によって運営されていることから、クラブごとに開設時間などの運営状況に違いがあります。放課後児童クラブに対する様々なニーズに応えられるよう開設時間の標準化・延長をはじめ、運営の質を高めま (最終目標と目標年度) 100%(26年度)					
	障害のある児童の受入 全児童化により、受入が増加する障害のある児童への対応が適切に行えるよう、研修の充実や臨床心理士等の派遣により指導員の資質の向上を図ります。	195 人	障害児の受入促進	229 人	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	経験年数に応じた階層別研修など実践的な研修の実施や、障害児受入クラブへの臨床心理士(巡回カウンセラー)の派遣指導といった指導員の資質の向上に取り組んだ結果、障害児の受入が促進されています。また、開設時間の標準化に向けた協議をクラブと行い、18時30分以降まで開設しているクラブも増えていきます。そのため、活動の状況は順調としました。こうした活動の結果、クラブに対する満足度が引き続き高い水準を維持していることから、成果の状況は順調としました。
	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	障害児の受入に関しては、市に巡回カウンセラーを設置(雇用)し、必要に応じて各クラブに派遣して、指導員の助言にあたるることができたため、各クラブで専門職を設置する場合に比べて低コストで効率的な取り組みと考えています。	

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題 放課後児童クラブの利用に関する満足度は8割超と高水準を維持していますが、障害児等を含め利用児童は増加傾向にあります。このため、指導員の資質の向上を図るため、研修の実施や、巡回カウンセラー等の派遣指導への取り組みが必要です。また、開設時間が18時30分以降になっていないクラブも残っており、引き続き標準化に向けた取り組みが必要です。	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	次年度の活動計画(見直し内容)	適切な指導員の配置が行えるようにするとともに、指導員の資質向上を図るための研修等の実施や、開設時間の標準化に向けた取り組みを行い、運営の基盤整備を進めていくため、事業費は現状を維持していきます。

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	<b>放課後児童ヘルパーの設置</b>						施策番号			
							I-1-(1)-⑤			
<b>コスト</b>	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費の目安	金額	1,000 千円 (備考)	担当局	子ども家庭局		
		0 千円	0 千円		課長	0 人	職員	0 人	担当課	子育て支援課
					係長	0.1 人			課長名	大下

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたのか	地域の特色を活かした放課後児童クラブの活動を推進していくため、地域と連携を図り、地域の人材を「放課後児童ヘルパー」として登録し、活動を支援していきます。	<b>成果実績</b>	成果の状況は以下のとおりです
-----------	--------------------	--	-------------	----------------

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
		放課後児童クラブの魅力向上 学校や地域と連携し、活動内容の充実を図ることで、各地域の特色を活かした魅力ある放課後児童クラブの運営が促進されると考え、指標として掲げました。 (最終目標と目標年度)		向上		
					大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

<b>活動計画</b>	夏の教室(地域版)のモデル事業の実施に併せ、放課後児童ヘルパーを活用したモデル事業を実施し、活動内容の充実に向けた取り組み手法等の検討を行います。なお、モデル事業は6クラブ程度で実施します。	<b>活動実績</b>	活動結果は下記のとおりです。
-------------	---	-------------	----------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
		ヘルパー活用クラブの割合 放課後児童クラブの多くは、地域の方々が運営に参画されており、地域の特色を活かした放課後児童クラブの活動を推進していくために、「放課後児童ヘルパー」として登録し、活動を支援していきます。 (最終目標と目標年度) 50%(26年度)	0 %	単年度の目標設定はありません。	8.2 %	
					大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	夏の教室(地域版)のモデル事業の実施に併せ、12クラブで、放課後児童ヘルパー(地域の高齢者、大学生等)を活用したモデル事業を実施しました。これらのクラブでは、地域の高齢者等が、クラブの清掃活動等の支援を行い、普段取り組めない活動を行うことができたことから、モデル期間終了後も、この取り組みを継続・発展させ、魅力あるクラブづくりを進めています。地域の人材を活用することで、地域の特色を活かした活動が促進され、クラブの魅力向上に繋がっています。有効性の高い取り組みと考えています。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」 「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	地域の身近なところで、クラブの活動を支援してくれる人材を確保することができるので、経済性・効率性が高い取り組みと考えています。

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題
	23年度のモデル事業の取り組みの結果を報告書にまとめ、指導員研修会を通じて全放課後児童クラブに紹介しました。今後は、モデル事業の成果を踏まえ、夏の教室(地域版)の実施に併せ、各クラブでの取り組みを促進していく必要があります。
	次年度の活動計画(見直し内容)
	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	各クラブの先進的な取り組み事例を指導員研修会を通じて紹介したり、個別に助言等を行うなどして、各クラブの取り組みを促進していきます。
	放課後児童ヘルパーを活用するクラブの割合を増やし、放課後児童クラブの魅力向上させていきます。

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	生後4か月までの乳児家庭全戸訪問事業の充実						施策番号
							I-1-(1)-⑤
<b>コスト</b>	事業費	平成23年度執行額 43,979 千円	平成24年度当初予算額 46,339 千円	人件費 の目安	金額 2,750 千円 (備考)	担当局	子ども家庭局
					課長 0 人 職員 0.3 人	担当課	子育て支援課
					係長 0.05 人	課長名	松成

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	生後4か月までの乳児がいる家庭を訪問し、子育ての孤立化を防ぐために、様々な不安や悩みを聞き、子育て支援に関する必要な情報提供を行うとともに、支援が必要な家庭に対しては適切なサービス提供に結びつけることにより、地域のなかで子どもが健やかに育成できる環境整備を図ります。	<b>成果実績</b>	成果の状況は以下のとおりです		
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	子育ての悩みや不安を感じる人の割合 (就学前児童の保護者)	34.6 %	減少	38.0 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	多くの保護者が子育ての悩みや不安を感じており、この割合の減少は施策の目標を着実に推進していく上でも重要であることから、成果指標として設定しました。最終目標は「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 減少(26年度)			順調		

<b>活動計画</b>	訪問を継続実施し、訪問担当者に対する研修会を行うなど、事業の充実を図ります。訪問等で直接面接して情報を提供します。	<b>活動実績</b>	活動結果は下記のとおりです。			
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	専門職による訪問	5,685 件	適切な訪問	5,855 件	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	全戸家庭訪問により、母体の健康保持および胎児の健やかな発育を促すためには、専門職の訪問が必要なため指標に掲げました。			順調		

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	対象家庭に訪問した結果、81%は実際に面接できており、面接できなかった家庭に対しても、その後の乳児健診において支援を行っています。子育ての孤立化を防ぎ、地域での見守り体制を充実していくために、今後も事業を継続します。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」 「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	地域の主任児童委員や専門職が実施しているため、これ以上のコスト削減は困難です。

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	要支援家庭を把握するためには訪問して面接する必要があります。対象家庭に訪問した結果、81%は実際に面接できています。面接できなかった家庭に対しても、その後の支援を行う必要があります。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	
	事務の見直しなどにより、事業全体の予算は縮小しますが、子育ての孤立化を防ぎ、地域での見守り体制を充実していくために、今後も事業を継続します。また、医療機関との連携を強化し、対象家庭を早期に訪問するための体制について検討します。	育児の孤立化を防ぎ、子育てに関する情報を提供するために、生後4か月までの乳児家庭訪問の割合を増加させます

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	子育てに優しいまちづくりに向けたキャンペーン						施策番号
							I-1-(1)-⑤
<b>コスト</b>	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費の目安	金額	3,650 千円 (備考)	担当局	子ども家庭局
	9,321 千円	7,772 千円		課長	0.1 人 職員 0.2 人	担当課	子ども家庭政策課
				係長	0.1 人	課長名	村地

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたのか 安心して子どもを産み育てることができるように、本市が子育て日本一を実感できるまちづくりを進めていることを、広く市民にPRするとともに、行政のみならず、身近な地域においても、子育て家庭を支える環境づくりに取り組んでもらえるよう、キャンペーン(「すくすく子育てフェスタ」)を実施し、地域社会全体で子育てを支援する環境づくりを進めます。	<b>成果実績</b>	親子で楽しみふれあうことができる「すくすく子育てフェスタ」を実施し、市民に「子育て日本一を実感できるまちづくり」を進めていることをPRするなど、地域社会全体で子育てを支援する環境づくりを進めました。
-----------	---	-------------	---

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
		子育てが地域の人に支えられていると感じる人の割合 地域のつながりが希薄化していると言われていた中、子育ての悩みや不安を軽減するため、地域社会全体で子育てを支える意識の醸成や環境整備を望む声があることから、成果指標として設定しました。 最終目標は「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 増加(26年度)	55.2 %	増加	55.9 %	
					大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

<b>活動計画</b>	平成23年12月23日に、西日本総合展示場新館にて、「すくすく子育てフェスタ」を開催します。	<b>活動実績</b>	平成23年12月23日に「すくすく子育てフェスタ」を開催しました。43団体が参加し、9,100人の来場者に、市の子育て支援施策や地域における支援活動のPR、親子のふれあいの場の提供などを行うことができました。
-------------	--	-------------	--

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
		「すくすく子育てフェスタ」の来場者数 来場者数の増加が、より多くの市民にPRすることにつながるから、活動指標として掲げました。 (最終目標と目標年度) 10,000人(26年度)	8,400 人	8,400 人	9,100 人 108.3 %	
	来場者アンケートで「大変良かった」「良かった」と回答した割合 来場者の満足度を測る指標として掲げました。	99.6 %	増加	96.0 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	大変順調

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析 活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	平成23年12月23日に「すくすく子育てフェスタ」を開催しました。43団体が参加し、9,100人の来場者に、市の子育て支援施策や地域における支援活動のPR、親子のふれあいの場の提供などを行うことができました。市の施策や地域における支援活動のPR、親子のふれあいの場の提供などを行うことは、「子育ての悩みや不安の解消」に向け、高い効果が期待できるとともに、本市が子育て日本一を実感できるまちづくりを進めていることを実感してもらえる良い機会となっています。
	<b>「経済性」</b> <b>「効率性」</b> の分析 「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	イベント実施にあたっては競争入札を行うとともに、地域で子育て支援活動に携わっている企業・団体等の協力を得て、経済的・効率的な運営を行っています。また、本市が子育て日本一を実感できるまちづくりを進めていることをPRするのは、本市自身が行うべきであり、実施主体として市が適切であると考えます。

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題 平成23年度に開催した「すくすく子育てフェスタ」は、来場者数9,100名、参加団体数43団体となり、また、来場者アンケートで「大変良かった」「良かった」と回答した割合が96%になるなど大変順調です。引き続き、地域の子育て支援活動に携わっている団体・企業等に参加を呼びかけ、本市が子育て日本一を実感できるまちづくりを進めていることを、広く市民にPRすることが必要です。	その結果目指す成果(次年度の成果目標) 「すくすく子育てフェスタ」を通じて、地域社会全体で子育てを支援する環境づくりを進め、子育てが地域社会全体で支えられていると感じる人の割合の増加を目指します。
	次年度の活動計画(見直し内容) イベント内容や設営費を見直し、事業費の縮小を図りますが、引き続き「すくすく子育てフェスタ」を開催し、市の子育て支援施策や地域における支援活動のPR、親子のふれあいの場を提供します。	

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	<b>赤ちゃんの駅登録事業</b>						施策番号
							I-1-(1)-⑤
<b>コスト</b>	事業費	平成23年度執行額 2,757 千円	平成24年度当初予算額 2,549 千円	人件費 の目安	金額 4,400 千円 (備考)	担当局	子ども家庭局
					課長 0.1 人 職員 0.3 人	担当課	子ども家庭政策課
					係長 0.1 人	課長名	村地

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたのか 安心して子どもを生き育てることができるように、乳幼児を持つ保護者が外出した際、授乳やおむつ替えができる施設を、「赤ちゃんの駅」として登録し、子育て家庭が安心して外出できる環境づくりを進めます。また、本事業については、公共施設だけではなく、民間事業者の協力も得るなど、地域社会全体で子育て家庭を支える環境づくりを進めます。	<b>成果実績</b>	子育て家庭が安心して外出できるように、登録施設数の増加や利用促進に向けてPR活動に取り組み、地域社会全体で子育て家庭を支える環境づくりを進めました。
-----------	--	-------------	--

	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
<b>代表的な成果指標</b>	子育てが地域の人に支えられていると感じる人の割合	55.2 %	増加	55.9 %	→	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	地域のつながりが希薄化していると言われていた中、子育ての悩みや不安を軽減するため、地域社会全体で子育てを支える意識の醸成や環境整備を望む声があることから、成果指標として設定しました。最終目標は「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 増加(26年度)					

<b>活動計画</b>	「赤ちゃんの駅」登録施設数増や利用促進に向けて、チラシ等を活用したPR活動を行うほか、「すくすく子育てフェスタ」会場でもPR活動を行います。登録施設には、利用者が気軽に立ち寄れるよう、目印となるステッカー等を目立つ場所に掲示します。	<b>活動実績</b>	下記のほか、チラシや啓発グッズを配付し利用促進に向けたPR活動を実施しました。
-------------	--	-------------	---

	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
<b>活動指標</b>	「赤ちゃんの駅」登録施設数	326 施設	300 施設	342 施設 114.0 %	→	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	「赤ちゃんの駅」登録施設数が増加することが、乳幼児を持つ保護者の利便性の向上につながるため、活動指標に掲げました。 (最終目標と目標年度) 300施設(26年度)					

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析</p> <p>活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。</p>	<p>「すくすく子育てフェスタ」会場でのPRチラシと啓発グッズの配布、臨時赤ちゃんの駅を設置しPRを行いました。また、各区親子ふれあいルーム等でのPRチラシと啓発グッズの配布など幅広く、「赤ちゃんの駅」登録施設数増や利用促進に向けたPRを効果的に実施できました。地域社会全体で子育て家庭を支える環境づくりを進めました。</p>
	<p>「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。</p>	<p>「赤ちゃんの駅」登録施設の拡充にあたっては、公共・民間施設を問わず、既存の施設を有効活用することとしており、経済的・効率的な登録施設の拡充に努めています。子育てしやすい環境づくりは市が主体で行うもので、市が積極的に関与する必要があります。また、「赤ちゃんの駅」登録施設の拡充のため、民間事業者の無償協力を得るには、実施主体としては市が適切です。</p>

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	<p>課題</p> <p>平成23年度末の登録施設数が342施設になるなど、子育て家庭が安心して外出できる環境づくりは大変順調に進んでいます。引き続き、登録施設数増や利用促進の取り組みが必要です。</p> <p>次年度の活動計画(見直し内容)</p> <p>その結果目指す成果(次年度の成果目標)</p> <p>「すくすく子育てフェスタ」を活用した「赤ちゃんの駅」の効率的なPR方法を検討することで、事業費を縮小しますが、平成25年度においても、登録施設数の増加に向けた協力依頼を行うとともに、「赤ちゃんの駅」の認知度向上や利用促進に向けたPR活動を行い、子育て家庭が安心して外出できる環境づくりを進めます。</p> <p>「赤ちゃんの駅」の登録施設数の増加や利用促進に向けたPR活動に取り組み、地域社会全体で子育てを支える環境づくりを進め、子育てが地域社会全体で支えられていると感じる人の割合の増加を目指します。</p>
---------------	---

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	<b>親子ふれあいルーム整備事業</b>						施策番号	I-1-(1)-⑤
							I-1-(1)-⑤	
<b>コスト</b>	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	7,275 千円 (備考)	担当局	子ども家庭局	
	31,456 千円	33,698 千円		課長	0.1 人 職員 0.35 人		担当課	子育て支援課
				係長	0.35 人			課長名

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたのか	乳幼児を持つ保護者の子育てへの不安を軽減するため、親子が気軽に集い、交流、情報交換、育児相談等ができるスペースを既存の公共施設を活用しながら、区役所や児童館などに整備し運営します。				<b>成果実績</b>	成果の状況は以下のとおりです	
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】		
	子育てが地域の人に支えられていると感じる人の割合 地域のつながりが希薄化していると言われていた中、子育ての悩みや不安を軽減するため、地域社会全体で子育てを支える意識の醸成や環境整備を望む声があることから、成果指標として設定しました。最終目標は「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 増加(26年度)	55.2 %	増加	55.9 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック  <b>順調</b>		
	子育ての悩みや不安を感じる人の割合(就学前児童の保護者) 多くの保護者が子育ての悩みや不安を感じており、この割合の減少は施策の目標を着実に推進していく上でも重要であることから、成果指標として設定しました。最終目標は「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 減少(26年度)	34.6 %	減少	38.0 %				

<b>活動計画</b>	区役所等7か所・児童館10か所での親子ふれあいルームの運営を実施します。 親子ふれあいルームの利用促進を図るため、情報発信(PRチラシ作成、配布等)を実施します。	<b>活動実績</b>	区役所等7か所の親子ふれあいルームについては、委託により運営を実施。(28,441千円) また、PRチラシ(3万枚)を作成、配布し、利用促進を行った。
-------------	--	-------------	--

<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】	
	親子ふれあいルーム利用者数(保護者)	16,007 人	単年度の目標設定はありません	25,347 人	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック  <b>順調</b>	
	親子ふれあいルームを利用することで、子育ての不安や悩みを軽減できると考えられるため、利用者数を活動指標とします。						

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	成果の状況は、年度により若干の上下変動が見られるものの、目標達成に向け推移していることから順調とし、活動の状況については、目標設定はないものの、利用者数が増加していることから、順調としました。 また、親子ふれあいルームの整備については、これまでに区役所等に7か所、児童館に10か所に整備し、「元気発進！子どもプラン」の計画を達成しています。
	<b>「経済性」</b> <b>「効率性」</b> の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	親子ふれあいルームの整備は、既存の公共施設を活用しています。運営については、公募により選考を行い、子育て支援活動の実績のある団体や社会福祉法人へ委託し、民間活用を行っています。今後は親子ふれあいルームの質の向上や利用促進を図るため、運営スタッフへの研修や事業内容についての検討を進めます。

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題 平成23年度は計画どおりに活動し、成果指標も目標達成に向け推移しています。平成24年度も順調に活動し、利用者も増加傾向にあります。しかしながら、本年度で7区の委託契約が終了し、来年度、委託事業者が切り替わることもあることから、今後も継続して親子ふれあいルームの安定した運営や質の向上、利用促進を図る必要があります。そのため、来年度以降の事業内容を検討する必要があります。	その結果目指す成果(次年度の成果目標) 平成26年度の最終目標の達成に向け、子育てが地域の人に支えられていると感じる人の割合が増加し、子育ての悩みや不安を感じる人の割合が減少するよう、親子ふれあいルームの安定した運営や質の向上、利用促進を図ります。
	次年度の活動計画(見直し内容) 来年度の新規契約(3年間)を機会に、現在の事業内容に新たな取り組み(地域の子育て支援団体等との連携など)を加え、事業内容の充実を図ります。なお、事業費については、現状を維持します。	

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	一時預かりサービス情報の提供						施策番号	
							I-1-(1)-⑤	
<b>コスト</b>	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費の目安	金額	2,900 千円 (備考)	担当局	
		0 千円	0 千円		課長	0.1 人	職員	0.1 人
					係長	0.1 人		
							担当課	
							課長名	
							村地	

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	安心して子どもを生き育てることができるように、民間事業者が提供する子どもの一時預かりサービスに関する情報を、幅広く収集し、ホームページ「子育てマップ北九州」に専用のページを設け、情報提供を行い、地域社会全体で子育て家庭を支える環境づくりを進めます。	<b>成果実績</b>	子育て中の人々が求めるときに知りたい情報を手軽に入手できるよう、ホームページで一時預かりサービスに関する情報を提供することにより、地域社会全体で子育て家庭を支える環境づくりを進めました。
-----------	---------------------	--	-------------	---

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
		子育てが地域の人に支えられていると感じる人の割合 地域のつながりが希薄化していると言われていた中、子育ての悩みや不安を軽減するため、地域社会全体で子育てを支える意識の醸成や環境整備を望む声があることから、成果指標として設定しました。 最終目標は「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 増加(26年度)	55.2 %	増加	55.9 %	
					大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

<b>活動計画</b>	民間事業者が提供する一時預かりサービスに関する情報の収集及びホームページ「子育てマップ北九州」に専用のページを設け、情報提供を行います。	<b>活動実績</b>	計画どおり情報の収集及びホームページでの情報提供を行いました。
-------------	--	-------------	---------------------------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
		「子育てマップ北九州」内専用ページのアクセス件数 より多くの市民に、必要とされる子育てに関する情報が届いているかを図る活動指標として設定します。	572 件	増加	2,153 件	
					大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析  <b>「経済性」</b> <b>「効率性」</b> の分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。  民間事業者が提供する一時預かりサービスに関する情報を収集し、平成24年3月にホームページ「子育てマップ北九州」で情報提供を行いました。「子育ての悩みや不安の解消」に向けて、必要とされる情報を保護者にタイムリーに提供することにより地域社会全体で子育て家庭を支える環境づくりを進めました。  ホームページ「子育てマップ北九州」管理運営は、「子どもの館・子育てふれあい交流プラザ」運営に関する指定管理業務の一部として実施しており、経済的・効率的な情報提供に努めています。市が実施主体となっており、情報のとりまとめを行い、ホームページ「子育てマップ北九州」において情報提供を行う必要があると考えます。
------------------	--	---

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題  民間事業者が提供する一時預かりサービスに関する情報を収集し、平成24年3月にホームページ「子育てマップ北九州」で情報提供を行いました。「子育ての悩みや不安の解消」に向けて、引き続き必要とされる情報を保護者にタイムリーに提供することや情報内容の充実が必要と考えます。  次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)  民間事業者が提供する子どもの一時預かりサービスに関する情報提供を行うことで、地域社会全体で子育て家庭を支える環境づくりを進め、子育てが地域社会全体で支えられていると感じる人の割合の増加を目指します。
---------------	---	--



## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	問題を抱える少年の立ち直り支援の充実							施策番号
								I-1-(4)-①
<b>コスト</b>	事業費	平成23年度執行額 2,369 千円	平成24年度当初予算額 3,239 千円	人件費 の目安	金額 1,000 千円 (備考)	担当局	子ども家庭局	
					課長 0 人 職員 0 人	担当課	青少年課	
					係長 0.1 人	課長名	塚崎	

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価			
<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	非行やひきこもり等の課題を抱える青少年の立ち直りや自立を支援するため、ボランティア活動をはじめとした様々な社会体験の場を提供します。特に、青少年施設等における野外体験プログラムの提供や課題を抱える青少年が体験活動を行うための新たな受け入れ先の開拓、関係機関等とのネットワーク構築に取り組みます。				<b>成果実績</b>	成果は、下記のとおりです。
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】	
	社会生活を円滑に営む上での困難を抱えている若者の割合	1.89 %	減少	8.33 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック  順調	
	ニートやひきこもり、不安定な雇用形態等将来を見通せない不安の中、社会生活を円滑に営む上で様々な困難を抱えている若者の増加が社会問題となっています。このような現状の改善のため、若者の自立支援に取り組み、その成果をはかる指標として掲げました。(平成23年度から調査実施予定) 最終目標は、「元氣発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 減少(26年度)						
(最終目標と目標年度)							

<b>活動計画</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ボランティアプログラム提供等の充実</li> <li>■ 親子ふれあい合宿の実施</li> <li>■ 関係機関との連携強化</li> </ul>	<b>活動実績</b>	活動結果は下記のとおりです。				
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】	
	立ち直りや自立支援に向けたボランティア活動者数	41 人	—	171 人	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック  順調	
	家庭裁判所や子ども・若者応援センターYELL等との連携により、青少年施設等でのボランティア活動に取り組んだ青少年の延べ人数を指標とし、事業の実施状況を把握します。						
親子ふれあい合宿参加者数	4 組	—	13 組				
	保護観察所等との連携により、親子ふれあい合宿に参加した親子の数(延べ)を指標とし、事業の実施状況を把握します。						

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析</p> <p>活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。</p>	<p>家庭裁判所等からの相談や依頼は少なくなっていますが、子ども・若者応援センター等からの依頼や相談が増えて、ボランティア活動者数は倍増しています。そして、竹林保全や海岸清掃、高齢者施設や親子ふれあいルーム等の受け入れ先からの温かい理解と協力を得て、課題を抱える青少年の立ち直り・自立支援に資することができています。また、親子ふれあい合宿についても、青少年施設等を利用して実施し、親子がふれあう機会等を提供することにより、親子の絆を深めることができました。</p>
	<p>「同じ成果をより低いコストで」 「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。</p>	<p>本事業は、非行やひきこもり等の課題を抱える青少年の増加が社会問題となっており、適時性のある事業です。これを青少年施設やボランティア団体等との連携により、効率的に事業を実施することができています。</p>

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	<p>課題</p> <p>青少年の立ち直りや自立支援に向けた社会参加ボランティアを実施するためには、受け入れ施設や団体の理解と協力が必要不可欠です。現時点では、介護施設や親子ふれあいルーム、ボランティア団体や青少年関連施設等の理解と協力を得ながら実施することができています。しかし、真の立ち直りや自立のためには、単発だけではなく継続的なボランティア活動を実施することで、本人の社会性や自尊感情、自己有用感等を高めることができると考えています。受け入れ施設の職場の状況等により、その実現が困難な状況があることも課題として挙げられます。</p>	<p>その結果目指す成果(次年度の成果目標)</p>
	<p>次年度の活動計画(見直し内容)</p> <p>今後も、受け入れ施設や団体との連絡を密にしながら、信頼関係を強化していきます。また、平成24年度に、「北九州市『青少年の非行を生まない地域づくり』推進本部」を設置しました。3部会の機能や関係機関等との連携を強化しながら、青少年の立ち直りや自立支援に向けて、取組を推進していきます。「現状維持」</p>	<p>青少年の立ち直りや自立支援に向けた、社会参加ボランティアの機会と場を提供するとともに、継続的なフォローを実施できるように、受け入れ施設・団体や関係機関との連携強化を図っていきます。</p>

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	少年支援室の拡充・運営						実施番号
							I-1-(4)-①
<b>コスト</b>	事業費	平成23年度執行額 9,882 千円	平成24年度当初予算額 10,778 千円	人件費の目安	金額 10,750 千円 (備考)	担当局	子ども家庭局
					課長 0.5 人 職員 0 人	担当課	子ども総合センター
					係長 0.5 人	課長名	本村

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたのか	現在の5少年支援室を、対象とする少年の状態に応じた支援活動ができるよう充実を図り、その機能を強化します。	<b>成果実績</b>	成果の状況は下記の通りです。
-----------	--------------------	--	-------------	----------------

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
		不登校、非行等の問題を抱える少年の自立支援の強化  不登校や非行等に対応するための支援体制の充実等、問題を抱える少年の自立支援を強化します。 (最終目標と目標年度)		自立支援の強化		
	(最終目標と目標年度)				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

<b>活動計画</b>	不登校や非行等の少年を通所させ、カウンセリングや集団活動、自学自習の援助を行いながら、少年の学校や社会復帰に向けた取り組みを支援します。また、少年の健全育成を図るために街頭補導や3少年支援室で各20回、青少年を有害環境から守るため環境浄化活動として、市内全部のコンビにやカラオケボックス、インターネットカフェ等への立ち入り検査を実施します。	<b>活動実績</b>	下記の活動のほかに、学校訪問を積極的に行い、学校との連携を深めながら子どもの支援に努めました。また、広報紙の紙面に工夫を加え、啓発活動を進めました。
-------------	--	-------------	--

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
		面接・電話相談対応件数  不登校や非行相談等への対応や相談内容に応じた適切な支援を行うことが本事業の内容であることから、活動指標として「面接・電話相談対応件数」を設定しました。	41,307 件	単年度の目標設定はありません	47,388 件	
					大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	不登校、非行等の少年の生活習慣の確立、自学自習の援助やその家庭への援助を行いました。3少年支援室(かなだ・わかぞの・くろさき)では、年間34,335件の相談に対応しました。また、2少年支援室(あいおい・あだち)では、心因性の不登校児童生徒の学校復帰へ向けて8,622件の相談に対応しました。また、少年補導指導員や少年相談員によるゲームセンター等の定期的巡回補導、青少年を有害環境から守るための環境浄化活動、少年非行防止の啓発活動を行いました。さらに、コンビにやカラオケボックス等への616件の立ち入り調査を実施しました。非行等の少年や不登校児童生徒・発達障害児の増加に伴い、学校だけでは対応できない児童生徒が通所しています。また、養育・養護、育成相談にも積極的に対応するなど、事業目的は十分に果たしており、有効性は高いといえます。
	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	最小の経費で最大の効果を上げるべく、計画的かつ効率的な予算執行に努めています。	

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題  少年支援室では、不登校や非行等の少年に対する生活習慣の確立や自学自習の援助、進路指導等、学校の受け皿としての支援を行っており、少年支援室の重要性は今後も変わらないため、これからも、効率的・効果的な室の運営を図るとともに、学校等の関係機関との連携を深め、利用しやすい少年支援室を目指していきます。また、少年の健全育成を目指した環境浄化活動等も継続して取り組みます。	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	次年度の活動計画(見直し内容)	
	非行等の少年や不登校児童生徒・発達障害児など学校だけでは対応できない児童生徒が通所する施設として、支援活動の充実を図りつつ、光熱水費等維持管理費の節減に努め、5室運営は前年並みの事業費で活動します。	5少年支援室において、引き続き対象とする少年の状態に応じた支援活動に努めます。

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	「思春期保健連絡会」の設置						施策番号
							I-1-(4)-①
<b>コスト</b>	事業費	平成23年度執行額 786 千円	平成24年度当初予算額 3,300 千円	人件費の目安	金額 3,500 千円 (備考)	担当局	子ども家庭局
					課長 0 人 職員 0.2 人	担当課	子育て支援課
					係長 0.2 人	課長名	松成

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたのか	思春期の心身の変化を正しく理解し、自分自身の心と体を大切に健康教育を推進するため、医療・学校・地域・行政等の関係者による連絡会を開催し、現状の把握や課題の共有および連携強化を図るとともに、思春期保健の対策等について協議します。協議の結果等を踏まえ、思春期の健康教育を効果的に実施します。	<b>成果実績</b>	代表的な成果指標の他に、性教育関連イラスト集(CD版および冊子)が完成し、健康教育に利用できるようになりました。
-----------	--------------------	---	-------------	--

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
		青少年を取り巻く有害環境浄化への取り組みの推進 青少年を取り巻く有害環境に対応するため、有害環境の浄化とともに、青少年自身や保護者の規範意識の向上 (最終目標と目標年度)		取り組みの推進		
	(最終目標と目標年度)				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

<b>活動計画</b>	思春期の子どもへの課題を共有し、健康教育を推進するために、医療・保健・教育等の思春期保健関係者による連絡会を開催します。また、モデル教室を実施し、その結果を検証するとともに、平成22年度に作成した「保健指導イラスト教材集」の改訂を行います。	<b>活動実績</b>	活動結果は下記のとおりです。
-------------	--	-------------	----------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
		連絡会の開催 思春期保健連絡会を開催し、関係者の連携を強化します。思春期保健の課題を共有し、効果的に健康教育を推進するのに重要です	6 回	適切な開催	6 回	
	健康教室の開催 小・中学校における健康教室の実施による知識の普及啓発、課題の共有	0 回	適切な実施	22 回	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析  <b>「経済性」</b> <b>「効率性」</b> の分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。  思春期の子どもへの課題を共有し、健康教育を推進するために、医療・保健・教育等の思春期保健関係者による連絡会を開催しました。また、モデル教室を実施し、その結果を検証するとともに、平成22年度に作成した「保健指導イラスト教材集」の改訂を行いました。  様々な関係団体との連携強化を図ることで、より効果が高くなります。
------------------	--	---

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題  10代の妊娠中絶率や薬物乱用、メディアリテラシー、飲酒・喫煙、深夜徘徊など思春期を取り巻く課題は様々です。継続的は思春期の健康教育が必要です。  次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)  10代の意図しない妊娠など思春期の子どもへの心身の問題に対応するため、10代の人工妊娠中絶率の低下を目指します
	事務の見直しなどにより、予算は縮小しますが、モデル教室の検証結果を踏まえ、小中学校における思春期健康教室の実施を拡大・充実していくことで、効果的な思春期の心とからだの健康教育を推進します。併せて、保護者に対する啓発や支援体制の検討を行います。	

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	子ども・保護者のメディアリテラシー向上やネット監視対策に向けた取り組み						施策番号
							I-1-(4)-①
<b>コスト</b>	事業費	平成23年度執行額 1,792 千円	平成24年度当初予算額 1,252 千円	人件費 の目安	金額 1,450 千円 (備考)	担当局	子ども家庭局
					課長 0.05 人 職員 0.05 人	担当課	青少年課
					係長 0.05 人	課長名	塚崎

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたのか	出会い系サイト等をはじめとするインターネット・携帯電話でのトラブルに子どもたちが巻き込まれる事件が多発し、青少年を取り巻く新たな有害環境として問題になっていることから、広報・啓発を中心とした有害サイト等メディア上の有害情報対策を推進します。	<b>成果実績</b>	出前講演受講者から、「保護者として身近なテーマであり、有意義であった」との意見も寄せられています。
-----------	--------------------	--	-------------	---

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	青少年を取り巻く有害環境浄化への取り組みの推進	青少年を取り巻く有害環境に対応するため、有害環境の浄化とともに、青少年自身や保護者の規範意識の向上のための施策を進めます。 (最終目標と目標年度)		・有害環境の浄化 ・規範意識の向上		
(最終目標と目標年度)					大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

<b>活動計画</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「出会い系サイト等」被害防止教室</li> <li>・リーフレット等による啓発活動</li> <li>・青少年を取り巻く有害環境に関する懇談会の実施 (いずれも市が直接実施)</li> </ul>	<b>活動実績</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リーフレットの配布対象の拡大、リーフレット一部改訂</li> <li>・携帯電話をテーマに、青少年を取り巻く有害環境に関する対策会議(懇談会)の開催</li> </ul>
-------------	--	-------------	---

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	出会い系サイト等被害防止教室の参加者数	市立中学校の生徒を対象にした非行防止教室や、保護者や地域の方々を対象とした出前講演などで、有害サイト等の危険性や対策について講演を実施します。(23年度から、希望によって非行防止教室でも講演を行うこととしました)	723 人	-	4,954 人	
(最終目標と目標年度)					大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<p><b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析</p> <p>活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「出会い系サイト等」を使用して犯罪に巻き込まれる子どもたちの数は、増加傾向(福岡県内)にあります。</li> <li>・青少年を取り巻く有害環境に関する対策会議(懇談会)では、携帯電話の有害情報に関する様々な情報や各関係団体の取組について情報を共有することができました。</li> </ul>
	<p><b>「経済性」</b> <b>「効率性」</b> の分析</p> <p>「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「出会い系サイト等」被害防止教室には、子ども家庭局からも担当課長等を講師として派遣しています。</li> <li>・啓発物を統合することなどにより、経費の削減に努めました。</li> </ul>

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	<p>課題</p> <p>近年、福岡県内において、出会い系サイトやSNSサイトなどのコミュニティサイトに関係した少年の犯罪被害が増加しており、平成23年中の被害児童全員が携帯電話からアクセスしています。</p> <p>次年度の活動計画(見直し内容)</p> <p>インターネットに接続できる携帯電話やスマートフォン等の新たな機器が急速に普及し、青少年がネット上の有害な情報に触れることにより、事件やトラブルに巻き込まれる危険性が増加しています。そのため、被害防止教室や各種啓発活動の内容の充実にも努め、より一層、対策を推進していきたいと考えています。「増額」</p>	<p>その結果目指す成果(次年度の成果目標)</p> <p>犯罪等に巻き込まれる子どもたちの数が減少するように、取組を進めてまいります。</p>
---------------	---	--

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	<b>深夜補導の実施</b>						施策番号
							I-1-(4)-①
<b>コスト</b>	事業費	平成23年度執行額 14,427 千円	平成24年度当初予算額 17,500 千円	人件費の目安	金額 1,450 千円 (備考)	担当局	子ども家庭局
					課長 0.05 人 職員 0.05 人	担当課	青少年課
					係長 0.05 人	課長名	塚崎

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたいのか ・青少年がたむろしそうな深夜営業中の店舗、駅周辺、公園などを巡回し、深夜はいかいをしている青少年への声掛けを行い帰宅を促すことにより、事件に巻き込まれたり生活習慣が乱れたりすることを防止し、青少年の健全な生活を確保します。	<b>成果実績</b>	不良行為少年補導者数が、前年の22,311人から今年21,565人へ減少する成果を上げることができました。
-----------	--	-------------	---

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	シンナー等乱用少年の検挙補導者数	福岡県のシンナー等乱用少年の検挙補導者数は、平成23年で42人と依然として他の都道府県と比べて多く、そのうち9人(21%)を本市の少年が占めています。このような現状を改善するためにも、青少年を取り巻く有害環境の浄化や規範意識向上等、啓発活動の推進に取り組みます。これらの成果を図る指標として掲げました。最終目標は、「元気進進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 撲滅(26年度)	16 人	撲滅	9 人	
刑法犯少年の検挙補導者数	本市の刑法犯少年の約7割が初発型非行であり、規範意識が希薄化しています。このような現状を改善するためにも、街頭補導や見守り活動を強化し、社会全体で青少年を見守る体制を整備する必要があります。これらの成果を図る指標として掲げました。最終目標は、「元気進進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 減少(26年度)	1,458 人	減少	1,046 人	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

<b>活動計画</b>	・22時から翌日4時まで、市内全域において、1班3名体制の3班で巡回します。 ・民間警備会社に委託することにより実施します。	<b>活動実績</b>	活動結果は下記のとおりです。
-------------	---	-------------	----------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	声かけ人数	深夜はいかい者に声をかけた人数を指標として掲げました。	3,956 人	深夜はいかい者への声かけを行うことにより帰宅を促します。	2,088 人	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。  シンナー等乱用少年の検挙補導者数は年々減少しており、平成23年度中の本市における人員は過去10年間で最少となりました。また、刑法犯少年の検挙補導者数についても、年々減少しています。
<b>「経済性」「効率性」の分析</b>	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	入札を行い、最も安価な業者と契約しています。今後も、パトロール体制、パトロール箇所などの見直しを行うことなどにより、効率的な事業運営に努めたいと考えています。

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題 従前は、国から支給された補助金で当該事業を実施してきましたが、当該補助は平成24年度で終了する予定であり、新たに財源の確保を行う必要があります。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	従来は、夏季期間と冬季期間にパトロールを実施してきましたが、より効果的なパトロールとなるよう、期間や手法の見直しを行い、予算は縮小します。「減額」	平成23年に、警察が「深夜はいかい」で補導した少年は前年比で減少していますが、まだまだ高い水準で推移しているため、減少傾向に転じるように取組を進めてまいります。

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	<b>非行少年の立ち直り支援と体制強化</b>						施策番号
							I-1-(4)-①
<b>コスト</b>	事業費	平成23年度執行額 798 千円	平成24年度当初予算額 1,006 千円	人件費の目安	金額 15,200 千円 (備考)	担当局	子ども家庭局
					課長 0.8 人 職員 0 人	担当課	子ども総合センター
					係長 0.6 人	課長名	田中

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたのか	非行少年の立ち直り支援と自立を促進するため、子ども総合センターの体制を充実し、学校、警察、地域等と連携して、非行少年及びその家庭への支援を積極的に行います。	<b>成果実績</b>	成果の状況は、下記のとおりです。
-----------	--------------------	--	-------------	------------------

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
		<b>非行少年等に対する支援の推進</b> 地区担当ケースワーカーと連携して初期対応の段階から積極的に関わり、困難なケースについては非行相談担当ラインへケース移管し、学校、警察、裁判所、児童自立支援施設等と連携して、非行少年の立ち直りのための支援を推進します。 (最終目標と目標年度)		推進		
	(最終目標と目標年度)				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

<b>活動計画</b>	非行少年の立ち直りに向け、実務的かつ緊密な行動連携や情報連携を行うため、関係機関と非行相談連絡会議を定例開催するとともに、教育・福祉的な指導の視点に立った即時的な対応、連携した取組みを図ります。		<b>活動実績</b>	活動結果は、下記のとおりです。
-------------	---	--	-------------	-----------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
		<b>非行相談対応件数</b> 虐待行為や触法行為のあった児童及び保護者からの相談への対応や相談内容に応じた適切な支援を行うことが、本事業の内容であることから、活動指標として「非行相談対応件数」を掲げました。	145 件	単年度の目標設定はありません	159 件	
					大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	非行少年の立ち直りに向け、実務的かつ緊密な行動連携や情報連携を行うため、関係機関と非行相談連絡会議を定例開催するとともに、教育・福祉的な指導の視点に立った即時的な対応、連携した取組みを図ることができました。22年度に非行相談担当ラインが新設され、地区担当ケースワーカーと連携して、初期対応の段階から積極的に関わり、困難ケースについては、非行相談担当ラインへケース移管し、学校、警察、裁判所、児童自立支援施設等と連携し、これまでより緊密できめ細やかな対応が可能になり、有効性は高いと考えます。
	<b>「経済性」</b> <b>「効率性」</b> の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	最小の経費で最大の効果を上げるべく、計画的かつ効率的な予算執行に努めて、事業展開しています。

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題 施策実現のため、今後も本事業を様々な関係機関と連携して、より効果的、効率的に推進し、相談者に適切な支援等が行えるよう着実な取組みを進めていく必要があります。
	次年度の活動計画(見直し内容)
	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	適切な相談対応に向け、関係機関との連携、体制の整備等にこれまでと同様に継続的に努めますが、効率的、効果的な事業の実施により、事務的な経費の節減を図ります。
	地区担当ケースワーカーと連携して初期対応の段階から積極的に関わり、学校、警察、裁判所、児童自立支援施設等と連携して、引き続き非行少年の立ち直り支援に取り組めます。

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	若者のための応援環境づくりの推進						施策番号			
							I-1-(4)-①			
<b>コスト</b>	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	3,500 千円	(備考)	担当局	子ども家庭局		
	1,094 千円	1,725 千円		課長	0 人		職員	0.2 人	担当課	青少年課
				係長	0.2 人				課長名	塚崎

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたのか 不安定な雇用やニート(若年無業者)、不登校やひきこもり等、雇用情勢の悪化や経済的格差の拡大、家族や周囲との円滑なコミュニケーションの欠如などにより、将来を見通せない不安の中で、社会生活を円滑に営む上での困難を抱えている子どもや若者が増加しています。 そこで、若者の自立を支援するため、若者向けのホームページや「北九州市子ども・若者支援地域協議会」の運営、また、ユースアドバイザー養成講習会を開催する等、応援環境づくりを推進します。	<b>成果実績</b>	・若者向けホームページのアクセス件数 12,874件 ・北九州市子ども・若者支援地域協議会 代表者会議1回 実務者会議11回開催 ・ユースアドバイザー養成講習会参加28名
-----------	--	-------------	---

	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】	
<b>代表的な成果指標</b>	社会生活を円滑に営む上での困難を抱えている若者の割合	1.89 %	減少	8.33 %	→	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	ニートやひきこもり、不安定な雇用形態等将来を見通せない不安の中、社会生活を円滑に営む上で様々な困難を抱えている若者の増加が社会問題となっています。このような現状の改善のため、若者の自立支援に取り組み、その成果をはかる指標として掲げました。最終目標は、「元氣発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 減少(26年度)					大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調
	(最終目標と目標年度)						

<b>活動計画</b>	○若者向けホームページの運営 ○北九州市子ども・若者支援地域協議会の運営 ○ユースアドバイザー養成講習会の開催	<b>活動実績</b>	子ども・若者支援のためのネットワークづくりとして重要となる「北九州市子ども・若者支援地域協議会」を計画どおり、代表者会議1回、実務者会議11回開催しました。
-------------	---	-------------	--

	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】		
<b>活動指標</b>	若者向けホームページへのアクセス件数	16,048 件	15,600 件	12,874 件	→	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
	インターネット等により、若者に有益な情報(就業支援等の各種施策、各種相談窓口、市の魅力、仲間づくり等)やそれぞれの専門機関の情報等を効果的かつタイムリーに発信し、若者をサポートする環境づくりを実施し、若者の自立支援に取り組んでいます。その成果を図る指標として、掲げました。					82.5 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調
	ユースアドバイザー養成講習会の参加者数					20 名	25 名	28 名

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。  若者向けホームページには、平成23年度は12,874件のアクセスがありました。今後も内容の充実に努めるとともに、双方向の情報発信サイトを目指します。また、「北九州市子ども・若者支援地域協議会」の運営(代表者会議:1回開催、実務者会議:11回開催)や「ユースアドバイザー養成講習会」の開催(28名参加)を通じて、子ども・若者支援のための着実なネットワークづくりを行っています。  「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。  ホームページソフトウェアをネットワーク経由のサービス利用型(SaaS型)とし、開発コスト及び運営コストを低減しています。また、地域協議会とユースアドバイザー養成講習会については、内閣府のモデル事業を活用し、市費負担の軽減を図っています。
------------------	---	---

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題  一つの機関で支援も含めて全て対応することは困難です。そのため、関係機関等が行う支援の継続性を維持し、効果的かつ円滑な支援が行われるよう、関係機関・団体等によるネットワークの充実が必要です。  次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)  「北九州市子ども・若者支援地域協議会」の運営や「ユースアドバイザー養成講習会」の開催を通じて、ネットワークに参画する関係機関の拡大・充実を図りますが、会の運営方法などの効率化を図り、予算は縮小します。「減額」
---------------	---	---

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	「(仮称)青少年応援センター」の設置						施策番号
							I-1-(4)-①
<b>コスト</b>	事業費	平成23年度執行額 21,022 千円	平成24年度当初予算額 23,200 千円	人件費 の目安	金額 4,375 千円 (備考)	担当局	子ども家庭局
					課長 0 人 職員 0.25 人	担当課	青少年課
					係長 0.25 人	課長名	塚崎

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたのか	不安定な雇用やニート(若年無業者)、不登校やひきこもり等、雇用情勢の悪化や経済的格差の拡大、家族や周囲との円滑なコミュニケーションの欠如などにより、将来を見通せない不安の中で、社会生活を円滑に営む上での困難を抱えている子どもや若者が増加しています。 そのため、困難を抱える子どもや若者を総合的にサポート(コーディネート)していく総合相談窓口『子ども・若者応援センター「YELL」』を開設し、自立を支援しています。	<b>成果実績</b>	H22.10の開設から、H24.3までの18ヶ月間で、延べ3,172件の相談があり、来所相談実人員は318人となった。その内、継続的に支援が必要な者が170人になり、支援を行った結果、就労が63人、就学が7人となった。
-----------	--------------------	---	-------------	---

	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
<b>代表的な成果指標</b>	<b>社会生活を円滑に営む上での困難を抱えている若者の割合</b> ニートやひきこもり、不安定な雇用形態等将来を見通せない不安の中、社会生活を円滑に営む上で様々な困難を抱えている若者の増加が社会問題となっています。このような現状の改善のため、若者の自立支援に取り組み、その成果をはかる指標として掲げました。最終目標は、「元氣発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 減少(26年度)	1.89 %	減少	8.33 %		代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	(最終目標と目標年度)				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

<b>活動計画</b>	○子ども・若者応援センターの運営 ・困難を抱える子どもや若者の育成支援に関する総合相談・助言 ・保護者のための面接相談 ・相談内容に応じた情報提供 ・専門機関との連携 等	<b>活動実績</b>	活動結果は下記のとおりです。
-------------	---	-------------	----------------

	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
<b>活動指標</b>	<b>来所・電話相談件数</b> 悩みや課題を抱える子どもや若者、その家族等を適切にサポートする活動指標として設定しました。	791 件 (10~3月)	-	2,381 件		活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
					大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。  「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。
		開設以来多くの方々にご利用いただき、悩みや課題を抱える子どもや若者とその家族等を対象に、総合的にサポートする拠点として支持されています。平成23年度は、延べ相談件数が2,381件(来所1,120件、電話1,261件)、その内来所相談実人数は160件となっています。  運営業務を社会福祉法人へ委託し、経済的・効率的な運営を行っています。

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題 一人一人の課題や段階に応じた講座や体験プログラム等が十分に提示できていないこと、また、相談につながっていない若者がいることなどの課題があります。  次年度の活動計画(見直し内容)
	その結果目指す成果(次年度の成果目標)  一人でも多くの若者が円滑な社会生活を送れるようになるためには、今後、更なるネットワークの充実・強化と併せて、相談者の状況に応じた自立支援プログラムの検討と実施を行っていくとともに、各相談機関の周知を行います。「現状維持」

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	青少年ボランティアステーション推進事業						施策番号
							I-1-(4)-③
<b>コスト</b>	事業費	平成23年度執行額 2,348 千円	平成24年度当初予算額 2,631 千円	人件費 の目安	金額 5,000 千円 (備考)	担当局	子ども家庭局
					課長 0 人 職員 0 人	担当課	青少年課
					係長 0.5 人	課長名	塚崎

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたいのか 青少年の成長に欠かすことができない様々な体験活動等を通じ、青少年が社会の構成員として規範意識や社会性、協調性等を身に付けることができるよう、青少年ボランティアステーションを拠点に、青少年のボランティア体験活動を支援・促進します。また、ひきこもりや非行等の課題を抱える青少年の社会的自立を支援するため、社会参加ボランティアプログラムを実施します。	<b>成果実績</b>	成果は、下記のとおりです。
-----------	---	-------------	---------------

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
		ボランティア体験活動者数(延べ人数) 青少年ボランティアステーションにおけるコーディネートにより、ボランティア活動に取り組んだ小学生・中学生・高校生等の延べ人数が、本事業の活性化を図る指標となると考え掲げました。最終目標は、「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 3,200人(26年度)	5,518 人	2,600 人	5,339 人 205.3 %	

<b>活動計画</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 年間を通じて、ボランティア体験活動情報の提供と活動調整、活動時の支援等を行います。</li> <li>■ 7～8月は、小・中・高校生等を対象に「夏休みの青少年ボランティア体験」を実施します。</li> <li>■ 青少年ボランティアクラブ「かけはし」及び「中学生クラブ」の定例活動を実施します。</li> </ul>	<b>活動実績</b>	早い段階から社会貢献に対する意識を醸成することを目指し、広報・普及活動の一環として「出前授業」を実施しました。23年度は2小学校と2中学校で計417名の児童生徒を対象に実施しました。
-------------	---	-------------	---

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
		「出前授業」における児童生徒の参加者数  早い段階から社会貢献に対する意識を醸成することを目指し、活動指標として掲げました。		—	417 名	

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析  <b>「経済性」</b> <b>「効率性」</b> の分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。  「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。  平成23年度の「夏休みの青少年ボランティア体験」では、申込者数1300人(昨年度+242人)、決定者数978人(昨年度+154人)となり、多くの参加を得ることができました。また、事業全体を通してボランティア活動を行った青少年の数は着実に増加しており、青少年にとって有効な社会体験活動の機会や場の提供ができています。現代の青少年に不足しがちな様々な体験活動を、ボランティア活動への参加を通して経験させる本事業は、豊かな社会性や規範意識を育む等「人づくり」のためにも大変有効です。  平成22年度から、夜宮青少年センター内にあった青少年ボランティアステーションの組織を子ども家庭局青少年課に移管しました。そして、青少年課所管の様々な事業を連携して実施することにより、ボランティアリーダーの養成等、効率的な事業実施を図ることができました。また、子ども若者応援センターYELL等からの自立支援や家庭裁判所等からの立ち直り支援に向けた社会参加ボランティア活動も、関係機関との協力と連携を図りながら実施することができています。
------------------	--	---

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題 「夏休みの青少年ボランティア体験」では、受け入れ施設や団体の協力もあり魅力的なプログラムを実施することができています。しかし、特に、小学生の参加者が申し込みの半数程度になっています。そこで、抽選の結果、見送りとなった小学生のみを対象にした「春休みのボランティア体験」を昨年度から実施していますが、新たなプログラムを開発していく必要があります。また、特に、高校では夏季講習等に力を入れており、申し込みはしたものの参加できない状況が多く見られたことも課題として挙げられます。
	次年度の活動計画(見直し内容)
	その結果目指す成果(次年度の成果目標)  夏休みに見送りとなった小学生を対象にした「春休みのボランティア体験」で、新たなプログラム編成に努めます。また、高校の夏季講習等を考慮した事業計画を策定し、一人でも多くの青少年が参加しやすいプログラム実施を継続します。なお、実施にあたっては、事務の見直しなどの努力を行い、予算を縮小します。「減額」

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	社会体験活動を通じた青少年健全育成のための新たな仕組みづくり						施策番号
							I-1-(4)-③
<b>コスト</b>	事業費	平成23年度執行額 4,316 千円	平成24年度当初予算額 1,800 千円	人件費 の目安	金額 2,700 千円 (備考)	担当局	子ども家庭局
					課長 0.05 人 職員 0.15 人	担当課	青少年課
					係長 0.1 人	課長名	塚崎

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたのか	青少年が地域において日常的・継続的に社会体験活動を行うことができる環境づくりをはじめ、放課後児童クラブの運営や地域の青少年活動等をサポートすることができる青年リーダーの養成などの新たな仕組みづくりにより、より多くの青少年に社会体験活動の機会を与えることで、健全育成を図ります。	<b>成果実績</b>	成果実績は下記のとおりです。
-----------	--------------------	--	-------------	----------------

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
		青少年ボランティアステーションにおけるボランティア体験活動者数 青少年ボランティアステーションにおけるコーディネートにより、ボランティア活動に取り組んだ小学生・中学生・高校生等の延べ人数を指標として掲げました。目標数値は、子ども家庭プランで設定し、22年度から毎年200人ずつ増の目標としています。最終目標は、「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 3,200人(26年度)	5,518 人	2,600 人	5339 人 205.3 %	
	青少年への社会体験活動等の機会や場の提供 次世代を担う青少年が社会とのかかわりを自覚し、自己を確立・向上していけるよう、青少年に豊富な社会体験活動等の機会や場を提供します。 (最終目標と目標年度)		社会体験活動の機会や場の提供		大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

<b>活動計画</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>①青少年が取り組める体験活動の情報を、パンフレットやウェブサイト等で効果的に発信します。</li> <li>②子どもたちが地域においてさまざまな体験活動を行うためのモデルとなるクラブを実施します。</li> <li>③青少年育成団体等に所属する青年リーダーの育成やネットワークづくりを行います。</li> <li>④青少年育成団体相互の連携や情報共有、共同事業実施のための連絡会議を実施します。</li> </ol>	<b>活動実績</b>	活動実績は下記のとおりです。
-------------	---	-------------	----------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
		地域体験活動クラブのモデル実施 地域においてさまざまな体験活動に取り組むことができるモデルクラブを設置します。	2 箇所	2 箇所	2 箇所 100.0 %	
	青少年育成活動をサポートする青年リーダーの数 「青少年育成シニアリーダー会議”ぼんて”」や「北九州市青少年ボランティアリーダーズ」の設置等により、青少年育成活動のために不可欠な青年リーダーの育成を行います。	21 人	30 人	70 人 233.3 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。  「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。
		青少年にさまざまな体験活動の機会や場を提供するための情報発信の強化や、子ども地域体験活動クラブのモデル実施、青少年育成シニアリーダー会議”ぼんて”の組織化等、青少年の体験活動の推進に向けた新たな仕組みづくりは、青少年の体験活動不足が問題視される中、有効な取り組みです。  青少年育成団体やNPO団体等との協働・連携により、経済的・効率的に事業を実施できています。

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	<b>課題</b> 「夏休みの青少年ボランティア体験」をはじめとした、小学生・中学生・高校生等のボランティア活動の延べ人数は目標値を大幅に上回っていますが、今後は、青少年育成活動のために不可欠な青年リーダーの育成に力を入れていく必要があります。特に、放課後児童クラブなどの地域での青少年育成活動をサポートすることができる青年リーダーを、いかに養成していくかが課題であると考えます。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	青少年育成活動を担うために必要なスキルや資質を持った青年リーダーを養成するため、各種講座や研修の充実を図るが、事務の見直しなどの努力を行い、予算は縮小します。「減額」	青年リーダーの数の対前年度比増を目指すなど、より多くの青少年に、豊富な社会体験活動等の機会や場を提供します。

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	青少年の家の整備・充実						施策番号			
							I-1-(4)-③			
<b>コスト</b>	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	4,900 千円	(備考)	担当局	子ども家庭局		
	49,103 千円	32,509 千円		課長	0.1 人		職員	0.1 人	担当課	青少年課
				係長	0.3 人		課長名	塚崎		

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	青少年の家は、施設周辺の豊かな自然の中で、野外活動や集団生活などの体験を通して、規律、協同、友愛、奉仕の精神を学び、心身ともにたくましい青少年の育成を目的とした社会教育施設です。 近年の少子化などの社会の変化や、青少年のさまざまな体験不足が言われるなか、市民の新たなニーズや老化に対応するため、青少年の家の整備、充実を推進します。	<b>成果実績</b>	施設改修事業として、夜宮青少年センターの受変電設備の更新を行った。また、かぐめよし少年自然の家屋根根防水工事を実施。
-----------	--	-------------	--

	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
<b>代表的な成果指標</b>	青少年への社会体験活動等の機会や場の提供  次世代を担う青少年が社会とのかかわりを自覚し、自己を確立・向上していけるよう、青少年に豊富な社会体験活動等の機会や場を提供します。 また、青少年の体験活動を支える少年自然の家等の青少年教育施設の再整備を進めます (最終目標と目標年度)		社会体験活動の機会や場の提供			代表的成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	(最終目標と目標年度)				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

<b>活動計画</b>	青少年の家の継続的な利用に向け、施設の安全性の確保や利用者の快適性の向上のため、計画的な補修工事等を実施します。	<b>活動実績</b>	活動実績は下記のとおりです。
-------------	--	-------------	----------------

	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
<b>活動指標</b>	計画的補修工事等の実施  整備工事等を計画的に実施するなど、施設の利便性の向上を図るとともに、円滑な施設運用を図ります。平成23年度は、夜宮青少年センターの受変電設備の更新、かぐめよし少年自然の家屋根根防水工事等を実施しました。	平成22年度は足立青少年の家のトイレ改修を実施	各施設の状況を把握し、安全面等考慮のうえ緊急度の高い箇所から工事を実施します。	計画通り実施		活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	利用者数  野外活動などを通して、健全な青少年育成を目的とし、各施設において、周辺の自然環境などの特色を活かした事業を行い、利用者数の増加を図ります。	183,147 人	利用者の増加	187,806 人		大変順調 順調 やや遅れ 遅れ
				4,659 人増		順調

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析	青少年の家については、市内中学1年生全員を対象とする「ふれあい合宿」などの学校利用を含め、一般利用もあわせ、多くの利用があり、各施設において機能整備を進めることにより、施設での事業も円滑に実施されており、快適性に対する利用者の評価も高まっています。 施設設置後、かなりの期間を経過しており、建替えなどを検討する時期にきていますが、新築などには財政的にきわめて困難な状況のため、適切な手法による計画的な機能整備を行うことで、長寿命化を図り、活用していくこととします。
	<b>「経済性」</b> <b>「効率性」</b> の分析	必要かつ適切な投資により、機能整備を行い、ある程度の期間、確実に施設を運用できる見込みを確保した上で指定管理制度を導入しており、管理運営費用の削減につながっています。 指定管理へ移行した施設においても、施設の根幹部分については、施設設置者である本市の責任が免れないため、今後の利用にあたっての維持・快適性の向上には、引き続き市の関与が必要であり、適切な発注による計画的な機能整備を進めていきます。

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題  これまで、計画的に機能整備を進めていますが、来年度は消防法等に基づく施設改修が必要な施設が3施設(たしろ少年自然の家:地下タンク、玄海青年の家:排煙窓改修、児童文化科学館:ハロゲン消化施設)あることに加え、2施設(かぐめよし少年自然の家、玄海青年の家)において、耐震診断を実施する予定となっています。今後の施設改修にあたっては、耐震診断結果もふまえ、利用者のサービス向上につながるよう改修計画を行い、機能整備を行っていきます。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	来年度の工事等については、消防法等に基づく施設改修及び耐震診断を行うとともに、安全面等を考慮し、緊急度の高い工事や利用者の快適性の向上に必要な施設整備を実施していきます。なお、事業費については、「耐震診断」(新規事業)、「環境整備事業」に係る工事等を実施するため、予算を拡充します。「増額」	利用者数: 対前年度比の増加。

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	児童文化科学館の整備・充実						施策番号
							I-1-(4)-③
<b>コスト</b>	事業費	平成23年度執行額 1,995 千円	平成24年度当初予算額 8,000 千円	人件費 の目安	金額 4,900 千円 (備考)	担当局	子ども家庭局
					課長 0.1 人 職員 0.1 人	担当課	青少年課
					係長 0.3 人	課長名	塚崎

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたのか	児童文化科学館では、市内の全小学4年生を対象とする「天文学習」を行うほか、科学教育の振興、児童文化の向上を図るため、プラネタリウム、展示物、科学教室などの体験を通じた科学事業や演劇会などの文化事業を開催します。 また、展示物やプラネタリウム機器等についても計画的な整備・更新を行います。	<b>成果実績</b>	天文学習等の実績として、市内小学4年生を対象に、152校9,882人の児童の受け入れを行いました。その他、科学事業など年間322回実施35,119人の施設利用実績があります。【646人増】
-----------	--------------------	--	-------------	--

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
		<b>青少年への社会体験活動等の機会や場の提供</b> 次世代を担う青少年が社会とのかかわりを自覚し、自己を確立・向上していけるよう、青少年に豊富な社会体験活動等の機会や場を提供します。 また、青少年の体験活動を支える少年自然の家等の青少年教育施設の再整備を進めます (最終目標と目標年度)		社会体験活動の機会や場の提供		

<b>活動計画</b>	施設のあり方について検討を行っており、展示物やプラネタリウム機器等の整備についても併せて検討します。	<b>活動実績</b>	あり方の検討作業を進めています。 今年度の施設利用者数 98,437人 (昨年度97,791人)
-------------	--	-------------	---

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
		<b>児童文化科学館のあり方の検討について</b> 施設整備あるいは移転等の方向性が示されれば、工事費、展示物更新費等の経費を要しますが、市内小学4年生向けの「天文学習」の充実が図られるほか、一般の入場者の増加も期待できるため、耐震診断の結果をふまえ、施設のあり方について方向性を確認します。 平成23年度の整備状況	耐震診断を実施。補強工事により継続利用が可能です。	施設のあり方について方向性の確認作業を実施。今後は他都市の状況も踏まえ検討します。		

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。  児童文化科学館のあり方については、耐震診断の結果もふまえ、検討を行っています。耐震対応は平成27年度までが期限となっており、平成24年度中に施設のあり方について方向性を決定する必要があります。現状では様々な要因があり、最終的な結論に至っていません。
	<b>「経済性」</b> <b>「効率性」</b> の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。  施設のあり方については「経済性」「効率性」を含め検討中である。他都市の状況等も踏まえ、コストや立地条件等を十分に検討する必要があります。

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	<b>課題</b> 施設のあり方についての方向性については、現在検討を進めているため、実施設計等、具体的な整備着手は見合わせている状況です。方向性が決定した段階で、具体的な整備に着手します。 次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)  あり方の検討作業の状況を確認し、プラネタリウム等に必要の工事及び展示物などの整備計画について検討します。事業費については、整備計画に基づき計上します。「休止」
---------------	---	--

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	「子どもまつり」の充実						施策番号
							I-1-(4)-③
<b>コスト</b>	事業費	平成23年度執行額 2,450 千円	平成24年度当初予算額 2,450 千円	人件費 の目安	金額 1,825 千円 (備考)	担当局	子ども家庭局
					課長 0.05 人 職員 0.1 人	担当課	青少年課
					係長 0.05 人	課長名	塚崎

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	毎年、「子どもの日」にちなんで開催している「子どもまつり」の中で、親子のふれあい等を高めることができる催しを実施することにより、親子を中心とした家庭におけるコミュニケーションの促進を図ります。	<b>成果実績</b>	成果実績は下記のとおりです。		
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	「親子のふれあい」の推進		親子のふれあいの推進			代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	親子のふれあいを高める催しを実施することにより、親子を中心とした家庭におけるコミュニケーションの促進を図ります。なお、成果指標がふれあいの推進のため、数値で示すことは困難です。 (最終目標と目標年度)				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

<b>活動計画</b>	「子どもまつり」の中で、親子が一緒に楽しみながら取り組むことができる事業などを実施するとともに、親子関係づくりの啓発活動等を行うことで、親子のふれあいを高めるきっかけづくりを図ります。	<b>活動実績</b>	活動実績は下記のとおりです。			
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	子どもまつりの実施内容の充実		内容の充実			活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	子どもまつりの中で行うイベントブースに、親子のふれあいの推進を意識した内容を盛り込むなど充実を図ります。なお、活動指標が充実度のため、数値で示すことが困難です。 来場者数	78,100 人	—	80,653 人	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。
	<b>「経済性」</b> <b>「効率性」</b> の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。  子どもまつりには多くの親子が来場するため、この中で親子が一緒に取り組むことができる内容の各種イベントを実施することで、効果的に親子のふれあいの促進を図ることができます。

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題  代表的な成果指標に掲げた「親子のふれあい」の推進を図るため、今後も、「子どもまつり」の中で、親子が一緒に楽しみながら取り組むことができる事業などを実施するとともに、親子関係づくりの啓発活動等を推進していきます。	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	次年度の活動計画(見直し内容)	親子のふれあいの推進を意識した催しを実施することにより、親子を中心とした家庭におけるコミュニケーションの促進を図ります。

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	保育所等耐震対策						施策番号
							Ⅱ-1-(4)-④
<b>コスト</b>	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	3,375 千円 (備考)	担当局	子ども家庭局
	4,506 千円	11,500 千円		課長	0.05 人 職員 0.2 人	担当課	保育課
				係長	0.13 人	課長名	武田

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	子どもたちの安全を確保するため、昭和56年以前に建設され、耐震診断未実施の保育所等について、耐震診断(二次診断)を計画的に実施します。			<b>成果実績</b>	活動結果は以下のとおりです。	
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	<b>【成果の状況】</b>	
	公共施設などの耐震化の推進		推進			代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	大規模な地震などに備え、保育所等の耐震化を推進します。 (最終目標と目標年度)						
					大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調	
(最終目標と目標年度)							

<b>活動計画</b>	耐震化未実施の保育所等について、耐震診断を計画的に推進します。また、診断結果等を踏まえ、計画的な耐震改修等を推進します。				<b>活動実績</b>	活動結果は以下のとおりです。	
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	<b>【活動の状況】</b>	
	耐震化未実施の保育所等の耐震診断実施施設数(民間保育所)	6 所	5 所	5 所		活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	旧耐震基準で建設された民間保育所が、地震に対して耐久性を有しているかを見極めます。			100.0 %			
	耐震化未実施の保育所等の耐震診断実施施設数(直営保育所)	7 所	4 所	4 所	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調	
旧耐震基準で建設された直営保育所が、地震に対して耐久性を有しているかを見極めます。	100.0 %						

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	民間保育所5所、直営保育所4所の合計9所で耐震診断を実施しました。旧耐震基準で建設された保育所等の老朽化を見極めるうえで効果がありました。
	<b>「経済性」</b> <b>「効率性」</b> の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	直営保育所は建築都市局で取りまとめて効率的に実施し、民間保育園は補助金を活用し、市の財政負担の軽減を図っています。

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題  耐震診断の結果、耐震性に問題ありと判断された施設に関する、効率的な整備計画(改築・耐震補強等)の策定及び、予算の確保が必要となります。	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	次年度の活動計画(見直し内容)	引き続き、予算を増額し、計画的に耐震診断を進めます。耐震診断の結果、耐震性に問題ありと判断された施設については、改築を行うなど効率的かつ効果的な対応を行います。
		施設の安全性を確保することにより、児童、保護者、保育士にとって安心・安全な保育を実現します。

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	子ども・家庭相談コーナーの運営						施策番号	
							Ⅱ-3-(1)-④	
<b>コスト</b>	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	136,625 千円	(備考)	担当局	子ども家庭局
	89,255 千円	87,202 千円		課長	0.75 人 職員 7.6 人		担当課	子育て支援課
				係長	7.1 人		課長名	松成

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	各区役所の「子ども・家庭相談コーナー」では、家庭と子どもに関するあらゆる相談に応じ、母子家庭の自立支援、DV被害者対応、児童虐待対応等、それぞれの相談に応じた支援・対応を行うとともに、必要に応じて他の機関のサービス・支援へとつなげます。				<b>成果実績</b>	成果の状況は下記のとおりです。		
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】			
	児童虐待対応件数 児童虐待の発生予防に努めるとともに、早期発見、早期対応により、虐待が深刻化する前に適切な支援ができる社会環境づくりを進めることが児童虐待防止につながり、結果として、児童虐待対応件数の減少として現れることから、成果指標として掲げました。最終目標は「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 減少(26年度)	308 件	減少	322 件	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック			
	(最終目標と目標年度)					順調			

<b>活動計画</b>	家庭と子どもに関するあらゆる相談に応じ、母子家庭の自立支援、DV被害者対応、児童虐待対応等、それぞれの相談に応じた支援・対応を行うとともに、必要に応じて他の機関のサービス・支援へとつなげ、総合的な相談窓口としての役割を担います。	<b>活動実績</b>	活動結果は下記のとおりです。						
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】			
	相談件数 各区の子ども・家庭相談コーナーにおいて、子ども・家庭相談員等が、来所、電話、訪問、手紙など、様々な形態による相談に応じています。その相談件数を活動指標として設定しました。	81,703 件	—	76,648 件	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック			
	(最終目標と目標年度)					順調			

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析 活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	子どもと家庭に関するあらゆる相談に応じ、それぞれの内容に応じた支援・対応を行い、相談者の不安や負担感の軽減を図るとともに、関係機関との連携により一定の成果をあげており、事業の適切な運営がなされています。
	<b>「経済性」</b> <b>「効率性」</b> の分析 「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	事業実施にあたり、計画的な研修を通じて相談員の資質向上を図るなど効率的な運営をしています。

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題	子どもと家庭に関するあらゆる相談に応じ、それぞれの内容に応じた支援・対応を行い、関係機関との連携を図りながら総合的な相談窓口としての役割を担っています。事業の実施にあたっては、計画的な研修を通じて相談員の資質の向上が必要です。		
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)		
	子どもと家庭に関する相談は増加しているとともに複雑化しています。平成25年度の予算は現状維持ですが、年間を通じて計画的に行っている 初任者研修、主務者研修、弁護士会との合同研修、事例検討会等に加え、子ども・家庭相談コーナーのニーズに応じた研修を新たに行うことにより、相談員の資質の向上を図り、あらゆる相談にきめ細かく対応していきます。	児童虐待対応件数の減少を目指します。		

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	生後4か月までの乳児家庭全戸訪問事業の充実						施策番号
							II-3-(1)-④
<b>コスト</b>	事業費	平成23年度執行額 43,979 千円	平成24年度当初予算額 46,339 千円	人件費の目安	金額 2,750 千円 (備考)	担当局	子ども家庭局
					課長 0 人 職員 0.3 人	担当課	子育て支援課
					係長 0.05 人	課長名	松成

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	生後4か月までの乳児がいる家庭を訪問し、子育ての孤立化を防ぐために、様々な不安や悩みを聞き、子育て支援に関する必要な情報提供を行うとともに、支援が必要な家庭に対しては適切なサービス提供に結びつけることにより、地域のなかで子どもが健やかに育成できる環境整備を図ります。	<b>成果実績</b>	下記の代表的な成果指標のとおりです。		
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	児童虐待対応件数 児童虐待の発生予防に努めるとともに、早期発見、早期対応により、虐待が深刻化する前に適切な支援ができる社会環境づくりを進めることが児童虐待防止につながり、結果として、児童虐待対応件数の減少として現れることから、成果指標として掲げました。最終目標は「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 減少(26年度)	308 件	減少	322 件		代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	(最終目標と目標年度)				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

<b>活動計画</b>	訪問を継続実施し、訪問担当者に対する研修会を行うなど、事業の充実を図ります。訪問等で直接面接して情報を提供します。	<b>活動実績</b>	活動結果は下記のとおりです。			
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	専門職による訪問 全戸家庭訪問により、母体の健康保持および胎児の健やかな発育を促すためには、専門職の訪問が必要なため指標に掲げました。	5,685 件	適切な訪問	5,855 件		活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
					大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析  <b>「経済性」</b> <b>「効率性」</b> の分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。  対象家庭に訪問した結果、81%は実際に面接できており、面接できなかった家庭に対しても、その後の乳児健診において支援を行っています。子育ての孤立化を防ぎ、地域での見守り体制を充実していくために、今後も事業を継続します。  「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。  地域の主任児童委員や専門職が実施しているため、これ以上のコスト削減は困難です。
------------------	--	---

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題  要支援家庭を把握するためには訪問して面接する必要があります。対象家庭に訪問した結果、81%は実際に面接できています。面接できなかった家庭に対しても、その後の支援を行う必要があります。  次年度の活動計画(見直し内容)  事務の見直しなどにより、事業全体の予算は縮小しますが、子育ての孤立化を防ぎ、地域での見守り体制を充実していくために、今後も事業を継続します。また、医療機関との連携を強化し、対象家庭を早期に訪問するための体制について検討します。	その結果目指す成果(次年度の成果目標)  児童虐待で対応しなければならない件数を減らします
---------------	---	---

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	<b>保育カウンセラー事業</b>						施策番号
							II-3-(1)-④
<b>コスト</b>	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	5,300 千円 (備考)	担当局	子ども家庭局
	1,426 千円	1,584 千円		課長	0.2 人 職員 0.4 人	担当課	保育課
				係長	0 人	課長名	重谷

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたのか	虐待等が疑われる子どもや、その保護者に対応する保育所の保育指導や相談機能の強化、家庭保育力の向上を図るため、対象の保育所に訪問し、対象児の観察、保育所職員のカウンセリング等を行います。	<b>成果実績</b>	虐待の疑われる子どもやその保護者に対応する保育所を訪問し、前年度を上回る件数の事例について、保育所への助言、指導等を通し保育所の負担軽減を行いました。		
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	児童虐待対応件数 児童虐待の発生予防に努めるとともに、早期発見、早期対応により、虐待が深刻化する前に適切な支援ができる社会環境づくりを進めることが児童虐待防止につながり、結果として、児童虐待対応件数の減少として現れることから、成果指標として掲げました。最終目標は、「元氣発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 減少(26年度)	308 件	減少	322 件		代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	(最終目標と目標年度)				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

<b>活動計画</b>	臨床心理士と保育課保育士が、虐待等が疑われる子どもや、その保護者に対応する保育所を訪問し、助言、指導等を実施します。	<b>活動実績</b>	活動結果は下記のとおりです。
-------------	--	-------------	----------------

<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	臨床心理士と保育課保育士による保育所訪問等、保育所への対応の回数 臨床心理士と保育課保育士が保育所を訪問し、虐待等の疑われる子どもの観察、指導・保育所職員のカウンセリング等を実施することが保育所の質の向上になるので指標として掲げました。	93 回	100 回程度	99 回 99.0 %		活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
					大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	虐待の疑われる子どもやその保護者に対応する保育所(50か所)を訪問、99件の事例について保育所への助言、指導等を通し、虐待への意識の向上、保育所の負担軽減を行いました。また、訪問して一定期間後に電話連絡等のフォロー(47か所)を行い、継続した支援を行いました。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	保育カウンセラーの賃金は子ども総合センターの臨床心理士報償費に基づき、金額を設定しています。カウンセリング等の専門的指導をする上で、これ以上のコスト削減はできません。

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題 臨床心理士と保育課保育士が保育所を訪問し、虐待等の疑われる子どもの観察や保育指導、助言等を行ったり、状況に応じて保育所職員のカウンセリングを実施するなど、虐待が疑われる子どもに対応する保育所への支援を行っていますが、保育所訪問時、虐待についてだけでなく、発達障害等が疑われる「気になる子ども」についての相談も増加しています。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	引き続き、虐待等が疑われる子どもに対応する保育所を支援します。また、新たに、発達障害等が疑われる「気になる子ども」に対応する保育所へ保育観察、指導、助言等の支援も強化するため、予算を増額します。	児童虐待対応件数の減少を図ります。

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	虐待の早期発見・迅速かつ適切な対応および児童への支援のための連携強化						施策番号
							II-3-(1)-④
<b>コスト</b>	事業費	平成23年度執行額 17,860 千円	平成24年度当初予算額 17,563 千円	人件費 の目安	金額 33,200 千円 (備考)	担当局	子ども家庭局
					課長 0.8 人 職員 2 人	担当課	子ども総合センター
					係長 0.9 人	課長名	高橋

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたのか	児童虐待は子どもに対する最大の人権侵害です。関係各機関が連携を図ることで、児童虐待の発生予防、早期発見、早期対応及び適切な支援ができるようになることを目指します。	<b>成果実績</b>	成果状況は下記のとおりです。
-----------	--------------------	---	-------------	----------------

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
		児童虐待対応件数 児童虐待の発生予防に努めるとともに、早期発見、早期対応により、虐待が深刻化する前に適切な支援ができる社会環境づくりを進めることが児童虐待対応件数の減少につながることから、成果指標として掲げました。 最終目標は、「元氣発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 減少(26年度)	308 件	減少	322 件	
	(最終目標と目標年度)				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

<b>活動計画</b>	児童虐待相談対応の強化を図ります。	<b>活動実績</b>	活動結果は下記のとおりです。
-------------	-------------------	-------------	----------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
		児童虐待問題連続講座の参加者数 市民や関係機関職員を対象にした「児童虐待問題連続講座」を11月に開催するので、参加者数を指標として掲げました。	248 人	単年度の目標設定はありません	266 人	
	児童虐待対応リーダー養成研修の参加者数 児童虐待の早期対応を図るため、保育所、学校等の職員を対象とした「児童虐待対応リーダー養成研修」を毎年実施しています。毎年対象施設が異なるため、参加者数も変動しますが、指標として掲げました。	221 人	単年度の目標設定はありません	154 人	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析  <b>「経済性」</b> <b>「効率性」</b> の分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。  「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。  関係職員の資質向上のため、23年度は保育所を対象とした「児童虐待対応リーダー養成研修」を開催しました。また、11月の児童虐待防止推進月間に、市民や関係機関職員を対象とした「児童虐待問題連続講座」を開催しました。児童虐待の問題は、関係する様々な機関が個別に知識や対応能力を向上させるとともに連携し、児童やその家庭等を支援して、問題解決を図っていかねばなりません。現在、関係各機関での研修体制の確立や通告先の明確化、通告後の流れ等も浸透しつつあり、より一層の連携が図られ、児童虐待防止に向け、有効性は高いと考えます。  児童虐待対応は、子どもの安全が最優先であり、法的にも、区や児童相談所がマネジメントの主体とならざるを得ません。また、児童虐待に関する研修や啓発については、専門的な知識や経験が必要で、学識経験者等による講義に加え、一部研修では経験を積んだ職員が講師を行うなど、効率的に実施しています。
------------------	--	--

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題  成果指標の対応件数はやや増加しました。平成24年度も児童虐待の発生予防や早期発見、早期対応等適切な支援ができるように、今後も関係機関と連携を図りながら、対応することが必要です。  次年度の活動計画(見直し内容)  児童虐待対応の質の向上のため、「児童虐待対応リーダー養成研修」等の研修を通して、多くの関係者が協力しながら適切な対応ができるように、前年度並みの事業費で効率的に実施します。		その結果目指す成果(次年度の成果目標)  児童虐待対応件数を減少させることを目標とします。
---------------	---	--	---

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	男女共同参画基本計画推進事業(市の付属機関等における女性の参画拡充の促進)						施策番号	
							Ⅱ-3-(2)-①	
<b>コスト</b>	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	1,450 千円 (備考)	担当局	子ども家庭局
		0 千円	0 千円		課長	0.05 人 職員 0.05 人	担当課	男女共同参画推進課
					係長	0.05 人	課長名	坂井

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたのか	男女共同参画社会の形成の推進のためには、政策・方針決定過程への女性の参画の拡大が重要なことから、市の付属機関及び市政運営上の会合への女性委員の参画の拡充を図ります。				<b>成果実績</b>	
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】	
	市の審議会等委員への女性の参画率	33.1 %	40.0 %	40.7 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	市政にもっと女性の意見や視点などを反映させる観点から、女性委員の参画拡充を図ります。最終目標は「男女共同参画基本計画(第2次)」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 40%(25年度)			101.8 %			
	女性委員のいない市の審議会等の数	6	0	0		100.0 %	大変順調
市政にもっと女性の意見や視点などを反映させる観点から、女性委員の参画拡充を図ります。最終目標は「男女共同参画基本計画(第2次)」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 0(25年度)							

<b>活動計画</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・付属機関等委員改選に係る事前協議及び個別ヒアリングの実施(市が直接実施)</li> <li>・付属機関等女性委員参画率の調査、集計、結果公表(市が直接実施)</li> </ul>	<b>活動実績</b>	活動の状況は、下記のとおりです。
-------------	---	-------------	------------------

<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	関係団体等への働きかけ	—	—	—	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	関係団体等に対し、市の付属機関及び市政運営上の会合への女性委員の参画拡充の働きかけを行った。			—		
						大変順調

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	地域、各種団体、企業等の協力の下、市役所全体で女性委員の参画拡充に取り組んだ結果、目標である「平成25年度 40%」を1年早く達成しました。
	<b>「経済性」</b> <b>「効率性」</b> の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	今後も、コストをかけずに、引き続き、市の付属機関等への女性の参画拡充を図っていきます。

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題		
		北九州市男女共同参画基本計画(第2次)において目標値として設定している「市の審議会等委員への女性の参画率 25年度 40%」「女性委員のいない市の審議会等の数 25年度 0」という目標値については、いずれも目標を達成しましたが、今後も、ここで立ち止まることなく、市の政策・方針決定過程へ男性・女性が対等に参画するという観点から、引き続き取り組んでいく必要があると考えています。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)	
	委員改選のある付属機関等に関して、担当課との事前協議を行い、必要に応じて個別ヒアリングを実施します。 また、次年度に策定する「男女共同参画基本計画(第3次)」に盛り込む次の目標について、男女共同参画審議会の意見等も踏まえながら、検討します。	引き続き、政策・方針決定過程への女性の参画促進を図ります。	

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	拠点施設における固定的役割分担意識解消のための広報・啓発							施策番号			
								Ⅱ-3-(2)-①			
<b>コスト</b>	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	1,105 千円	(備考)	担当局	子ども家庭局		
		8,853 千円	10,292 千円		課長	0.02 人		職員	0.05 人	担当課	男女共同参画推進課
					係長	0.05 人				課長名	坂井

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	本市における男女共同参画社会形成の拠点施設である男女共同参画センター・ムーブ及び勤労婦人センター・レディスにおいて、性別による固定的役割分担意識解消のための広報・啓発事業を行い、男女共同参画に関する理解を深め、男女共同参画社会の実現を目指します。				<b>成果実績</b>	
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】	
	性別による固定的役割分担意識に肯定的な人の割合	57.5 % (H17年)	減少	38.7 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	広報・啓発事業の成果として、概ね5年おきに実施される「北九州市の男女共同参画社会に関する調査結果」の「性別による固定的役割分担意識に肯定的な人の割合」を設定しました。 (最終目標と目標年度)			—			
						順調	
(最終目標と目標年度)							

<b>活動計画</b>	男女共同参画センター・ムーブ及び勤労婦人センター・レディスにおいて、性別による固定的役割分担意識解消のための講座等を開催します。(指定管理委託)	<b>活動実績</b>	活動の状況は、下記のとおりです。			
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	ムーブ及びレディスでの男女共同参画講座・講演会等開催件数	221 件	同程度	211 件	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	性別による固定的役割分担意識解消のための広報・啓発を進めるため、ムーブ及びレディスにおいて男女共同参画講座・講演会等を開催します。			—		
	ムーブ及びレディスでの男女共同参画講座・講演会等参加者数	50,097 人	同程度	39,131 人		順調
性別による固定的役割分担意識解消のための広報・啓発を進めるため、ムーブ及びレディスにおいて男女共同参画講座・講演会等を開催します。	—					

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	「北九州市の男女共同参画社会に関する調査」において「性別による固定的役割分担意識に肯定的な人の割合」が薄れる結果となりました。
	<b>「経済性」</b> <b>「効率性」</b> の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	ムーブ及びレディスの運営については指定管理者制度を導入し、効率的な事業実施に努めています。

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題			
		平成23年に実施した「北九州市の男女共同参画社会に関する調査結果」の「性別による固定的役割分担意識に肯定的な人の割合」は、前回調査に比べ減少しましたが、この調査結果を分析し、今後の活動に生かすことで、男女共同参画のさらなる推進を図ることが必要と考えます。		
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)		
	ムーブ及びレディスにおいて、性別による固定的役割分担意識解消のための広報・啓発事業や、男女共同参画講座・講演会を開催します。	ムーブ及びレディスにおいて、効果的な講座や講演会等を引き続き開催することで、固定的役割分担意識に肯定的な人の割合がさらに減少し、男女共同参画が推進することを目指します。		

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	地域における固定的役割分担意識解消のための広報・啓発						施策番号
							II-3-(2)-①
<b>コスト</b>	事業費	平成23年度執行額 3,344 千円	平成24年度当初予算額 7,001 千円	人件費 の目安	金額 2,095 千円 (備考)	担当局	子ども家庭局
					課長 0.03 人 職員 0.1 人	担当課	男女共同参画推進課
					係長 0.1 人	課長名	坂井

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	地域で活動しているNPO等と協働で、固定的役割分担意識解消のための広報・啓発事業を市民センターなど市内一円でを行い、男女共同参画に関する理解を深め、男女共同参画社会の実現を目指します。	<b>成果実績</b>	男女共同参画社会に関する調査(平成23年度)において、性別による固定的役割分担意識が薄れてきました。
-----------	---------------------	--	-------------	--

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
		性別による固定的役割分担意識に肯定的な人の割合 広報・啓発事業の成果として、概ね5年おきに実施される「北九州市の男女共同参画社会に関する調査結果」の「性別による固定的役割分担意識に肯定的な人の割合」を設定しました。 (最終目標と目標年度)	57.5 % (H17年)	減少	38.7 %  —	
	(最終目標と目標年度)				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

<b>活動計画</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・北九州市女性団体連絡会議との協働による「男女共同参画フォーラムin北九州」の開催(一部補助)</li> <li>・NPO等の公募制による男女共同参画に関する広報啓発事業の実施(一部委託)</li> </ul>	<b>活動実績</b>	活動の状況は、下記のとおりです。
-------------	--	-------------	------------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
		「男女共同参画フォーラムin北九州」及び男女共同参画に関する広報啓発事業(公募制)の実施回数 北九州市女性団体連絡会議やNPO等と協働で当事業を実施し、地域における男女共同参画に関する理解を深めます。	70 回	同程度	74 回 —	
	「男女共同参画フォーラムin北九州」及び男女共同参画に関する広報啓発事業(公募制)の参加者数 北九州市女性団体連絡会議やNPO等と協働で当事業を実施し、地域における男女共同参画に関する理解を深めます。	5,260 人	同程度	5,414 人 —	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<p><b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析</p> <p>「経済性」「効率性」の分析</p>	<p>活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。</p> <p>北九州市女性団体連絡会議やNPO等と協働で、「男女共同参画フォーラムin北九州」や男女共同参画に関する広報啓発事業を市内一円で概ね計画どおり実施しました。上記成果実績のとおり、地域における男女共同参画の推進を図ることができました。</p> <p>「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。</p> <p>北九州市女性団体連絡会議やNPO等と連携を図って広いネットワークを活用しながら、多くの市民に対して継続的に広報・啓発活動を効率的に実施しています。</p>
------------------	---	--

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	<p>課題</p> <p>男女共同参画社会に関する調査(平成23年度)において、性別による固定的役割分担意識に肯定的な人の割合は、前回調査に比べ減少しましたが、今後も、男女共同参画のさらなる推進が必要です。</p> <p>次年度の活動計画(見直し内容)</p> <p>北九州市女性団体連絡会議やNPO等と協働で、「男女共同参画フォーラムin北九州」や男女共同参画に関する広報啓発事業を実施し、地域における男女共同参画意識の向上を図ります。</p>	<p>その結果目指す成果(次年度の成果目標)</p> <p>性別による固定的役割分担意識に肯定的な人の割合がさらに減少し、地域における男女共同参画がさらに推進することを目指します。</p>
---------------	---	--

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	地域ぐるみで働き方を見直す体制の推進						施策番号
							Ⅱ-3-(2)-②
<b>コスト</b>	事業費	平成23年度執行額 7,667 千円	平成24年度当初予算額 9,672 千円	人件費の目安	金額 1,980 千円 課長 0.02 人 職員 0.1 人 係長 0.1 人	(備考)	担当局 子ども家庭局
							担当課 男女共同参画推進課
							課長名 坂井

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	誰もが多様な働き方や生き方が選択でき、活力ある豊かな社会を実現するため、企業・働く人・市民・行政で構成された「北九州市ワーク・ライフ・バランス推進協議会」を運営し、市民や企業等に対してワーク・ライフ・バランスの理解促進のための啓発事業等を行います。	<b>成果実績</b>	男女共同参画社会に関する調査(平成23年度)において、ワーク・ライフ・バランスという言葉の認知度が64%となりました。		
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	子育て中の労働者で仕事と生活の両立が図られていると感じる人の割合	34.3 %	増加	30.3 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	-
	仕事と生活のバランスについて、「希望」と「現実」が一致している人が少なく、個人が望むワーク・ライフ・バランスが実現していないことから成果指標として掲げました。最終目標は、「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 増加(26年度)			-		
	子育て中の労働者で週労働時間60時間以上の雇用者の割合	30.6 %	減少	29.0 %		-
子どもと向き合う時間をとれるようにするとともに、子どもの病気など生活上必要なときに対応できるようにするためには、長時間労働の解消が必要であることから成果指標として掲げました。最終目標は、「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 減少(26年度)	-					

<b>活動計画</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「北九州市ワーク・ライフ・バランス推進協議会」の開催(市が直接実施)</li> <li>・従業員向け広報啓発や、父子ふれあい体験の実施などによる個人(家庭)に対する働きかけ(一部委託)</li> <li>・ワーク・ライフ・バランス推進キャンペーンの実施などによる広報啓発事業(一部委託) など</li> </ul>	<b>活動実績</b>	活動の状況は、下記のとおりです。
-------------	---	-------------	------------------

<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	「北九州市ワーク・ライフ・バランス推進協議会」の開催回数	3 回	3 回	3 回	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	企業、働く人、市民、行政で構成された「北九州市ワーク・ライフ・バランス推進協議会」を運営し、本市におけるワーク・ライフ・バランスの推進施策について協議するとともに、啓発事業を実施します。			100.0 %		
	ワーク・ライフ・バランス推進キャンペーン協賛事業のうち学校開放週間参加者数	84,672 人	増加	91,067 人		-
11月の推進キャンペーン期間中に協賛事業として実施される学校開放週間への参加を促進し、ワーク・ライフ・バランスの推進をPRします。	-					

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	「北九州市ワーク・ライフ・バランス推進協議会」を開催して、各構成機関で情報を共有しました。11月の推進キャンペーンでは、「ワーク・ライフ・バランス応援ソング」等を通じてPRを行うなど、活動状況は概ね予定どおり進みました。上記成果実績のとおり、ワーク・ライフ・バランスという言葉は市民に浸透してきましたが、その「内容」について知らない人の割合も62.3%となっており、さらに理解を進める必要があります。
	<b>【経済性】</b> <b>【効率性】</b> の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	行政が単独で実施するのではなく、「北九州市ワーク・ライフ・バランス推進協議会」を中心として、企業・働く人・市民・行政が連携・協働して取り組むことにより、効率的に、それぞれの立場から、地域や個人(家庭)、企業等に直接働きかけています。

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題	上記成果実績のとおり、ワーク・ライフ・バランスという言葉は市民に浸透してきましたが、その「内容」について知らない人の割合が62.3%となっており、成果指標の目標達成のため、市民等の理解をさらに進める必要があります。
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	「北九州市ワーク・ライフ・バランス推進協議会」を中心に、関係機関がさらに連携・協働して、推進キャンペーンやホームページでの広報啓発などに取り組み、地域や個人(家庭)、企業等に直接働きかけてPRしていきます。	子育て中の労働者で仕事と生活の両立が図られていると感じる人の割合の増加等を目指し、ワーク・ライフ・バランスのさらなる浸透を図ります。

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	企業等におけるワーク・ライフ・バランス推進の支援						施策番号
							II-3-(2)-②
<b>コスト</b>	事業費	平成23年度執行額 7,218 千円	平成24年度当初予算額 8,072 千円	人件費 の目安	金額 2,095 千円 (備考)	担当局	子ども家庭局
					課長 0.03 人 職員 0.1 人	担当課	男女共同参画推進課
					係長 0.1 人	課長名	坂井

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価			
<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	誰もが多様な働き方や生き方が選択でき、活力ある豊かな社会を実現するため、企業・働く人・市民・行政で構成された「北九州市ワーク・ライフ・バランス推進協議会」を中心に、ワーク・ライフ・バランスの推進に向けた企業等の取組支援や啓発事業等を行います。			<b>成果実績</b>	男女共同参画社会に関する調査(平成23年度)において、ワーク・ライフ・バランスという言葉の認知度が64%となりました。	
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】	
	子育て中の労働者で仕事と生活の両立が図られていると感じる人の割合	34.3 %	増加	30.3 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	仕事と生活のバランスについて、「希望」と「現実」が一致している人が少なく、個人が望むワーク・ライフ・バランスが実現していないことから成果指標として掲げました。最終目標は、「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 増加(26年度)			-			
	子育て中の労働者で週労働時間60時間以上の雇用者の割合	30.6 %	減少	29.0 %		順調	
子どもと向き合う時間をとれるようにするとともに、子どもの病気など生活上必要なときに対応できるようにするためには、長時間労働の解消が必要であることから成果指標として掲げました。最終目標は、「元気発進！子どもプラン」で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 減少(26年度)	-						

<b>活動計画</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業向け講演会の開催や、アドバイザー派遣などによる企業等に対する働きかけ(一部委託)</li> <li>・従業員向け広報啓発や、出前育児講座の実施などによる個人(家庭)に対する働きかけ(一部委託)</li> <li>・ワーク・ライフ・バランス推進キャンペーンの実施などによる広報啓発事業(一部委託) など</li> </ul>	<b>活動実績</b>	活動の状況は、下記のとおりです。				
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】	
	北九州市ワーク・ライフ・バランス表彰受賞者数	5 社 (人)	同程度	5 社 (人)	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	ワーク・ライフ・バランスに積極的に取り組んでいる企業等を表彰し、事例集等で広く紹介することにより、企業等における取り組みを支援・促進します。			-			
	北九州市ワーク・ライフ・バランス推進アドバイザー派遣回数	15 回	同程度	11 回		順調	
新たにワーク・ライフ・バランスに取り組もうとする事業所等や、その充実を図ろうとする事業所等に対し、アドバイザー(社会保険労務士)を派遣して、その取り組みを支援・促進します。	-						

【Check】評価(分析)		
<b>分析及び課題の整理</b>	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析</p> <p>活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。</p> <p>「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。</p>	<p>「北九州市ワーク・ライフ・バランス推進協議会」を中心として、11月の推進キャンペーンでは、企業向け講演会や「ワーク・ライフ・バランス応援ソング」等を通じてPRを行うなど、活動状況は概ね予定どおり進みました。上記成果実績のとおり、ワーク・ライフ・バランスという「言葉」は市民に浸透してきましたが、その「内容」について知らない人の割合も62.3%となっており、さらに理解を進める必要があります。</p> <p>行政が単独で実施するのではなく、「北九州市ワーク・ライフ・バランス推進協議会」を中心として、企業・働く人・市民・行政が連携・協働して取り組むことにより、効率的に、それぞれの立場から、地域や個人(家庭)、企業等に直接働きかけています。</p>

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入	
<b>見直し状況等</b>	<p>課題</p> <p>上記成果実績のとおり、ワーク・ライフ・バランスという「言葉」は市民に浸透してきましたが、その「内容」について知らない人の割合が62.3%となっており、成果指標の目標達成のため、市民等の理解をさらに進める必要があります。</p> <p>次年度の活動計画(見直し内容)</p> <p style="text-align: right;">その結果目指す成果(次年度の成果目標)</p> <p>「北九州市ワーク・ライフ・バランス推進協議会」を中心に、関係機関がさらに連携・協働して、講演会の開催やアドバイザーの派遣等を実施し、企業等に直接働きかけて取り組みを支援していきます。</p> <p>子育て中の労働者で仕事と生活の両立が図られていると感じる人の割合の増加等を目指し、ワーク・ライフ・バランスのさらなる浸透を図ります。</p>

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	<b>配偶者等からの暴力対策事業</b>						施策番号		
							II-3-(2)-③		
<b>コスト</b>	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額 3,200 千円 (備考)		担当局	子ども家庭局	
		7,508 千円	7,938 千円		課長 0.05 人 職員 0.15 人		担当課	男女共同参画推進課	
					係長 0.15 人		課長名	坂井	

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたのか 男女がともに個人として尊重され、女性に対する暴力等、人権侵害行為のない社会を実現するため、配偶者や恋人等、親しい関係にある人からの暴力について正しく認識し、それぞれの人権を尊重する意識を醸成します。	<b>成果実績</b>	男女共同参画社会に関する調査(平成23年度)において、DV被害の相談窓口として、警察や区役所の認知度が上がりました。
-----------	---	-------------	--

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	やや遅れ	配偶者等との間における「平手で打つ」について、暴力と認識する人の割合	—	100 %	55.2 %	大変順調
DV(配偶者等からの暴力)を根絶するためには、暴力に関する正しい認識の周知・啓発が不可欠であると考えます。最終目標は「男女共同参画基本計画(第2次)で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 100%(25年度)		—	100 %	55.2 %		
配偶者等との間における「殴るふりをしておどす」について、暴力と認識する人の割合		—	100 %	57.9 %	やや遅れ 遅れ	やや遅れ 遅れ
DV(配偶者等からの暴力)を根絶するためには、暴力に関する正しい認識の周知・啓発が不可欠であると考えます。最終目標は「男女共同参画基本計画(第2次)で設定したものです。 (最終目標と目標年度) 100%(25年度)		—	100 %	57.9 %		

<b>活動計画</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・啓発リーフレットの作成・配布(一部委託)</li> <li>・NPO等との協働による出前講演など、地域・学校等におけるDV対策広報啓発事業の実施(一部補助・一部委託)</li> <li>・DV対策関係機関連絡会議の開催(市が直接実施)</li> <li>・DV相談業務(配偶者暴力相談支援センター、ムーブ等)等によるDV被害者支援(一部委託)</li> </ul>	<b>活動実績</b>	活動の状況は、下記のとおりです。
-------------	--	-------------	------------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	順調	DV・デートDVの予防啓発に関する出前講演等の実施回数	20 回	増加	45 回	大変順調
NPO等との協働やムーブ主催の出前講演等により、地域・学校等におけるDVに対する正しい理解を深め、潜在しているDV被害者の支援に努めます。		—	—	—		
DV・デートDVの予防啓発に関する出前講演等の参加者数		1,988 人	増加	5,904 人	やや遅れ 遅れ	順調
NPO等との協働やムーブ主催の出前講演等により、地域・学校等におけるDVに対する正しい理解を深め、潜在しているDV被害者の支援に努めます。		—	—	—		

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	DV相談窓口紹介カード等を公共施設等に配布したり、NPO等と連携して地域や学校等で出前講演を開催するなど、DV対策啓発事業を実施しました。また、DV被害者支援のため、警察など関係機関との連絡会議を開催して情報を共有するとともに、相互に連携を図りながらDV相談業務を行うなど、概ね計画どおり実施しました。配偶者等からの暴力に関する正しい認識の促進を引き続き図るため、今年度は特に、若年層を対象としたデートDV予防啓発を重点的に実施し、出前講演実施後のアンケートからも、成果が上がったことがうかがえました。
	<b>「経済性」</b> <b>「効率性」</b> の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	指定管理者やNPO等と連携を図って出前講演等を実施するなど、経済性・効率性は高いと考えます。また、地域で活動するファシリテーター等のスキルアップを図りながら、さらに効果的な啓発に努めます。

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題 男女共同参画社会に関する調査(平成23年度)において、DV被害の相談窓口として、警察や区役所の認知度が上がりましたが、配偶者等との間における「平手で打つ」「殴るふりをしておどす」について、暴力と認識する人の割合は増加していません。今後も、DVに関する正しい認識について、さらなる周知・啓発が必要です。	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	次年度の活動計画(見直し内容) 指定管理者やNPO等との連携を図り、DV・デートDVの予防啓発に関する出前講演等を地域や学校等において実施します。また、関係機関と連携して、配偶者暴力相談支援センター等におけるDV相談業務を実施し、DV被害者の支援を行います。	配偶者等との間における「平手で打つ」「殴るふりをしておどす」などについて、暴力と認識する人の割合の増加を目指します。

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	企業等におけるワーク・ライフ・バランス推進の支援						施策番号
							Ⅲ-3-(3)-③
<b>コスト</b>	事業費	平成23年度執行額 7,218 千円	平成24年度当初予算額 8,072 千円	人件費 の目安	金額 2,095 千円 課長 0.03 人 職員 0.1 人 係長 0.1 人	(備考)	担当局 子ども家庭局
							担当課 男女共同参画推進課

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	誰もが多様な働き方や生き方が選択でき、活力ある豊かな社会を実現するため、企業・働く人・市民・行政で構成された「北九州市ワーク・ライフ・バランス推進協議会」を中心に、ワーク・ライフ・バランスの推進に向けた企業等の取組支援や啓発事業等を行います。	<b>成果実績</b>	男女共同参画社会に関する調査(平成23年度)において、ワーク・ライフ・バランスという言葉の認知度が64%となりました。
-----------	---------------------	---	-------------	---

	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
<b>代表的な成果指標</b>	企業等の地域活動への参加促進	—	—	—	大変 順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	ワーク・ライフ・バランスを推進することにより、従業員の地域・ボランティア活動及び企業等の地域活動への参加促進を目指します。活動が多岐にわたることなどから参加状況を数値化することは難しい状況です。 (最終目標と目標年度) —			—		
	(最終目標と目標年度)			遅れ		

<b>活動計画</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業向け講演会の開催や、アドバイザー派遣などによる企業等に対する働きかけ(一部委託)</li> <li>従業員向け広報啓発や、出前育児講座の実施などによる個人(家庭)に対する働きかけ(一部委託)</li> <li>ワーク・ライフ・バランス推進キャンペーンの実施などによる広報啓発事業(一部委託) など</li> </ul>	<b>活動実績</b>	活動の状況は、下記のとおりです。
-------------	--	-------------	------------------

	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
<b>活動指標</b>	北九州市ワーク・ライフ・バランス表彰受賞者数	5 社 (人)	同程度	5 社 (人)	大変 順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	ワーク・ライフ・バランスに積極的に取り組んでいる企業等を表彰し、事例集等で広く紹介することにより、企業等における取り組みを支援・促進します。			—		
	北九州市ワーク・ライフ・バランス推進アドバイザー派遣回数			11 回		
	新たにワーク・ライフ・バランスに取り組もうとする事業所等や、その充実を図ろうとする事業所等に対し、アドバイザー(社会保険労務士)を派遣して、その取り組みを支援・促進します。	15 回	同程度	—	遅れ	順調

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析</p> <p>「経済性」 「効率性」 の分析</p>	<p>活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。</p> <p>「北九州市ワーク・ライフ・バランス推進協議会」を中心として、11月の推進キャンペーンでは、企業向け講演会や「ワーク・ライフ・バランス応援ソング」等を通じてPRを行うなど、活動状況は概ね予定どおり進みました。上記成果実績のとおり、ワーク・ライフ・バランスという「言葉」は市民に浸透してきましたが、その「内容」について知らない人の割合も62.3%となっており、さらに理解を進める必要があります。</p> <p>「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。</p> <p>行政が単独で実施するのではなく、「北九州市ワーク・ライフ・バランス推進協議会」を中心として、企業・働く人・市民・行政が連携・協働して取り組むことにより、効率的に、それぞれの立場から、地域や個人(家庭)、企業等に直接働きかけています。</p>
------------------	---	---

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	<p>課題</p> <p>上記成果実績のとおり、ワーク・ライフ・バランスという「言葉」は市民に浸透してきましたが、その「内容」について知らない人の割合が62.3%となっており、成果指標の目標達成のため、市民等の理解をさらに進める必要があります。</p> <p>次年度の活動計画(見直し内容)</p> <p>「北九州市ワーク・ライフ・バランス推進協議会」を中心に、関係機関がさらに連携・協働して、講演会の開催やアドバイザーの派遣等を実施し、企業等に直接働きかけて取り組みを支援していきます。</p>	<p>その結果目指す成果(次年度の成果目標)</p> <p>子育て中の労働者で仕事と生活の両立が図られていると感じる人の割合の増加等を目指し、ワーク・ライフ・バランスのさらなる浸透を図ります。</p>
---------------	--	--

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	女性のキャリアアップ・キャリア形成等への支援						施策番号
							IV-3-(2)-②
<b>コスト</b>	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	1,105 千円 (備考)	担当局
		33,043 千円	36,441 千円		課長	0.02 人 職員 0.05 人	子ども家庭局
					係長	0.05 人	担当課
							男女共同参画推進課
						課長名	坂井

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたのか 男女共同参画センター・ムーブ及び東部・西部勤労婦人センター・レディスにおいて、就職・再就職を目指すあらゆる世代の女性のキャリアアップ、キャリア形成を図り、働く場における女性の活躍を支援します。	<b>成果実績</b>	
-----------	--	-------------	--

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
		効果的な講座を地域密着で開催し、多くの方に受講していただき、就職・再就職への契機となるよう取り組みます。参考となる数値について、今後検討していきます。	-	-	-	
					大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

<b>活動計画</b>	男女共同参画センター・ムーブ及び勤労婦人センター・レディスにおいて、就職・再就職を目指すあらゆる世代の女性のキャリアアップ、キャリア形成の支援を行います。(指定管理委託)	<b>活動実績</b>	活動結果は下記のとおりです。
-------------	---	-------------	----------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
		男女共同参画センター及び勤労婦人センターでの就業支援講座開催数 就職・再就職を目指すあらゆる世代の女性のキャリアアップ、キャリア形成の支援を行うため、男女共同参画センター・ムーブ及び勤労婦人センター・レディスにおいて就業支援講座を開催します。	155 講座	同程度	157 講座 -	
	男女共同参画センター及び勤労婦人センターでの就業支援講座受講者数 就職・再就職を目指すあらゆる世代の女性のキャリアアップ、キャリア形成の支援を行うため、男女共同参画センター・ムーブ及び勤労婦人センター・レディスにおいて就業支援講座を開催します。	6,978 人	同程度	8,319 人	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析  <b>「経済性」</b> <b>「効率性」</b> の分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。  「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	受講者数が増加するなど、活動・成果ともに、ほぼ計画どおり行いました。  ムーブ及びレディスの運営については指定管理者制度を導入し、3館で課題の共有や情報交換などを行うことで、効率的な事業実施に努めています。
------------------	--	---	---

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題  女性のキャリアアップ・キャリア形成等への支援など働く場における女性の活躍を推進する施策は、今後、ますます重要になると考えられ、より充実した施策を検討し、着実な取組を進めていくことに努力します。  次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)  就職・再就職を目指す女性のニーズにマッチした特色あるより充実した講座を開催し、多くの意欲のある方に受講していただき、働く場において女性が能力を十分に発揮し活躍できることを目指します。
---------------	---	--

## PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

<b>事業名</b>	財団法人アジア女性交流・研究フォーラム事業						施策番号
							VII-1-(3)-③
<b>コスト</b>	事業費	平成23年度執行額 73,109 千円	平成24年度当初予算額 81,125 千円	人件費 の目安	金額 790 千円 課長 0.01 人 職員 0.05 人 係長 0.03 人	(備考)	担当局 子ども家庭局
							担当課 男女共同参画推進課
							課長名 坂井

### 【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

<b>目的</b>	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	日本及びアジア諸国の男女共同参画に関する調査・研究、国際交流・研修、情報収集・発信等を行う(財)アジア女性交流・研究フォーラムの活動を支援し、本市における男女共同参画社会の形成を推進します。	<b>成果実績</b>	下記の代表的な成果指標のとおりです。		
<b>代表的な成果指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	市民が国際的な見地から男女共同参画の推進の必要性を認識する状態	—	—	—	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	ひとりでも多くの市民に、男女共同参画社会の推進の必要性を認識していただけるよう取り組みます。数値で示すことは難しいですが、参考指標を検討したいと考えています。	—	—	—		順調

<b>活動計画</b>	日本及びアジア諸国の男女共同参画に関する調査・研究事業、国際交流・研修事業、情報収集・発信事業を実施します。(補助事業)	<b>活動実績</b>	仁川発展研究院との交流協力協定の締結を実現しました。			
<b>活動指標</b>	<b>指標</b> (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	アジア女性会議の効果的な開催	—	維持	—	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	男女共同参画などの視点に立って本市とアジアを結ぶ交流等の場である「アジア女性会議—北九州」について、市内外及び海外からの参加を通じて国際交流の拡充を図ります。	—	維持	—		順調
	海外関係機関との交流の充実					
海外のジェンダー関連組織に共通する課題の解決に向けた恒常的な海外ネットワークの形成を目指し、共同セミナーの開催や協定の締結など、交流の機会を設けます。	—	維持	—			

### 【Check】評価(分析)

<b>分析及び課題の整理</b>	<b>【成果の状況】</b> <b>【活動の状況】</b> を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	「アジア女性会議」では、国内外の専門家やパネリストによる講演・ディスカッションを開催して、幅広い層の市民に向けて、男女共同参画の取組みの必要性について学ぶ機会を提供しました。また、韓国・仁川発展研究院と交流協力協定を締結し、今後の交流について協議しました。
	<b>「経済性」</b> <b>「効率性」</b> の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	これまで培ってきたネットワークを生かして、低いコストで専門家を招聘するなど、様々な視点から、コスト削減・効率化に努めています。

以下、予算案作成時に記入

### 【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

<b>見直し状況等</b>	課題  幅広い市民の参加、理解を図るため、市民の視点やニーズに合ったテーマを設定した講演会やセミナーを開催することが必要であると考えます。また、国際的な調査研究事業等を含めた活動成果を、できるだけわかりやすい形で、市民や地域へ情報発信していくことが重要であると思います。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	アジア地域をはじめとした女性の地位向上と各国との連携・発展、さらには活力ある男女共同参画社会の形成に寄与することを目指した取組を継続します。	アジア地域を中心に世界的女性問題に関する調査研究や情報の収集・発信と女性の地位向上を図るための国際交流等の推進を図ります。